

SYLLABUS

2025 年度 春学期

2年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ	
アカデミック・コミュニケーションシックス		English Presentation I	注 1	(2)	選必	香取 真理	1
		Public Speaking I		(2)	選必	エシアナ ベネス	4
		Writing as a Social Act I		(2)	選必	小野寺 進	8
						成田 芙美	11
		Essay Writing I		(2)	選必	香取 真理	14
						丹藤 永也	17
		Active Reading Business Genres I		(2)	選必	成田 芙美	20
						堀江 洋文	23
		English Grammar and Usage I		(2)	選必	香取 真理	26
		Intercultural Reading		(2)	選必	堀江 洋文	29
		Understanding Business Meeting	(2)	選必	堀江 洋文	32	
		ロシア語会話	(2)	選択	トルストグーゾフ.A	35	
		韓国語会話	(2)	選択	李 恵慶	38	
		中国語会話	(2)	選択	呉 蘭	41	
	プレゼンテーション	(2)	選択	植田 栄子	44		
教養科目		哲学 I	(2)	選必	大森 史博	47	
		人間の歴史	(2)	選必	荷見 守義	50	
		憲法概論	(2)	選必	小林 直樹	54	
		地球科学	(2)	選必	三浦 英樹	57	
		宇宙科学	(2)	選必	葛西 真寿	60	
		健康と医療	(2)	選必	【秋学期開講】	－	
		科学技術と社会 I	(2)	選必	本田 明弘	63	
		教養特殊講義 I	(2)	選択	横手 一彦	66	
		名著講読演習	(4)	選必	大森 史博	69	
	小林 直樹				71		
	下村 育世				73		
	横手 一彦				75		
	キャリア教育科目		自治行政政策論	(1)	選必	青森県職員 ほか	77
			事業論 I	(1)	選必	辻本 泰之	78
専門科目	経営学科	経営戦略論 II	(2)	選必	小松原 聡	80	
		マネジメント論 II	(2)	選必	中川 宗人	84	
		財務会計論 II	(2)	選必	金子 輝雄	87	
		マーケティング論 I	(2)	選必	行本 雅	90	
		人事管理論 I	(2)	選必	中川 宗人	93	
		管理会計論 I	(2)	選必	王 聖書	96	
		財務分析 I	(2)	選必	長谷川 美千留	99	
		経営史	(2)	選択	【秋学期開講】	－	
		市場調査論	(2)	選択	行本 雅	102	
		マクロ経済学 【他学科展開科目】	(4)	選択	今 喜典	105	
		財政学 【他学科展開科目】	(4)	選択	木立 力	109	

目 次

科目群	授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	経済学科	マクロ経済学	④ 必修	今 喜典	105
		統計学	(4) 選必	七宮 圭	113
		応用ミクロ経済学	(4) 選必	河野 秀孝	117
		財政学	(4) 選必	木立 力	109
		経済特殊講義Ⅰ	(2) 選択	高柳 友彦	122
		ゲーム論	(2) 選択	橋本 悟	125
		財務会計論Ⅱ 【他学科展開科目】	(2) 選択	金子 輝雄	87
		マーケティング論Ⅰ【他学科展開科目】	(2) 選択	行本 雅	90
		管理会計論Ⅰ 【他学科展開科目】	(2) 選択	王 聖書	96
		財務分析Ⅰ 【他学科展開科目】	(2) 選択	長谷川 美千留	99
	地域 みらい 学科	経済学基礎論a	④ 必修	樺 克裕・黄 年宏	128
		会計学基礎論a	④ 必修	池田 享誉	132
		地域企業論Ⅰ	(2) 選必	生田 泰亮	136
		自治体経営論	(2) 選必	昆 忠彦	139
		地域社会論Ⅰ	(2) 選必	佐々木 てる	142
		マーケティング論Ⅰ【他学科基幹科目】	(2) 選必	行本 雅	90
		経営戦略論Ⅱ 【他学科基幹科目】	(2) 選必	小松原 聡	80
		マネジメント論Ⅱ 【他学科基幹科目】	(2) 選必	中川 宗人	84

【注1】自分が履修するクラスの担当教員ページを確認してください。

2020年度及び2021年度入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生)

(1)「財務会計論(4単位)」の履修について

①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。

②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。

③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。

④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「管理会計論(4単位)」の履修について

①春学期開講の「管理会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。

②秋学期開講の「管理会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。

③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。

④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

目 次

2019年度以前入学生へ(学籍番号の上位4桁が「1180～」 「1190～」で始まる学生)

(1)「科学技術と社会(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「科学技術と社会Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「科学技術と社会Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(2)「金融経済学(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「金融経済学Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「金融経済学Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(3)「財務会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「財務会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「財務会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(4)「管理会計論(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「管理会計論Ⅰ(2単位)」を履修登録してください。
- ②秋学期開講の「管理会計論Ⅱ(2単位)」を履修登録してください。
- ③春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

(5)「哲学Ⅰ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「哲学」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「哲学Ⅰ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(6)「地球の科学(4単位)」の履修について

- ①春学期開講の「地球科学」と「宇宙科学」の両方を履修登録すること。
- ②「地球科学」と「宇宙科学」を総合して成績評価を行う。
- ③成績評価は同一年度・同一学期内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
※片方のみを履修しても、評価の対象にはなりません。

(7)「Public SpeakingⅠ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Public Speaking and InteractionⅠ」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Public SpeakingⅠ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(8)「Essay WritingⅠ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Academic WritingⅠ」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Essay WritingⅠ」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

(9)「Intercultural Reading」は、2019年度以前入学生カリキュラム「Business Communication Across Cultures」の読替科目です。当該科目の単位を修得済みの学生が「Intercultural Reading」を履修する場合は「再履修」の扱いとなります。

〔科目名〕 English Presentation I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 ACB	
〔担当者〕 香取 真理		〔オフィス・アワー〕 時間： 授業の開始時に提示 場所： 606 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 English Presentation I is intended for low-intermediate students and focuses on giving presentations about everyday experiences. The aim of this course is to offer students an opportunity to develop the important life skill of speaking clearly and effectively about a topic of interest to an audience. Through this course, student can learn and practice some effective ways to give English presentations. Additionally, this course also covers other issues like body language, visuals, specific structures and how to describe graphs or charts. During this course, every student should give short English presentations usually five times. 初中級レベルの英語学習者を対象に、日々の事柄をトピックとし、英語でのプレゼンテーションを実践します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 In our globalized world, effective English presentation skills are becoming increasingly important for success – academically, professionally, socially, and personally. Whether in a classroom or a conference room, the ability to compose and convey a message clearly and persuasively to an audience of people in English can be a key to success. Nowadays, even in Japan, in some companies, it is also becoming natural to have to give presentations in English. For student, making a presentation in English might be difficult. However, learning and practicing the effective way to give presentations in this course, student will acquire and build their skills and confidence to present successfully. It will help student’s further growth in both English and Japanese presentations. プレゼンテーションのストラクチャーや、効果的な表現技法を学ぶことにより、英語能力だけでなく、将来的にも役に立つ発信のためのスキルを学びます。							
〔科目の到達目標〕 The emphasis of this course is providing students with the skill to give presentations effectively in English. At the end of this course, students should be able to make an effective English presentation as a low- intermediate English learner.							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The various components of this course will be introduced, based on the student’s progress in class.							
〔教科書〕 Present Yourself 1(second edition), by Steven Gershon 著 Cambridge University Press 978-1-107-43563-6							
〔指定図書〕 to be announced							
〔参考書〕 to be announced							

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students will be graded on participation, reports, presentations, and examination results. A=80% or more, B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1. During this course, students should give English presentations. 2. Students should come to every class with energy and a willingness to work and learn. The teacher has much to share with you and offer you ample opportunities for practice and will try best to help you gain confidence and competence to make an effective English presentation.	
〔実務経歴〕	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : Course orientation 内 容: introduction : opening a presentation 教科書・指定図書 Introduction & Unit “Getting ready”
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : Making effective note card. 内 容: Describing a friend’s personality, interests, and activities 教科書・指定図書 Unit 1
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : Using eye contact to connect with an audience 内 容: Completing an activities survey about classmates 教科書・指定図書 Unit 1
第 4 回	テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: Talking about your friend 教科書・指定図書 Unit 1
第 5 回	テーマ(何を学ぶか) : Making gestures for descriptions 内 容: Talking about favorite places 教科書・指定図書 Unit 2
第 6 回	テーマ(何を学ぶか) : Using body language, posture and hand position 内 容: Talking about activities people do in their favorite places 教科書・指定図書 Unit 2
第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容: My favorite place 教科書・指定図書 Unit 2

第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : Showing an object to an audience 内 容 : Describing prized possession 教科書・指定図書 Unit 3
第 9 回	テーマ(何を学ぶか) : Using-show-and-tell expressions 内 容 : Explaining the history and use of a possession 教科書・指定図書 Unit 3
第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容 : My prized possession 教科書・指定図書 Unit 3
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Projecting your voice, speaking clearly and avoiding fillers 内 容 : Describing a memorable experience 教科書・指定図書 Unit 4
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Using stress to emphasize intensifiers 内 容 : Setting the scene and using time expressions to describe an experience 教科書・指定図書 Unit 4
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : Giving a short presentation 内 容 : My memorable experience 教科書・指定図書 Unit 4
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Making gestures for actions 内 容 : Demonstration how to do or make something 教科書・指定図書 Unit 5
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Checking understanding when giving instructions 内 容 : Presenting the materials you need and giving instructions 教科書・指定図書 Unit 5
試 験	Final exam

[科目名] Public Speaking I				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス																																									
[担当者] Dr. Benneth Esiana		[オフィス・アワー] 時間: to be confirmed 場所: 602				[授業の方法] 講義, 実習																																									
[科目の概要] The module provides a step-by-step guide to oral communication in English, by familiarising students with the various processes of speech preparation, from selection of topic and purpose, speech composition to eventual delivery of speech. It uses a communicative, task-based approach to guide learners to apply theoretical principles in practical settings in order to develop hands-on experience. During the course of the module, students will work individually, in pairs, and in groups, as dictated by the nature of the activity, to complete meaningful exercises and tasks. <i>Please be advised that the module is taught primarily in English, with some inputs in Japanese.</i>																																															
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Proficiency in public speaking/presentation is an indispensable skill in this day and age, given its wide-ranging applications in personal, professional, and social/public settings. Students will develop a better understanding of topics for presentation, types of speeches, developing content and structure. In addition, students will learn that public speaking is not simply a one-way sharing of information but a two-way reciprocal exchange of information where both the speaker and audience are equally involved.																																															
[科目の到達目標] Throughout this module, students will observe improvements in their communication skill in English, and by the end of the course, they should be able to prepare and deliver a speech/presentation on their desired topic, be able to engage the audience, overcome speech anxiety, and boost their self-confidence in public speaking.																																															
<table><tr><td>A</td><td>80点以上</td><td>秀</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している</td></tr><tr><td>B</td><td>70点以上80点未満</td><td>優</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している</td></tr><tr><td>C</td><td>60点以上70点未満</td><td>良</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している</td></tr><tr><td>D</td><td>50点以上60点未満</td><td>可</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している</td></tr><tr><td>F</td><td>50点未満</td><td>不可</td><td colspan="5">当該科目で定められた到達目標を、達成していない</td></tr></table>								A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している					B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している					C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している					D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している					F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない				
A	80点以上	秀	当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している																																												
B	70点以上80点未満	優	当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している																																												
C	60点以上70点未満	良	当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している																																												
D	50点以上60点未満	可	当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している																																												
F	50点未満	不可	当該科目で定められた到達目標を、達成していない																																												
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]																																															
学部				学科																																											
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																																									
		○																																													
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The module is taught at a pace complementary with students’ ability and progress. The instructor will support students, making sure that they, regardless of their skill/ability, will be able to improve in one form or another.																																															

〔教科書〕 Dynamic Presentations, by Michael Hood, Kinseido, ISBN: 978-4-7647-4156-0	
〔指定図書〕 Not applicable	
〔参考書〕 Not applicable	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students will be assessed through the following methods: - Mandatory speeches - Mandatory test(s) - In-class activities (e.g., short presentations/speeches) - Final project (presentation/speech) - Others (attendance)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 - Students are expected to attend class with the desire to learn. - They must actively participate in all aspects of the lesson. - An expectation for students to complete all assigned tasks, assessed or otherwise, in class or at home (self-study)	
〔実務経歴〕	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Module Orientation & Unit 1: Identifying purpose I 内 容: - Module Outline - Importance of Public Speaking skills - Speech Outline 教科書・指定図書 Unit 1a: Good speeches, good speakers
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Identifying purpose II 内 容: - Speech Outline - Pronunciation & Intonation - Grammar: Simple Present Verb Form 教科書・指定図書 Unit 1b: Good speeches, good speakers
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Making Eye Contact 内 容: - Elements of Introduction - Self Introduction – Describing - Stress for Clarity - Grammar: Present Progressive Verb Form

	教科書・指定図書 Unit 2: Introduce Yourself
第 4 回	- テーマ(何を学ぶか) : Maintaining Posture I 内 容: - Descriptive Details - Introducing Others – Describing - Stress for Clarity - Grammar: Modals for Advice & Ability 教科書・指定図書 Unit 3a: Someone You Should Know
第 5 回	- テーマ(何を学ぶか) : Maintaining Posture II 内 容: - Stress for Clarity - Grammar: Modals for Advice & Ability 教科書・指定図書 Unit 3b: Someone You Should Know
第 6 回	- テーマ(何を学ぶか) : Using Gestures 内 容: - Brainstorming & Clustering - Talking About Places - Describing - Stress for Meaning - Grammar: Present Perfect Verb Form 教科書・指定図書 Unit 4: Have You Ever Been There
第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Enunciating I 内 容: - Transitions & Connectors - Talking About Process - Explaining - Tongue Twisters - Vocabulary Builder: Strong Adjectives 教科書・指定図書 Unit 5a: How to Make a Spectacular Dish
第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Enunciating II 内 容: - Tongue Twisters - Vocabulary Builder: Strong Adjective 教科書・指定図書 Unit 5b: How to Make a Spectacular Dish
第 9 回	- テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Projecting 内 容: - Audience Analysis - Talking About the Past - Informing - Intonation Practise: Listing - Grammar: Past Progressive Verb Form 教科書・指定図書 Unit 6: Let Me Tell You What Happened

第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Pacing I 内 容: - Selecting Details - Type of Statements: Facts & Opinions - Talking About Current Events - Informing - Stress for Clarity - Grammar: Simple Connecting Words 教科書・指定図書 Unit 7a: In the World Today
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Pacing II 内 容: - Stress for Clarity - Grammar: Simple Connecting Words 教科書・指定図書 Unit 7b: In the World Today
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Using Your Voice: Expressing Yourself 内 容: - Explaining Causes - Stress for Emphasis - Grammar: Structures for Cause & Effect 教科書・指定図書 Unit 8: Cause and Consequences
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : Rhetorical Strategy: Repetition I 内 容: - Explaining Reasons - Future Plans - Explaining - Stress for Clarity - Grammar: Expressing Future Time 教科書・指定図書 Unit 9a: What Dreams May Come
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Rhetorical Strategy: Repetition II 内 容: - Stress for Clarity - Grammar: Expressing Future Time 教科書・指定図書 Unit 9b: What Dreams May Come
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Unit Review & Final Project 内 容: - Unit 1 – 9 Review - Student Final Evaluation: Presentation/speech 教科書・指定図書: Review & Final Project
試 験	No final examination (なし)

[科目名] Writing as a Social Act I				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモンベ ーシックス	
[担当者] Susumu Onodera 小野寺 進		[オフィス・アワー] 時間: 場所:				[授業の方法] 演習	
[科目の概要] The purpose of this course is to enhance students’ writing abilities of English and to build up specific English vocabulary and phrases that will help them in their working lives after graduation. Students will practice how to write English sentences and paragraphs. The goal of the class is to facilitate English improvement while generating student enthusiasm.							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is one of the most important skills for learning English. Improving your writing skill will serve to develop your English abilities. Active writing is necessary for students who would like to present their opinions and thoughts to customers and clients. Through this writing course, students are able to practice reading skill.							
[科目の到達目標] The goal of this course is to enhance students’ basic writing abilities. Besides, students will build up their vocabulary in English and acquire its related knowledge.							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will make an effort to meet the students’ needs, based on their progress in class.							
[教科書] 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing). 山内信幸、赤楚浩之、北林利治共著、英宝社 (ISBN-1921082019003)							
[指定図書] To be announced.							
[参考書] To be announced.							
[前提科目] なし							
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) Students will be graded only on the score of assignments and end-of-term examination results.							
[教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望] The teacher has to do his best to offer students wonderful opportunities for develop their English skills and to give them confidence in writing English. Students should attend every class with preparation for a unit.							

〔実務経歴〕	
該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : Course orientation and introduction 内 容: 第1章英文をうまく組み立てるには? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第2章動詞に注目してみると? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第3章時間を点としてとらえる表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第4章時間を線としてとらえる表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第5章動詞の働きをになう表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 6 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第6章動詞と名詞の働きをになう表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第7章形容詞と副詞の働きをになう表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第8章動詞に味付けをほどこす表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 9 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第9章視点を換える表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第10章仮定の表現は? 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through

	Composition to Paragraph Writing)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第11章スペースを加える表現は？ 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第12章比べる表現は？ 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第13章文をつなげる表現は？ 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 第14章ヴァリエーションを増やす表現は？ 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing English 内 容: 英語特有の表現は？ 教科書・指定図書: 文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ (From Grammar through Composition to Paragraph Writing)
試 験	Examination: Writing English Sentences and Paragraph.

〔科目名〕 Writing as a Social Act I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 成田 芙美 Narita Fumi		〔オフィス・アワー〕 時間： to be announced 場所： Room 609				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 This course helps students to further improve in writing skills. Students are expected to write as many correct English sentences as they can on familiar topics. In each class, they will learn many practical words and phrases through the model sentences in the text. Exercises in composition will also help them. Then they will be required to write about their daily lives. Interactive activities, both among students and between teacher and students, will often be encouraged.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 For better communication in an international society, it is a great advantage to develop clear English writing skills. With the successful use of these skills, students can make themselves understood in written English. Practice in writing skills also encourages the well-balanced development of students' English ability. In-class activities will prepare students for writing in various situations, helping to make them more confident of their writing skills.							
〔科目の到達目標〕 Students are expected to be able: 1. to increase vocabulary 2. to use correct English to make themselves understood more clearly 3. to write about themselves more fluently.							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their writing ability. These needs and the students' progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.							
〔教科書〕 Hiroyuki Tomi, Gordon Bateson, <i>English Writing Using Everyday Expressions: A Practical Approach to Understanding English Sentence Structure</i> (Asahi Press, 2008) ISBN: 978-4-255-15456-5							
〔指定図書〕 None							

〔参考書〕 To be announced when and if it is necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based primarily on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. In addition, extra points may be awarded for the completion of optional tasks	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students who practice the following can expect higher grades. 1. Prepare for every class by determining the areas one finds difficult to understand, and thus be able to ask the teacher or other students useful questions during class. 2. Attend every class. Assignments and tests will be completed during class sessions. 3. Revise after class the words and phrases one has learned. Students must bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries to class for use in assignments.	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : Orientation / Composition on Weather and Climate 内 容: What is the aim of this course? What will you write? What is important or necessary in this class? 教科書・指定図書 Chapter 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : Composition on Weather and Climate / on Daily Life 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapters 1-2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : Composition on Daily Life 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 2
第 4 回	テーマ(何を学ぶか) : Composition on Campus Life 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 3
第 5 回	テーマ(何を学ぶか) : Composition on Campus Life / on Music 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapters 3-4
第 6 回	テーマ(何を学ぶか) : Composition on Music 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 4

第 7 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Studies 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 5
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Studies / on Newspapers and Magazines 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapters 5-6
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Newspapers and Magazines 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 6
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Shopping 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 7
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Shopping / on Eating Out 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapters 7-8
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Eating Out 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 8
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Sports and Watching Sporting Events 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 9
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Sports and Watching Sporting Events / on Computers 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapters 9-10
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Composition on Computers 内 容: Learn from the models, write sentences, do self-correction and get feedback. 教科書・指定図書 Chapter 10
試 験	Final task: Report on your performance

[科目名] Essay Writing I (エッセイ ライティング I)				[単位数] 2 単位		[科目区分] ACB	
[担当者] 香取 真理		[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: #606			[授業の方法] 講義		
[科目の概要] Essay writing in English may be different not only from essay writing in Japanese, but even from other writing in English. This course is designed to take college-level students with an intermediate ability in English as a foreign language from paragraph writing through essay writing. During this course, students will have many opportunities to learn how to organize topics, write cohesive paragraphs, and organize them into clear, logical expository compositions. The focus throughout is on academic writing — the type of writing used in college courses and exams in English-speaking institutions of higher learning. この授業では、英文パラグラフの構造を学び、paragraph writing から Essay writing へ繋がります。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Writing is a skill and a particularly important part of studying English. The more you practice, the better you will be. During this course, students will have opportunities to study and discuss examples of English academic writing. Students will also have many opportunities to discuss their own writing and the writing of their classmates. Additionally, students will learn how important the reader is to the writer and how to express clearly and directly what you mean to communicate. Although this is a writing course, students practice their reading and analytical skills as they progress through this course. 英文パラグラフやエッセイの構造を知ること、リーディングにも役立ちます。また多くの英文エッセイ・レポートに触れることにより、分析力の向上にも繋がります。							
[科目の到達目標] At the end of this course, students should be able to write a structured essay in English.							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The various components of this course will be introduced, based on the student's progress in class.							
[教科書] Writing Accelerator, 静 哲人 著 株式会社 松柏社 978-4-88198-790-2							
[指定図書] to be announced							
[参考書] to be announced							
[前提科目] なし							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Students will be graded on attendance, participation, quizzes, reports, and final exam. Additionally, students are expected to produce original essays. Simply copying examples will not result in a passing grade. A=80% or more, B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1. Students should come to every class with energy and a willingness to work and learn. 2. Students should hand in every report and essay. The teacher offers you ample opportunities for practice and will try best to help you gain confidence in writing academic prose.	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation 内 容: introduction : A paragraph as a product 教科書・指定図書 Introduction & Unit 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Learning about a paragraph 内 容: Writing a topic sentence 教科書・指定図書 Unit 2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Learning about a paragraph 内 容: Writing support sentences 教科書・指定図書 Unit 3
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Learning about a paragraph 内 容: Writing a concluding sentence 教科書・指定図書 Unit 4
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Learning about a paragraph 内 容: The process of paragraph writing 教科書・指定図書 pp. 27-34
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Writing in a paragraph format 内 容: Describing your favorite place 教科書・指定図書 Unit 5
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): Writing in a paragraph format 内 容: Describing your passion 教科書・指定図書 Unit 6

第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Expressing an opinion 教科書・指定図書 Unit 7
第 9 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Giving advice and instructions 教科書・指定図書 Unit 8
第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Comparing and contrasting 教科書・指定図書 Unit 9
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Explaining Japanese culture 教科書・指定図書 Unit 10
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Narrating past event 教科書・指定図書 Unit 11
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Describing data expressed in graphs (1) 教科書・指定図書 Unit 12
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Writing in a paragraph format 内 容: Describing data expressed in graphs (2) 教科書・指定図書 Unit 12
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Academic writing 内 容: APA style 教科書・指定図書 Unit 5~12
試 験	Final exam

[科目名] Essay Writing I				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモンベ ーシックス	
[担当者] 丹藤 永也 TANDO Hisaya			[オフィス・アワー] 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 621			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] This course is designed for intermediate and upper-intermediate students who hope to build a solid writing ability through essay-writing. At the beginning of the course students are going to review the elements of good paragraph writing and then learn key notions of various types of essays. Finally, students will be given opportunities to write their own essays on a range of topics. By the end of the course, students will acquire how to write good essays in a coherent and articulate way.							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] Learning essay writing is an essential skill on not only university research but also modern business situations. Indeed, with changes in information technology written communication has been used more than ever before. To master rhetoric, grammar, paragraph organization, and mechanics with writing process will lead students to good English writers. Writing ability acquired through essay –writing in this course will be surely useful in laying out ideas coherently on academic papers, reports, presentations, and so on.							
[科目の到達目標] By the end of this course, students will be able to write a structured essay in English. A (80 points or above): Students who have acquired the ability to write essays at an outstanding level B (70 to 79 points): Students who have acquired the ability to write essays at a superior level C (60 to 69 points): Students who have acquired the ability to write essays at a satisfactory level, though with some mistakes D (50 to 59 points): Students who have acquired the ability to write essays at a minimal level F (Below 50 points): Students who are unable to write essays at a minimal level							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The improvements of this course are below: 1. The teacher should proceed classes at an appropriate pace to encourage students understanding of the classes. 2. The teacher should solve students’ problem and advise them both in class and through office hour. 3. The teacher should give students feedback to improve students’ English ability.							
[教科書] Skills for better Writing (Basic), by Yumiko Ishitani, NAN’UN-DO (南雲堂), ISBN 978-4-523-17911-5							
[指定図書] To be announced							

〔参考書〕 To be announced	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Daily class performance: 50% (This may include writing activities, quizzes, homework, reports, attendance, and so on.) Final Test: 50% (In addition to the above, some points will be added when you submit a certificate of Really English.)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <u>Four Important Rules</u> 1. Preview and review every class. 2. Attend every class and don't be late. 3. Hand in every homework assignment. 4. Make sure to bring your dictionaries (English-Japanese and Japanese-English) or an electronic dictionary.	
〔実務経歴〕 None	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : Conclusion / Reasons 内 容: A: Are schools necessary? B: Should university entrance examinations be kept? 教科書・指定図書 Unit 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : Social Trend 内 容: A: Aging society, aging drivers B: The number of books is declining 教科書・指定図書 Unit 2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : Result / Cause 内 容: A: Adults in Japan become younger B: Why is English the world language now? 教科書・指定図書 Unit 3
第 4 回	テーマ(何を学ぶか) : Several Explanations 内 容: A: Why did the dinosaurs die out? B: Nazca Lines 教科書・指定図書 Unit 4
第 5 回	テーマ(何を学ぶか) : Comparison 内 容: A: Oxford and Cambridge B: Tokyo University and Kyoto University 教科書・指定図書 Unit 5
第 6 回	テーマ(何を学ぶか) : For and Against 内 容: A: Should Japan accept September admission? B: Should we accept English as an official language? 教科書・指定図書 Unit 6

第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : Classification 内 容: A: TV dramas B: TV programs 教科書・指定図書 Unit 7
第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : History 内 容: A: Uchimura Kohei B: Ichiro 教科書・指定図書 Unit 8
第 9 回	テーマ(何を学ぶか) : Process 内 容: A: How to make “sukiyaki” B: How to make Japanese curry rice 教科書・指定図書 Unit 9
第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Cause and Effect 内 容: A: The effect of World War II B: The effect of the Battle of Sekigahara 教科書・指定図書 Unit 10
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Definition of a New Word 内 容: A: You Tuber B: Power Spot 教科書・指定図書 Unit 11
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Research 内 容: A: The record number of single fathers in the US B: Acne is a nuisance for young people 教科書・指定図書 Unit 12
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : New Products 内 容: A: Musio X B: Hellopika 教科書・指定図書 Unit 13
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Reading Graphs 内 容: A: Children study harder with encouragement B: The number of children in a household is decreasing 教科書・指定図書 Unit 14
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Essay Writing 内 容: Autobiography 教科書・指定図書 Handout
試 験	筆記試験 (60 分)

[科目名] Active Reading Business Genres I				[単位数] 2 単位		[科目区分] アカデミック・コモン・ベーシックス	
[担当者] 成田 芙美 Narita Fumi		[オフィス・アワー] 時間: to be announced 場所: Room 609				[授業の方法] 講義	
[科目の概要] This course will focus on reading English texts with everyday and job-related language. Students will read various texts, such as articles, letters, emails, and advertisements, and do exercises in question formats similar to those used in the TOEIC® test. In each class, the grammatical structure of the sentences and meaning of the words in context will be dealt with. In order to check misreading and to correct errors, interactive activities will be encouraged among students as well as between the teacher and the students.							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] With greater skill in reading comprehension, students will be able to understand various ideas in written English and expand their horizons. Therefore reading skills should be fostered not only to pursue their academic interests but also to enhance their professional careers after graduation. In addition, dealing with TOEIC® format questions, students may become more interested in their success on the test, which is popular in the Japanese business world. Their better scores will increase their chances of working for a company of their own choice.							
[科目の到達目標] This course will encourage students to consider and find what is necessary to improve their own reading skills. Students are expected to be able: 1. to increase vocabulary 2. to improve grammatical knowledge 3. to achieve a better understanding of written English. Students will also be encouraged to take the TOEIC® test and to improve their scores.							
[ディプロマ・ポリシー (DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] The teacher will try her best to offer the students whatever is necessary to improve their reading ability. These needs and the students’ progress will be carefully monitored through various class activities and tests. The rate of progress may change the class schedule shown on the following pages.							
[教科書] Joshua Cohen, Kei Mihara, Yoshio Nakamura, Hiroshi Kimura, <i>Reading Breakthrough for the TOEIC® Test</i> (南雲堂、2016) ISBN: 978-4-523-17811-8							

〔指定図書〕 None	
〔参考書〕 To be announced when and if it is necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based mainly on assignments and tests to be completed during class. Performance on homework is also important. At the end of the course, students will sit for a final examination. In addition, extra points could be given with optional tasks.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students must prepare for every class. “Prepare” basically means: 1. to read the texts assigned for each class 2. to check the grammatical structure and meaning of words 3. to find what you can or cannot understand on your own so that you know what kind of help you will need from the teacher in class. In class, students must have at least one English-Japanese dictionary with them to use for in-class tasks. To get a higher grade, be sure to attend every class because many assignments and tests will be completed during class.	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Orientation 内 容: What is the aim of this course? What will you read? What is important or necessary in this class? 教科書・指定図書 Unit 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Fashion and Shopping / Eating Out and Restaurants 教科書・指定図書 Units 1-2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Entertainment and the Movies / Housing and Family Life 教科書・指定図書 Units 3-4
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: The Media and the Internet / Travel and Airports 教科書・指定図書 Units 5, 7
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Hotels and Leisure / The Weather 教科書・指定図書 Units 8-9

第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: The Environment and Recycling / Fitness and Health 教科書・指定図書 Units 10-11
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Business Trips and Commuting 教科書・指定図書 Unit 13
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Business Trips and Commuting / Advertising and Sales 教科書・指定図書 Units 13-14
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Advertising and Sales 教科書・指定図書 Unit 14
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Getting a Job and Promotions 教科書・指定図書 Unit 15
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Getting a Job and Promotions / Accounting and Office Work 教科書・指定図書 Units 15-16
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Accounting and Office Work 教科書・指定図書 Unit 16
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Personnel and Recruitment 教科書・指定図書 Unit 17
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Personnel and Recruitment / Customer Service and Shipping 教科書・指定図書 Units 17, 19
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): Grammar, vocabulary, comprehension check 内 容: Customer Service and Shipping 教科書・指定図書 Unit 19
試 験	Final examination: Written exam

【科目名】 Active Reading Business Genres I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 堀江洋文			〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 This is a business English class for students who want to improve their reading, writing, and listening skills, and to understand what is going on in the world of business and finance. ‘Business English,’ previously called ‘English Correspondence’ in the faculty curriculum at most universities nationwide, used to be an English writing course with occasional reference to the skills and knowledge of international business and global economies. Today, however, it covers a wider variety of areas including Economic News English, English related to effective business practices (telephoning, negotiating, presentation, etc.), and conventional business correspondence (writing) skills. This class is designed to cover all these. Basically, this is an online class using Zoom, which is synchronous and bidirectional. However, the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, the timing of which will be decided after consultation with the students.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 First, you may be able to enhance your ability to communicate with people from diverse cultures in English, regardless of the situation you find yourself in. Secondly, all the materials you will have access to in this class could be useful in actual business settings.							
〔科目の到達目標〕 The learning objectives of this course are to enhance students' general business communication skills as outlined above. Grading criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The instructor is prepared to answer any questions posed by the students. So please feel free to ask any questions that you think were left unanswered during the class.							
〔教科書〕 Kazuhisa Konishi, <i>The Flow of International Business Correspondence</i> , Asahi Press 邦題『フローで学ぶ国際ビジネス英語』小西和久著、朝日出版社 ISBN: 978-4-255-15228-8							

〔指定図書〕 None	
〔参考書〕 To be announced if necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on the student's attendance and class contribution (30%) as well as the result of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken verbally at the beginning of each class.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 Students are expected to have daily access to the latest economic news, which will keep them updated on what's happening in the world economy.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内 容: Basic English correspondence skills (style and format of business letter, etc.) 教科書・指定図書 Appendix at the end of the textbook
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): How to initiate a business transaction. 内 容: 海外に新しい市場を開拓する。Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 1
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Asking for detailed information on the product 内 容: 詳しい商品情報を求める 教科書・指定図書 Chapter 1
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning 内 容: Effective communication on the phone 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Explaining products 内 容: 自社製品の優位性を説明する 教科書・指定図書 Chapter 2
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Inquiry (asking for sales terms) 内 容: 価格等の条件提示を求める (引き合い)。Effective telephoning

	教科書・指定図書 Chapter 2
第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : Offer (Presentation of sales conditions) 内 容: 輸出契約の条件をオファーする 教科書・指定図書 Chapter 3
第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : Counterproposal in response to an unsatisfactory offer 内 容: カウンターオファーを提示する 教科書・指定図書 Chapter 3
第 9 回	テーマ(何を学ぶか) : Continuation of negotiations 内 容: 交渉を継続する。Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 4
第 10 回	テーマ(何を学ぶか) : Conclusion of a sales contract 内 容: 契約締結の表現 教科書・指定図書 Chapter 4
第 11 回	テーマ(何を学ぶか) : Payment methods (Letter of Credit, etc.) 内 容: 支払い方法の一つである信用((L/C)の開設を依頼する。その他の支払い方法(例えば小切手 Check payment 等)についても学びます。 教科書・指定図書 Chapter 5
第 12 回	テーマ(何を学ぶか) : Informing the details of the L/C 内 容: 信用状(L/C)の詳細を連絡する 教科書・指定図書 Chapter 5
第 13 回	テーマ(何を学ぶか) : Effective telephoning 内 容: Effective communication skills on the phone 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか) : Shipping schedule 内 容: 船積みスケジュールの連絡 教科書・指定図書 Chapter 6
第 15 回	テーマ(何を学ぶか) : Effective telephoning 内 容: Effective communication skills on the phone 教科書・指定図書
試 験	Written exam (60 min.)

[科目名] English Grammar and Usage I				[単位数] 2単位		[科目区分] ACB	
[担当者] 香取 真理			[オフィス・アワー] 時間:to be announced 場所:#606			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] この授業では既習の英文法、英語構文の重要事項を効率的に総復習して行きます。基本的事項の再確認から始まり、内容を更に深く理解していきます。また、日常生活の描写や英文メール、情報発信に応用できる自己表現のための英語基礎力を強化します。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 英文メールやレポート、SNS での発信等、英語で文章を書く機会は多くあります。正しい文法の使い方を習得することは、日常的、アカデミック双方の文章に求められる論理的かつ明確な表現を支える基盤となります。また、文法のルールを押さえることで、より自然かつ効果的な英会話が可能となり、自信を持って話す助けとなります。更に、英語の文法を学ぶ過程で、日本語の文法構造や異文化についても理解が深まり、言語運用全般についても役立つことが想定されます。							
[科目の到達目標] 英語の文法を深く理解することで、より正確に、かつ自信をもって効果的に英語を使うことが出来るようになることを目指します。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 学生の傾向や理解度に沿って、参考資料などを用意し、既習の英文法、英語構文の重要事項を効率的に総復習して行けるようサポートします。							
[教科書] Steady Steps -with additional e-learning materials- 朝日出版 978-4-225-15691-0							
[指定図書] 授業で提示							
[参考書] 授業で提示							
[前提科目] なし							
[学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等) 授業への積極的参加、小テスト、レポート、出席、学期末試験結果を総合的に判断する。 A=80% or more, B=70-79%, C=60-69%, D=50-59%, F=less than 50%							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 1. 授業には、毎回予習をして積極的に参加する熱意をもって出席する。 2. 小テストや課されたレポート等の課題には毎回取り組み提出する。 教員は学生の理解度や傾向に沿った参考資料やアクティビティーを用意し、学生が楽しく学べる授業環境の提供を心掛けます。	
〔実務経歴〕	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : Course orientation 内 容: introduction : 文の要素と基本文型 教科書・指定図書 Introduction & Unit 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : 文の要素と基本文型 内 容: 基本5文型 教科書・指定図書 Unit 1
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : 動詞の種類 内 容: 自動詞と他動詞 教科書・指定図書 Unit 2
第 4 回	テーマ(何を学ぶか) : 動詞の時制 内 容: 基本時制、進行時制、完了時制、完了進行時制 教科書・指定図書 Unit 3
第 5 回	テーマ(何を学ぶか) : 助動詞 内 容: 法助動詞、相助動詞、疑似相助動詞 教科書・指定図書 Unit 4
第 6 回	テーマ(何を学ぶか) : 名詞 内 容: 名詞の種類と分類、文の要素としての名詞 教科書・指定図書 Unit 5
第 7 回	テーマ(何を学ぶか) : 代名詞 内 容: 再帰代名詞、不定代名詞等、効果的な代名詞の使用法 教科書・指定図書 Unit 6
第 8 回	テーマ(何を学ぶか) : 冠詞 内 容: 不定冠詞、定冠詞、慣用表現 教科書・指定図書 Unit 7

第 9 回	テーマ(何を学ぶか):不定詞 内 容: 原型不定詞、不定詞、慣用表現 教科書・指定図書 Unit 8
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):分詞 内 容: 現在分詞、過去分詞、分詞構文、簡潔な文章の書き方 教科書・指定図書 Unit 9
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):動名詞 内 容: 単純形、完了形 教科書・指定図書 Unit 10
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):接続詞 内 容: 等位接続詞、従属接続詞、論理的文章の展開 教科書・指定図書 Unit 11
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):関係詞 内 容: 関係代名詞、関係副詞、節と句 教科書・指定図書 Unit 12
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):前置詞 内 容: 形容詞句、副詞句、多様な表現方法 教科書・指定図書 Unit 13
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):比較 内 容: 比較表現、慣用表現、効果的な比較表現 教科書・指定図書 Unit 14
試 験	Final exam

〔科目名〕 Intercultural Reading				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 堀江洋文		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 This is a News English class for students who are interested in improving their English reading, writing, and listening skills. The textbook covers a wide variety of subjects including politics, economy, food and energy issues, environment, climate change, culture, and sports, with a touch of cross-cultural awareness. Students will learn tips to read news articles properly, trying to avoid falling for misinformation and disinformation. Students are also informed about the nature of English journalism. Basically, this is an online class using Zoom, which is synchronous and bidirectional. However, the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, the timing of which will be decided after consultation with the students.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 Students may be able to enhance their ability to communicate in various intercultural settings using news articles as a conversation resource.							
〔科目の到達目標〕 The purpose of the course is to improve students' general communication skills, mostly reading and writing, as well as to update their knowledge of world affairs. Grading criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The instructor is ready to answer any questions from the students. Please feel free to ask any questions which you think were left unanswered during the class regarding English expressions or world affairs.							
〔教科書〕 English for Mass Communication 2025 Edition , Asahi Press 邦題 『時事英語の総合演習 ―2025 年度版―』 堀江洋文、小西和久他著、朝日出版社 ISBN: 9784255157306							
〔指定図書〕 None							

〔参考書〕 To be announced when/if necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on the student's attendance and class contribution (30%) as well as the result of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken verbally at the beginning of each class.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 You are expected to have daily access to the latest news, which will keep you informed about what's happening in the world.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction Domestic politics. Journalism (The news defined) 内 容: The world of Japanese politics Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 1
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): Domestic politics. Journalism (The news defined) 内 容: The world of Japanese politics 教科書・指定図書 Chapter 1
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): Domestic politics. Journalism (The headline) 内 容: Vocabulary Buildup 教科書・指定図書 Chapter 1
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Taiwan. Journalism (The inverted pyramid) 内 容: China's military drills encircling Taiwan Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 5
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): NATO (North Atlantic Treaty Organization). Journalism (The lead) 内 容: US military support to NATO and Europe 教科書・指定図書 Chapter 5
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Vocabulary Buildup. Journalism (Beyond the basic news lead) 内 容: 教科書・指定図書 Chapter 5

第7回	テーマ(何を学ぶか): Film and entertainment. Journalism (The world of features) 内 容: “Godzilla Minus One” and Hayao Miyazaki both takes home Oscars 教科書・指定図書 Chapter 7
第8回	テーマ(何を学ぶか): Economy. Journalism (From print to the web) 内 容: The Bank of Japan and newly designed banknotes 教科書・指定図書 Chapter 7
第9回	テーマ(何を学ぶか): Vocabulary buildup. Journalism (Broadcast news) 内 容: Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 7
第10回	テーマ(何を学ぶか): US federal and state court systems. Journalism (Radio news reporting) 内 容: US Supreme Court. Roe v. Wade. Trigger law 教科書・指定図書 Chapter 9
第11回	テーマ(何を学ぶか): Israel’s Supreme Court. Journalism (Media convergence) 内 容: Israel’s mandatory military service and draft exemption 教科書・指定図書 Chapter 9
第12回	テーマ(何を学ぶか): Vocabulary buildup. Journalism (Passive verbs) 内 容: Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 9
第13回	テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning. Journalism (News media in the world) 内 容: Writing news articles 教科書・指定図書 The world of English Journalism
第14回	テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning. Journalism (News media in the world) 内 容: Stylebooks 教科書・指定図書 The world of English Journalism
第15回	テーマ(何を学ぶか): Effective telephoning. Journalism (Newspapers) 内 容: Jargon and journalese 教科書・指定図書 The world of English Journalism
試 験	Written exam (60 min.)

〔科目名〕 Understanding Business Meeting				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシック	
〔担当者〕 堀江洋文		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 This is a Business English class, that primarily uses online news articles. It is designed for students who are interested in improving their English reading, writing and listening skills. The textbook covers a wide variety of subjects, but in this particular class we will focus on those related to the world of economy, business and finance. Students will also be informed about the global economic and financial systems and the nature of English journalism which reports on them. This is an online remote learning via Zoom, which is synchronous and bidirectional, but the instructor plans to hold occasional in-person classes at APU, the timing of which will be decided after the consultation with the students.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 Students can enhance their ability to communicate in various intercultural business settings by using news articles as a conversation resource.							
〔科目の到達目標〕 The learning objectives of this course are to enhance students' general business communication skills as outlined above. Grading criteria are as follows: A: 80-100%, B: 70-79%, C: 60-69%, D: 50-59%, F: below 50%							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○					
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 The instructor is ready to answer any questions from the students. Please feel free to ask any questions which you think were left unanswered during the class regarding English expressions or global business and economy.							
〔教科書〕 English for Mass Communication 2025 Edition , Asahi Press 邦題 『時事英語の総合演習 ―2025 年度版―』 堀江洋文、小西和久他著、朝日出版社 ISBN: 9784255157306							

〔指定図書〕 None	
〔参考書〕 To be announced when necessary	
〔前提科目〕 None	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) Evaluation will be based on the student's attendance and class contribution (30%) as well as the result of a final exam at the end of the semester (70%). Attendance will be taken verbally at the beginning of each class.	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 You are expected to have daily access to the latest news, which will keep you informed about what's happening in the world of business and finance.	
〔実務経歴〕 Not applicable	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): Course orientation and introduction 内 容: English Business Correspondence 教科書・指定図書 handouts (how to write business letters)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): The World Economy (The IMF and the World Economic Outlook) 内 容: Global economic output and economic fragmentation 教科書・指定図書 Chapter 2
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): China's one-child policy and its demographic crunch 内 容: Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 2
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): Vocabulary Buildup 内 容: Vocabulary related to economy and finance 教科書・指定図書 Chapter 2
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): Pension plans 内 容: Defined-benefit plan vs. defined-contribution plan iDeCo and NISA 教科書・指定図書 handouts
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): Central Banks 内 容: BOJ, FRB (FOMC), ECB, Bundesbank, etc. Effective telephoning 教科書・指定図書 handouts

第7回	テーマ(何を学ぶか): The balance of international payments and the current account 内 容: including Japan's growing "digital deficit" 教科書・指定図書 handouts
第8回	テーマ(何を学ぶか): Energy and natural resources 内 容: global clean energy investment Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 11
第9回	テーマ(何を学ぶか): EV, HEV, PHEV, FCV 内 容: High prices and a lack of easy-to-find charging stations 教科書・指定図書 Chapter 11
第10回	テーマ(何を学ぶか): Vocabulary buildup. The world of business journalism 内 容: Vocabulary related to energy and natural resources. Effective telephoning 教科書・指定図書 Chapter 11
第11回	テーマ(何を学ぶか): Science and technology. 内 容: AI will shrink workforces 教科書・指定図書 Chapter 13
第12回	テーマ(何を学ぶか): Science and technology. Vocabulary buildup 内 容: Mineral resources 教科書・指定図書 Chapter 13
第13回	テーマ(何を学ぶか): The world of business journalism 内 容: The style and format of economic and business articles Effective telephoning 教科書・指定図書 The world of English journalism
第14回	テーマ(何を学ぶか): Payment methods 内 容: check (cheque), credit card, debit card, etc. 教科書・指定図書 handouts
第15回	テーマ(何を学ぶか): The world of business journalism 内 容: Stylebook of economic newspapers. Effective telephoning 教科書・指定図書 The world of English Journalism. handouts
試験	Written exam (60 min.)

〔科目名〕 ロシア語会話				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・ コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 トルストグーゾフ・A TOLSTOGUZOV ALEXANDER		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本科目は、ロシア語を勉強しようとする学生のための中級の科目である。この科目の総合目的は、基礎的なロシア語能力の習得である。授業中に使うロシア語教科書「テレモーク」中級編の基本コンセプトとして、ロシア語検定試験の入門レベルと基礎レベル(ロシア文部省実施)を基準とした教科書である。 このため、この教科書作成の最大の特徴は、新しいタイプの統合型教材である。具体的には、学習者の語彙と文法の知識を基にして4つの言語能力(聞く、読む、話す、書く)を獲得するように構成されている。 この教科書で定めたロシア語の学習目標は、 1. ロシア語の「コミュニケーション活動を重視し、日常的な会話のバリエーションを増やす」こと 2. ロシア語会話を重点内容に位置付け、必要に応じて文法知識の理解を図ることである ロシア語の文法は複雑であるが、この教科書は最小限の文法で乗り切っている。ロシア語表現をできあいの形で覚え、いくつものパターンを蓄えて、実用に備えている。 教科書の内容と構成として次の4点を設定する。 1. 各課とも「新出単語、聞く、読む、話す、書く」の構成である。 2. 1 冊につき30課の構成とする。 3. 使用語彙は、1冊につき300語を目途とする。 4. 練習問題編を別冊で作成し、応用訓練の一助とする。 この教科書では学生自身の積極的な授業参加を前提にしている。たとえば、授業では学生の応答を得た後に次の指導が展開される場面が随所にあり、授業と家庭学習が練習問題編によって直結していることもその一例である。 授業の内容を面白くするために沢山の笑い話、小話とジョークを使う。また、学生が図書館の資料を使って独学できる。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ロシア語の知識は幅広い範囲の仕事場(会社、国家機関、文化団体)で利用できる。英語と並びロシア語を話せるならキャリアのための可能性はより広がる。将来の自分の目的に合わせて勉強ができる。 この段階では、できるだけ会話のロシア語を使用し、学生達がロシア語に自然に慣れ、次の段階のロシア語の勉強のために基礎をつくる。 ロシア語の知識を習得すると青森に住んでいるロシア人、ロシアから来ているロシア人とのコミュニケーションをとることができる。希望があれば、国内での簡単なボランティア活動をするチャンスも与えられる。							
〔科目の到達目標〕 授業で得た知識で日常生活や文化を話題としたロシア語の日常会話ができる。そのため、授業中に黙ってもらうのではなく、恥ずかしがらないで沢山話してもらうようにする。そして、さほど難しくないロシア語の文章は辞書を用いて読めるようになる。 春学期の期末試験では、学生達が半年で習った基礎文法と基本単語と会話のパターンをいかに習得し、いかに将来に使うことができるか確かめる。 その他、授業中に勉強したロシアという異文化の国についての理解度を高めることを目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1. 以前はたまにシラバス通り進むことができなかったことがあったが、これからはシラバスに書かれた内容通りに進めたいと思う。 2. 授業の効果を高めるために重要な所を繰り返し、強調し、練習させる。	
〔教科書〕 ロシア語教科書「テレモーク」中級編、2008年。	
〔指定図書〕 和露辞典 露和辞典	
〔参考書〕 「ロシア語文法ハンドブック」、寺田吉孝、2004年	
〔前提科目〕 ロシア語入門	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業態度、出席、期末テストを総合的に評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生達には授業に積極的に参加することを期待している。 そして、学生達は教科書の内容だけではなく、自分の関心に合う単語を学ぶことを期待している	
〔実務経歴〕 特になし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 第1課 内 容: 空港の出迎え 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.3－7
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 第 2 課 内 容: バス車内で 教科書・指定図書:「テレモーク」 p.8－12
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 第3課 内 容: ハヤトの部屋で 教科書・指定図書:「テレモーク」 p.13－16
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 第4課 内 容: 授業はいつですか 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.17－20
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 第5課 内 容: 無事到着 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.21－28
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 第6課 内 容: あなたはどちらから 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.25－28

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):第7課 内 容:南極大陸からやってくるのは誰 教科書・指定図書:「テレモーク」 p.29－32
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):第8課 内 容:食料品はどこで買えますか 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.33－36
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):第9課 内 容:ランチは軽食堂で 教科書・指定図書 :「テレモーク」p.37－40
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):第 10 課 内 容:何歳になったの 教科書・指定図書 :「テレモーク」p. 41－44
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):第 11 課 内 容:ありえないよ 教科書・指定図書:「テレモーク」 p.45－48
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):第 12 課 内 容:勉強を終えてから、思い切り遊びなさい 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.49－52
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):第 13 課 内 容:怖がらないで 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.53－57
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):第 14 課 内 容:明日の計画はなんですか 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.58－61
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):第 15 課 内 容:ご注意ください、ドアが閉まります 教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.62－65
試 験	期末テストを実施する

〔科目名〕 韓国語会話	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス
〔担当者〕 リー ヘ キョン 李 恵 慶	〔オフィス・アワー〕 時間: 詳しくは授業内で提示する 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 韓国語入門の履修者、または同等のレベルが認められる人を対象にした授業である。入門で学んだ基本文法を固めながら、日常会話に必要な表現・文型を中心に実践的なコミュニケーション能力を身につけることが第一のねらいである。 同じ語順をもつ韓国語と日本語は、特別に発想の転換を求められることなく理解できることから、初級のレベルであれば、言葉を入れ替えるだけですぐに会話を楽しむことができる。そのため、まず会話の基礎となる語彙力の向上に重点を置きながら、繰り返し練習を行うことで自然に会話のなかで使えるようにする。 授業は基本的に下記の授業スケジュールに沿って進めるが、必要に応じてMVや映画、新聞、ブログ等、様々な資料を多く取り入れる予定である(受講生の希望や要望、レベル等、諸事情により変更になることがある)。韓国の文化や社会にも触れ、韓国語をもっと身近に感じ、楽しみながら学ぶことができる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 日本と韓国は歴史的・文化的・地政学的に最も近い隣国として、これまで長い間、様々な形で交流を深めてきた。あらゆる分野においてグローバル化が進行している今日、隣国同志の両国の関係はより一層広範かつ緊密なものになると予想される。そのなかでお互いを深く理解し、信頼関係を築いていくことは何より重要なことで、その最も効果的な方法が相手の言葉を学ぶことである。なぜなら、人間の文化や社会を根本で支えるものが言語である以上、外国語を理解することはその国を理解し、人々の思考と文化を理解することに繋がるからである。 とりわけ、日本人にとって韓国語は最も習得しやすい外国語である。そのため、学んですぐに会話を楽しめ、旅行や友達づくり、韓国文化理解に役立てて自分の世界を広げることができる。また、上達するのも早いので、レベルアップを図れば将来仕事に生かし、日韓の橋渡しとして大いに活躍することも可能である。 外国語が苦手な人はぜひ韓国語にチャレンジしてみることをお勧めする。これまでの外国語と違い、日本語と同じ文法構造をもつ韓国語を学ぶことで、外国語に対する苦手意識が克服できるかもしれない。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本科目の最終目標は初中級レベルの日常会話に必要な語彙と表現を身につけることである。そして韓国語の背景にある朝鮮半島の文化や歴史・社会への興味を高めることがもうひとつの狙いである。具体的には以下の4つが挙げられる。 ① 日常生活の様々な会話の場面のなかでよく使う表現を身につける ② 日常会話に必要な語彙と文型を覚え、会話の運用能力を高める ③ 「聞く」「話す」を中心に韓国語コミュニケーションを楽しむ ④ 韓国語から韓国・朝鮮半島の文化、社会への理解を深める		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 実践的な会話能力を身に付けることが第一の目的なので、受講者の積極的な参加が求められる。また、韓国語入門に比べ、難易度が上がるため、授業は丁寧かつゆっくり進めていく予定であるが、会話の基礎となる単語をしっかりと覚える必要がある。身のまわりにあるものやよく使う単語、興味のあるもの・こと等、身近なものから韓国語の単語の数を増やしていくとよいと思われる。		

〔教科書〕 特になし(必要に応じてプリントを配布します)	
〔指定図書〕 必要に応じて講義中に示します。	
〔参考書〕 必要に応じて講義中に示します。	
〔前提科目〕 韓国語入門 ただ韓国語の読み・書きができ、韓国語入門履修と同等のレベルが認められた場合はその限りではない。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価は出席および授業への参加度・貢献度 50%、授業中に提示した課題(ミニレポート)10%、期末試験(プレゼンテーション)40%から総合的に行う。なお単位取得には上記の出席・課題・期末試験がすべて揃わなければならない。	
〔評価の基準及びスケール〕 A:80点～100点 B:70点～79点 C:60点～69点 D:50点～59点 F:50点以下	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 遅刻・欠席はしないで、必ず単語を覚えて復習を行う。また、授業についての質問や要望、配慮が必要な場合等は遠慮せず申し出てください。韓国語はもちろん、韓国の文化や社会に関心のある人、大歓迎です。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション 内 容:授業について概観し、今後のスケジュール等について確認する 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 復習① 内 容:時制のおさらいと練習 教科書・指定図書 特になし
第3回	テーマ(何を学ぶか): 復習② 内 容:願望の表現と会話練習 教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第17課
第4回	テーマ(何を学ぶか): 復習③ 内 容:可能と不可能の表現と会話練習 教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第16課
第5回	テーマ(何を学ぶか): 推量・意志・未来の表現 内 容:推量・意志・未来を表わす表現と練習 教科書・指定図書 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』第20課

第6回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう① 内 容:並列と理由・順序の表現(〜て)と不規則用言 教科書・指定図書 プリント資料
第7回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう② 内 容:理由・発見の表現(〜したので、〜してから)と不規則用言 教科書・指定図書 プリント資料
第8回	テーマ(何を学ぶか):異文化コミュニケーション① 内 容:韓国映画を楽しむ 教科書・指定図書 なし
第9回	テーマ(何を学ぶか):異文化コミュニケーション② 内 容:韓国映画を楽しみ、議論する 教科書・指定図書 なし
第10回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう③ 内 容:目的表現(〜しに) 教科書・指定図書 プリント資料
第11回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう④ 内 容:計画・意図の表現(〜しようと) 教科書・指定図書 プリント資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう⑤ 内 容:状況・比較・対照／期待外れの表現(〜したけど、〜したのに) 教科書・指定図書 プリント資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう⑥ 内 容:経験表現(〜したことがある／ない) 教科書・指定図書 プリント資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう⑦ 内 容:状況の変化・受け身表現(〜になる、〜くなる、〜(ら)れる) 教科書・指定図書 プリント資料
第15回	テーマ(何を学ぶか):発展学習——会話を楽しもう⑧ 内 容:能力表現(〜することができる／できない) 教科書・指定図書 プリント資料
試 験	プレゼンテーション(場合によっては筆記試験を実施する)

*授業スケジュールや授業内容等は受講者の人数やレベル等によって変更になる場合がある。

〔科目名〕 中国語会話				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 呉 蘭		〔オフィス・アワー〕非常勤なので、オフィス・アワーがありません。質問があれば、授業中クラスを見て回る時に聞いてください。授業時間外に、メールで連絡してください。			〔授業の方法〕 講義・演習		
〔科目の概要〕 ことばの「やりとり」ができる実践的な中国語力・コミュニケーション力を身に付けます。「中国語入門」で習ったものを繰り返し練習することによって、自分のものにして、新しい構文や単語も学びながら、さらに中国の文化や習慣などもより多く知り、会話練習を通じて中国語の運用能力を身につけます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 日本と中国は、歴史的にも地理的にも文化的にも経済的にも、切っても切れない関係にあります。本授業はリスニングとスピーキングを中心とする会話能力を養うとともに、中国の社会・文化も学ぶ科目です。経済・経営を専攻とする学生の皆さんが、将来ビジネスの場で、相手とスムーズにコミュニケーションが取れば、まさに鬼に金棒でしょう。							
〔科目の到達目標〕 ・ 繰り返し練習することによって、中国語特有の音と声調が聞き取れるようになり、正確な発音が身につきます。 ・ 状況に合わせて相手と意見を交わすことができるようになります。 ・ 誤解をしたりされたりすることを減らすことができますようになります。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 これまでの学生の「授業評価」では、「ロールプレイなどで実践的な中国語の会話が身についた」「中国の文化なども映像で見せてくれて色々知ることができた」「楽しく、気楽な雰囲気の中で中国語を学べる」「みんな主体的に参加できる」「質問に丁寧に答えてくれるので、分からないまま授業を終えるということがなかった」などのコメントをもらいました。今後とも続いて質の高く、楽しい授業を提供するように工夫します。							
〔教科書〕『中国語つぎへの一步』(白水社)							
〔指定図書〕							
〔参考書〕『しゃべっていいとも中国語』、『基礎から発展までよくわかる中国語文法』、『若き中国人の悩み』							

〔前提科目〕 ★「<u>中国語入門</u>」	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内活動、ロールプレイ、期末試験などを総合的に評価します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 語学のコツは間違えることです。授業中は恥ずかしがらずに積極的に声を出してください。 また復習は非常に大切です。<u>必ず前回の授業の内容を復習してから授業に臨んでください。</u>	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):「中国に行こう！」 内 容: ①経験を表す“过” ②助動詞“可以”、“要” 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):「中国に行こう！」 内 容: ①主述述語文 ②目的語が主述句の時 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):「ジャスミン茶を飲もう！」 内 容: ①“的”の用法 ②「原因・理由」を表す“因为” ③復習:文末助詞“吧”、“呢” 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):「友達を作ろう！」 内 容: ①復習:動作の対象を表す前置詞“给” ②復習:連動文 ③“是～的”の文 ④疑問詞“怎么” 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):「長城に登ろう！」 内 容: ①“了”の三つの用法 ②副詞“就” ③助動詞“应该” 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):「卓球を楽しもう！」 内 容: ①様態補語 ②比較級の肯定文“A 比 B～”と否定文“A 没有 B～” 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):「卓球を楽しもう！」 内 容: ①「可能性の予測」を表す助動詞“会” ②「仮定」を表す“要是” 教科書・指定図書

第 8 回	テーマ(何を学ぶか):「漢字を覚えよう！」 内 容:①復習:助動詞“能” ②結果補語(1) ③副詞“有点儿” 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):「街を歩こう！」 内 容:①存現文 ②主語がフレーズの時 ③ “了～了～” の用法 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):「中国映画を見よう！」 内 容:①「状態の持続」を表す“着” ②副詞“再” ③疑問詞の不定詞用法 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):「チャイナドレスを買おう！」 内 容:①方向補語 ②「使役」を表す“让” 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):「中華を食べよう！」 内 容:①可能補語 ②強調表現 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):「西遊記を読もう！」 内 容:①結果補語(2) ②「受身」を表す“被” 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):「春節を祝おう！」 内 容:①“快～了”の用法 ②“把”の構文 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):「メールを出そう！」 内 容:①復習 ②教科書のメール文を学ぶ 教科書・指定図書
試 験	筆記試験

〔科目名〕 プレゼンテーション				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ ベーシックス	
〔担当者〕 植田栄子(てるこ)		〔オフィス・アワー〕 時間: uedat814@gmail.com 場所:				〔授業の方法〕 講義、実習	
〔科目の概要〕 プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力 UP をめざす。 主として以下の内容： 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声的ポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己 PR 5) プレゼンテーションの評価 (「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上します) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータも AI も変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは； 1)どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2)ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。 3)就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4)良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、意見の提示、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、自分の意見を説得力をもってわかりやすく、相手に伝えられるのです。							
〔科目の到達目標〕 ・付加価値の高いレジュメの書き方、効果的なパワーポイントの作成を行い、適切に改善していける。 ・プレゼンテーションの構成・内容を、リスナーとテーマに応じて工夫できる。リスナーに最も分かりやすく印象に残るプレゼンテーションの方法を、他の参考 DVD(スーパープレゼンテーション等)からも利用して実践できる。 ・プレゼンテーションのレベルアップのために、ユーモア、エピソード、非言語的要素(笑顔、ジェスチャー、声の調子)について、工夫して実践できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 各受講生の発表時間が不足することを回避し、また最も効果的なプレゼンテーションの練習になるクラスサイズにしている。「繰り返しプレゼンテーションする」ことで、必ず全員が「絶対に上達し、自信がつく」。相互に評価しあうことで、分析力がつき、それが自分の発表の向上につながる。プレゼンテーションを苦手に思っている人こそ受講してほしい。							

特に、プレゼンテーションの内容が非常に面白くなっており、学科を越えた相互情報交流の場になる。学期中2回のプレゼンと、毎回出席して発表者に書くコメントシートを提出することで、必ずプレゼンテーション力が向上する。 当然だが、毎回必ず出席し、クラスメイトの発表を聞くという蓄積が、結果的に自分自身のプレゼン上達のカギである。	
〔教科書〕 授業時に適宜紹介する。	
〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) プレゼンテーション2回(口頭発表と作成資料)60% + 質疑応答や提出物(分析レポート):20% + 出席 20% = 100%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 *実践的に学べるように、初回から徐々に必要な知識と能力を身に付けていきます。出席することが大前提です。 なぜなら、他の人がプレゼンテーションすることを聞く・質問する・コメントする、という作業がとても重要で効果的なプレゼンテーション力の養成に直結します。 *発表中は、そのプレゼンテーションに集中して、当然ですがスマホや私語は厳禁です。自分がスピーカーの立場になれば、わかることです。 *発表に関する感想、質問の時間を取って、フォーマルな表現(敬語)を使うようにします。積極的に発言して下さい。	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経験)等を活かし、プレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて、実践的に学びます。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考 DVD を視聴。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ

第 5 回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点 *参考となる DVD 視聴
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(405)で実施予定。 *スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容:担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第 15 回	全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。 スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。
試 験	授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料内容、提出するコメントシート、授業内での質疑応答、指定するプレゼンテーションを視聴して分析レポートを最後に提出、以上により総合評価を行う。

〔科目名〕 哲学Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:授業の初回に提示する 場所:613 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 西洋哲学の歴史に登場する著名な哲学者、および主要な概念を厳選してとりあげ、解説し、考察をおこなう。哲学の学説や概念は一見しただけでは難解にも思われるが、その根本にある思考、核心にある問いに目を向けることにより、この学に端的に接近したい。西洋哲学の歴史にあらわれる人物、思想、概念に触れ、自覚的に考えることをとおして、われわれ一人一人が世界を生きることを学びなおすための思考の鍛錬をおこなう。授業においては、自分の思考を可視化するための手段としてワーキングシートを作成し、提出してもらう。ワーキングシートによる思考の可視化と振り返りが、考察を深めてゆく助けになるはずである。この方法については授業のなかで詳しく説明する。 基本的には、毎回一つのトピックを読み切りにして、①前回の反復とあらたな問いの提起、②配布資料をふまえた解説、③レスポンスカードの作成、という組み立てをユニットにして授業をする。限られた時間では完結できない場合も多くあるため、くり返し立ち戻りながら考察を深めたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 哲学は「知を愛する」ということ、つまり、あらゆる事象についてのあくなき探求を意味する。いかにも素朴な知の探求であると思われるとしても、みずからの「問い」をもつことが学問の根本にある。この授業の目的は、具体的な経験と眼前の事象に即しつつ、既存の知識や学問の深層にある「思考」を捉えなおすことである。したがって、自明とも思われる知を再考し、探究を深めていく、学問的な営為の端緒となりうる。							
〔科目の到達目標〕 西洋の著名な哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。哲学者の問いかけ、思想や概念をふまえ、考えるべき問いを吟味し、仕上げ、提起することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「ワーキングシートは自分の考えを言語化することができ、まとめることができるため良いと思いました」という声が寄せられた。履修者が自らじっくりと考えることができるよう、工夫しながら授業をすすめていきたい。また、「授業内容を理解することが難しい」という指摘があった。この学問に触れ、楽しみながら学んでいくためには、問いそのものをよく吟味し、明確にしていくことが大切であるが、それがなかなか容易ではない。できるかぎり解きほぐして説明し、十分な理解を促すことができるよう工夫していきたい。気になることや分かりにくい点があれば、その都度対応するので、疑問や不明な点はそのままにせず、遠慮なく質問して欲しい。難しいと感じても、質問すること、対話することができれば、理解も深まり、考えるための手がかりも得られるはずである。							
〔教科書〕 使用しない。適宜プリントを配布する。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 『よくわかる哲学・思想』 納富信留 ほか編著、ミネルヴァ書房、2019 年 『図鑑 世界の哲学者』 サイモン・ブラックバーン 監修、熊野純彦 日本語版監修、東京書籍、2020 年 その他、授業のなかで紹介する。							
〔前提科目〕 なし。春学期に開講の「哲学Ⅰ」と秋学期に開講の「哲学Ⅱ」は、各々が独立に完結する授業である。							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 全体の五分の四以上の出席を評価および単位取得の前提とする。 ワーキングシートの論述内容、授業内の活動や発言(50%)、期末の筆記試験(記述式、持込不可)(50%) 期末試験やワーキングシートの内容の評価に関しては、とりあげる思想や概念の正確な理解、問題設定の受けとめ、考察の掘り下げ、という三つの観点を基本として測る。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 哲学には独特の難しさがあると思われるかもしれない。しかし、言葉や事柄そのものの難しさを、ひとつひとつ解きほぐしながら考える作業こそが哲学の営みであり、この考える作業を味わうことこそが、哲学への最良のアプローチの仕方だろう。自ら考え、自ら問いをもつことを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。 授業各回のスケジュールや扱う内容は、参加者の関心や進行状況に応じて変更することがある。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション、「哲学とは何か」という問い 内 容: この授業の趣旨と進め方、評価の方法、哲学とはどのような学問なのか 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 「哲学の始まり」についての問い 内 容: ソクラテス以前の哲学者たち、アルケーの探究 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 「知」と「不知」についての問い 内 容: ソフィストとフィロソフォス、ソクラテス、プロタゴラス、相対主義 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 「存在」についての問い 内 容: パルメニデス、存在と時間 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 「本質」についての問い 内 容: プラトンの哲学、探究のパラドクス、イデア論 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 「自然」についての問い 内 容: アリストテレスの哲学、理論知と実践知、四原因説、幸福論 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 「確実さ」についての問い 内 容: デカルトの哲学、知と信、懐疑、考える私 教科書・指定図書

第 8 回	テーマ(何を学ぶか):「自由」と「必然」についての問い 内 容:スピノザの哲学、神即自然、汎神論 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):「なぜ」という問い 内 容:ライプニッツの哲学、予定調和、多元論 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):「知の源泉」についての問い 内 容:ヒュームの懐疑論、連合説 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):「認識の基礎づけ」についての問い 内 容:カントの哲学、コペルニクスの転回 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):「価値」についての問い 内 容:ニーチェの哲学、ニヒリズム、力への意志、永遠回帰 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):「生成」についての問い 内 容:ベルクソンの哲学、生の哲学、純粹持続 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):総括と補足① 内 容:主知主義と経験論 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総括と補足② 内 容:存在と生成 教科書・指定図書
試 験	期末試験の実施方法は、筆記試験(記述式、持込不可)とする。

〔科目名〕 人間の歴史				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 荷見 守義 Hasumi Moriyoshi			〔オフィス・アワー〕 時間:メールでご調整の上、対応可能 場所:講師控え室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 現代は難しい時代です。色々なことが急速に変化するし、ニュースで見聞きする出来事はとても複雑で、専門家であっても分からないことが多い昨今です。このような時代にどのようにつきあうべきなのでしょう。万能薬はどうやら無さそうで、みなさん一人一人が自分の頭で一生懸命考え、試行錯誤しながらやって行くしかなさそうです。歴史学はそのような時代について考える上で、有用なツールとなる学問です。この科目では、中国史を専門とする研究者として、みなさんに東ユーラシア史を材料として、現代を考えるヒントを、15 回という極めて短い時間ですが、提供したいと考えます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 歴史にはロマンがあるから好きという歴史ファン(歴女というのもそういう人々なのでしょう。?)は実にたくさんいますが、歴史学という学問の本質は、物事の変化を「比較的長い時間」観察して理解することです。一瞬の局面を見ただけでは分からないことでも、ある程度、長いスパンで観察すると分かることは多いものです。この手法は「一定の傾向性を有する事象」の分析には、極めて有効な方法です。							
〔科目の到達目標〕 ・歴史学は暗記ではなく、論理的に推理していく学問であることを理解すること ・自分と世界とを結びつけて考える思考法を身につけること ・比較的長期の観察に基づいて、人間・社会・国家の事象に一定の傾向性があることを発見できるという歴史学の学問としての特質を理解し、身につけること							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業の中で定期的にリアクションペーパーを使用して、みなさんの反応を確認しながら授業を進めます。							
〔教科書〕 なし。毎回の授業時に資料を配付します。							
〔指定図書〕 なし。							
〔参考書〕 荷見守義 『永楽帝 明朝第二の創業者』山川世界史リブレット人 038(山川出版社、2016 年・2023 年改定版) 青山亨ほか(荷見守義を含む)『アジア人物史6 ポスト・モンゴル時代の陸と海』集英社、2023 年							
〔前提科目〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 下記の通り、中間評価・期末評価を合算して、最終的な成績評価をおこないます。 〔中間評価〕 集中講義で行うため、初日から 3 日目まで 1 日ごとのレポートを作成して貰い、併せてリアクションペーパーにコメントを求めます。 合計で 60%							

〔期末評価〕 期末試験 40%

・リアクションペーパーは 講義の主題について、分かったこと／興味を持ったこと／疑問に思ったこと・もっと知りたいと思ったことなど自由に記述してください。事後の授業の中で参照してお答えします。

・初日から 3 日目までのレポートは、その日の講義についてみなさんが理解したこと、考えたことを文章にまとめて頂きます。

・期末試験は講義全体をふまえて理解したこと、考えたことを文章にまとめて頂きます。

目的は、

①この講義を通して、歴史学という学問の特質をどれだけ認識したかを自らの文章でまとめること、そのことにより自身の学修の進展を確認すること

②このことにより、本科目の主題と学生各自の学修テーマとを結びつけ、さらなる成長を促すことの2点にあります。

○リアクションペーパーは記述量で4段階評価します。

A(200 字以上)

B(100～199 字)

C(50～100 字)

D(50 字未満、未提出)

○レポート・期末試験の評価基準はともに、下記の基準で5段階評価します。

なお、日本語が母語ではない留学生等は、文意の点について考慮します。

5:テーマの要件を満たし、授業の要点を自分なりの言葉で的確に表現し、論理構成も明確である。

4:テーマの要件を満たし、授業の要点を自分なりの言葉で大筋表現できている。

3:テーマの要件を満たし、授業の要点を自分なりの言葉で表現し、文意が通る。

2:テーマの要件を満たしているが、授業の要点の把握が不十分であり、文章も稚拙である。

1:テーマの要件を満たさず、授業の要点が全く把握できておらず、文章も稚拙である。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

○講義形式ですが、定期的にリアクションペーパー・レポートの提出を求め、みなさんの理解度を測定します。分からないことは放置せずに積極的に質問してください。みなさんの疑問や質問については、随時、授業に織り込みますので、何でも聞いてください。

○前回のプリントを見直すことがあるので、各回での配布物は毎回持ってきてください。

○受講のマナーを守ることができず周りの人の学習権を侵害する学生の履修は固くお断りします。

〔実務経歴〕

該当なし

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): : プロローグ～歴史学はどのような学問なのか～ 内 容: 講義全体を支える歴史学という学問の性格について説明するとともに、講義全体の組み立てや目的について概観し、本講義を通じて学ぶべきことについて提示します。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 北緯 40 度の歴史学 I ～青森から世界を見る～ 内 容: 青森県は生態環境上、歴史上、どのように位置づけたらよいか、北緯 40 度を補助線として概観します。青森と世界の結びつけ方について提示します。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。

第 3 回	テーマ(何を学ぶか):北緯 40 度の歴史学Ⅱ～環日本海域・環シナ海域と「四つの口論」～ 内 容:世界を観察する視点として「海域の連鎖」について提示し、江戸時代の日本を環日本海域・環シナ海域に位置づけ、江戸時代の対外関係としての「四つの口論」について理解を深めます。世界の一部に組み込まれている日本という立ち位置について学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):北緯 40 度の歴史学Ⅲ～柳川一件・唐人町・倭物産品・北前船・島津氏～ 内 容:「四つの口」を具体的な事件の分析を通じて肉付けします。北日本の歴史がどのように東ユーラシアと接続しているのか理解を深めます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):13 世紀世界システム 内 容:グローバル化の始まりを 13 世紀のモンゴルによる世界統治に求める議論が盛んになっています。モンゴルによる世界統治がグローバル化に与えた影響について考えていきます。現代を理解する上での重要な歴史上の分岐点について理解を深めます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):13 世紀世界システムと元寇・日本 内 容:大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」に見る北条氏による鎌倉幕府支配ですが、執権北条時宗の時の元寇は 13 世紀世界システムではどのように位置づけられればよいのでしょうか、日本もこのシステムとは無縁ではなかったことを見て行きます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):14 世紀の危機 内 容:モンゴル中心の世界(パクスモンゴリカ)は急激な寒冷化に伴う異常気象とパンデミックによって崩壊しました。明朝建国者である朱元璋の伝記史料を中心にその様相を見て行きます。現代的なトピックとなっているパンデミックについて、歴史の観点から見ていきます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):「14 世紀の危機」とポストモンゴル 内 容:「13 世紀世界システム」が崩壊した後、どのような世界ができあがったか、見て行きます。現代と歴史との結び付きについて学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):ポストモンゴル国家としての明朝の建国 内 容:東ユーラシア圏域においては、モンゴルと明朝が対立する新たな「南北朝時代」を迎えるが、その特徴を永楽帝の親征を軸に理解していきます。歴史の構造把握法について学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):朱元璋の目指した明朝という国家 内 容:朱元璋が創造した国家には「14 世紀の危機」を克服しようとした苦闘の跡が読み取ることができます。その実相を見て行きます。パンデミックが歴史上、何を引き起こしたのかを学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):倭寇と明朝による日本探査・日本地図 内 容:「14 世紀の危機」におけるモンゴルの退潮は環シナ海域における勢力地図も書き換わりました。明朝は日本にスパイを放って最新状況の把握に努めますが、その様相を見て行きます。併せて、中国において作成された古地図の世界を見て行きます。歴史上の空間把握と人々の交流について学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。

第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 中華型外交と日本 内 容: 中華王朝の外交体制を朝貢システムと呼びます。この外交体制の特質について永楽帝の外交姿勢・遣明船派遣を例に取って理解を深めます。中国の対外関係の歴史的背景について学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 東ユーラシア圏の貨幣史 内 容: デジタル貨幣なるものまで登場する現在ですが、「お金」の本質が失われたわけではありません。ポストモンゴルの国際貿易・国内取引を支えた貨幣の特質について学びます。現在の常識とは全く違う貨幣の姿について理解を深めることで、経済の本質的理解を促します。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 皇帝専制支配とは 内 容: ポストモンゴルの中華世界では皇帝専制が強化されます。「キングダム」の時代に始まった皇帝政治ですが、皇帝は勝手に何でも決められたのでしょうか。永楽政権における内閣制度の誕生と発展というできごとを通じて、皇帝専制の内実を探っていきます。現在もよく独裁という言葉が使われますが、独裁にはカラクリがあることを学びます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 歴史における救済とは何か? 内 容: ポストモンゴルは災害が多発する時代でした。中華の皇帝は被災者に対して救済を行いましたし、民間にも弱者救済の取組がありました。なぜ、被災者は救済されるのでしょうか。現代とは全く違う意味での救済の本質について理解を深めます。 教科書・指定図書 なし。資料を配付します。
試 験	第 15 回目の後半において、筆記で期末試験を行います。

〔科目名〕 憲法概論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 小 林 直 樹				〔オフィス・アワー〕 時間： 適宜（※要事前連絡） 場所： 612 研究室			〔授業の方法〕 講 義
〔科目の概要〕 「憲法」は、政治家や政治に関心のある人の主義・主張とイメージしがちですが、実際には私たちにとって非常に身近な法といえます。つまり、私たちの生き方や国のあり方を左右し、現在および将来の人々の基本的人権、例えば、プライバシー権、性差別等を禁ずる平等権、思想・良心の自由や表現の自由等の自由権、生存権や教育を受ける権利等の社会権、主権者としての参政権の保障にかかわる法と言えます。そのため、私たちは権利や自由を充実させるために、教養としての憲法の知識を身につける必要があります。 そこで、本講義は、憲法が定める”基本的人権は何か？”、それらを支える”基本原理とは何か？”を考え、併せて、人権を保障するための手段としての統治機構、すなわち国会・内閣・裁判所といった各機関の概念のほか相互の関係(抑制と均衡)、地方自治について学びます。また、新聞記事等で取り上げられた具体的事例をとりあげ、憲法が受講生にとって身近な法であると感じられるよう、展開しようと考えています。 本講義では、中学・高校で学んだ知識を基盤としつつ、日本国憲法およびそれに関連する法（法律や条例、国際法）について、時事問題を通じて憲法の「考え方」を身につけることを目的とします。 なお、進捗状況によっては、授業スケジュールおよびその内容について若干の変更もあります。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義の目標は、教養としての憲法の「考え方」を修得することです。しかし、憲法は、時代や国・地域によって異なり、その「考え方」も異なります。また、社会現象（自然環境の維持や動物の福祉、人の生命や人生設計等のライフスタイルのあり方、生命倫理、情報化社会における個人情報保護、AI の進化、企業と人権問題、難民問題等）から影響を受けてダイナミックに変化もします。受講生各自が多様化する現代社会を意識し、興味関心のある分野（自然科学・人文科学）を学ぶことで、憲法の「考え方」のバリエーションを増やしてほしいと思います。それにより、憲法の「考え方」を深化させ、複眼的見方を得て、憲法の「考え方」を実践できるようになると考えます。							
〔科目の到達目標〕 4 点（①“憲法の基本的な用語を理解し、説明できるようになる”、②“憲法の「考え方」（学説や裁判例）を理解する”、③“憲法の「考え方」を理解したうえで、その内容を説明できるようになる”、④“①～③をもとに、社会における憲法にかかわる問題について自分の考えを説明できるようになる”）を重視し、評価をします。 A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 視聴覚教材を用いて学ぶ内容の理解促進に努め、特に、学ぶ内容が空理空論ではなく、社会と密接に結びつき、自分自身の問題であることを理解できるよう講義を組み立ててきました。授業評価は、その点について肯定的評価であったと理解しています。 授業評価では、毎回配布するレジュメの記入枠について小さいとの意見がありましたが、レジュメのサイズと用紙の配布を考慮してやや小さめに作成しています。紙資源を考慮すると基本的には枠のサイズの変更は最							

小限にとどめたいと考えていますが、可能な限りレジュメの枚数を増やすなり改善が可能かと思います。 「テストの情報がほしい」「テスト対策が少ししにくい」という意見についてですが、第1回の講義時（また、試験直前の14回・15回）に試験の説明をしています。Google クラスルームに記すことで対応します。ただ、このような意見のみならず受講生の疑問質問については、オフィス・アワー等において直接教員に質問することも重要なことなので、そのような環境を整えることで対応したいと思います。もっとも、試験対策という目先の利益にとらわれず、将来役立つ教養として憲法を学ぶことを求めます。	
〔教科書〕 必要に応じて、参考となる書籍を紹介します。	
〔指定図書〕 芦部信喜『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023）、小林直三ほか『判例で学ぶ憲法』（法律文化社、2022）	
〔参考書〕 高橋和之『立憲主義と日本国憲法〔第6版〕』（有斐閣、2024）、渡辺康行ほか『憲法Ⅰ〔第2版〕基本権』（日本評論社、2023）、同『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020）、長谷部恭男『憲法〔第8版〕』（新世社、2022）、松井茂記『日本国憲法〔第4版〕』（有斐閣、2022）、加藤一彦ほか『フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤』（北樹出版、2020）、長谷部恭男ほか『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、2019）、同『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣、2019）、弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016）など。	
〔前提科目〕 特になし。	
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 講義に出席しただけでは学んだことが知識として定着することは困難と考えます。全15回の講義につき予習・復習を十分に行われていることも評価していきたいと考えます。具体的には、講義中に、復習・予習が実行されているか確認の質問を行い、投げかけられた質問に対する応答、積極的な受講姿勢についても評価します。なお、原則、定期試験100%により評価を行いますが、欠席が3分の1を超えたとき受験を認めません。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本講義で学ぶ内容は、社会の出来事、つまり社会現象と無関係ではない憲法に関する事柄です。日頃から、報道番組や新聞記事に目を通し、実社会で何が起きて何が問題となっているのか、ということに関心を持ってほしいと思います。社会を知る、関心を持つことが、教養としての憲法を学ぶことにつながるからです。 また、講義中に質問をします（解答の正解・不正解は不問）。自分の考え方を正確に伝えるという意識をもって発言を試みてほしいと思います。さらには、本講義を卒業後に求められるコミュニケーション能力の涵養の場として活用してほしいとも思います。コミュニケーション能力の重要な一つの点は、自分の言葉で自分の考えを正確に発することです。受講に際して、単に板書するという受け身になるのではなく、教員や他の受講生と積極的にコミュニケーションをし、講義が成長発達となることを意識してほしいと願っています。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクションー憲法とは何かー 内 容: 本講義の進め方や方針について説明したのち、入門的な説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 国民主権と象徴天皇制 内 容: 日本国憲法の基本原則の一つである国民主権・象徴天皇制を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第3回	テーマ(何を学ぶか): 幸福追求権：プライバシー権について考える① 内 容: 憲法13条が保障する「幸福追求権」とプライバシー権（個人情報保護）を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

第4回	テーマ(何を学ぶか): プライバシー権について考える② 内 容: プライバシー権のうち、自己決定権、とりわけ、安楽死と尊厳死について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第5回	テーマ(何を学ぶか): 平等原則 内 容: 憲法 14 条が保障する「平等」について考えます。その際、憲法 14 条 1 項が列挙する禁止事項のほか、近時問題となる差別問題 (LGBT など) について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 信教の自由 内 容: 憲法 20 条が保障する「信教の自由」ほか、政教分離について考えます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 表現の自由——ヘイト・スピーチ問題—— 内 容: 憲法 21 条が保障する「表現の自由」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 経済的自由——職業選択の自由—— 内 容: 事業を行うさいに「資格」や「許可」が必要となるのかを、近時問題となる営業にかかわる具体的な事例を通じて学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 生存権 内 容: 憲法 25 条が保障する「生存権」について、近時問題となっている格差社会や、生活保護申請に対する水際対策等、人の生存にかかわる具体的な事例を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 教育権 内 容: 憲法 26 条が保障する「教育権」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 刑事手続・人身の自由 内 容: 憲法 36 条が定める「残虐な刑罰」の禁止は、死刑制度を否定するものか否かを学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 国会 内 容: 「権力分立」について理解を深めつつ、国民主権や国民代表制について学んだうえで、たとえば代表者である国会議員のリコール制度の可能性について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第13回	テーマ(何を学ぶか): 内閣 内 容: 議院内閣制と大統領制を比較しつつ、日本における議院内閣制について学び、たとえば、国民が直接内閣総理大臣を選出する「首相公選制」の可能性について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第14回	テーマ(何を学ぶか): 裁判所 内 容: 裁判員制度を通じて、日本の司法を学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第15回	テーマ(何を学ぶか): 地方自治 内 容: 憲法第 8 章 (92 条から 95 条) に定める「地方自治」について学びます。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
試験	筆記試験を実施します。講義中に扱った範囲から出題します。

[科目名]				[単位数]		[科目区分]	
地球科学				2 単位		教養科目	
[担当者]		[オフィス・アワー]			[授業の方法]		
三浦 英樹		時間：講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所：研究室(大学院棟 1203 室)			講義		
[科目の概要]							
地球科学を学ぶことは、われわれが暮らす惑星「地球」の環境や歴史を知り、その素晴らしさと限界を認識・理解することです。この授業では、人類が地球を認識してきた歴史を縦軸に、見出された地球の現象の内容と意味を横軸にして、以下の目標と内容で展開します。							
① 自然がもつ圧倒的な力、偉大さを感じ取り、自然に対する畏敬の念をもてるように、映像や写真、図などを活用して、地球上に見られる様々な自然現象の美しさや不思議さを紹介すること							
② 古代ギリシア・ローマ時代に始まり、大航海時代を経て、現代に至るまで、世界中の地理学者・博物学者・自然科学者が地球を知るために行ってきた探検、観察、実験等を取り上げ、それらの着眼点の面白さを感じられるように、発見・発想に至ったエピソード、作成された様々な図や記載および考察の内容を紹介すること							
③ 地球上で生じる様々な自然現象の原因やプロセスの内容と意味を理解できるように、それらを科学的・論理的に解説すること							
④ 地球をひとつのシステムとして理解するために、地球システムの考え方、異なる現象間の相互関係や現象の歴史性の考え方を伝えること							
⑤ 地球温暖化、食料問題、エネルギー問題、災害等、人類の存続に関わる問題を考える背景として、グローバルな視点とローカルな視点の両面から、人類と地球・自然との関係について考えること							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
人類はどのように地球を理解してきたのか、そして、地球はどのように成り立っているのか、そのような経緯や地球の仕組みと歴史を知ることは、現在の地球環境や今後の人類のあり方を相対化して考えることに繋がり、現代の人類が抱える様々な問題を客観的に考えるための第一歩となります。							
また、自然を深く理解して、より良く社会に活かすこと、災害から自分の命を守ることは人類の大きな知恵とも言えます。地球科学を学び、地球を理解することは、このような知恵を生み出すための基礎的な情報源になります。							
[科目の到達目標]							
授業を通して、地球上で生じる様々な自然現象を解説していきます。特に、毎回、重要な内容については、「ここがポイント!」というコーナーを設けて詳しく解説しますので、ここは、地球科学の基本知識として、しっかりと理解して身につけて下さい。また、それらの知識をつけることで、地球で見られる様々な現象を知的に把握して、楽しめるようになって欲しいと思います。授業の合間にお話しする、地球科学に係る探検史や研究の歴史、エピソードは、教養として楽しんで下さい。これらを習得することを到達目標とします。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]							
配付資料が多いことについては、不要と考える人には配付しないようにしたい。時間不足で、シラバスに示した予定の内容をすべて話せなかったことは大きな反省点である。2 単位の限られた時間内で、地球科学の全般にわたって、数式を使わず、専門的な内容をわかりやすく伝えることは容易ではないが、引き続き、努力したい。							
[教科書]							
ありません。各回で、必要に応じ、資料を配付します。試験時には配付資料のみ持ち込み可です。							
[指定図書]							
ありません。							
[参考書]							
荒木健太郎(2021)『空のふしぎがすべてわかる! すごすぎる天気の見方図鑑』。KADOKAWA.							
荒木健太郎(2023)『読み終えた瞬間、空が美しく見える気象のはなし』。ダイヤモンド社.							
貝塚爽平ほか編著(2019)『写真と図でみる地形学 増補新装版』。東京大学出版会.							
木村 学・大木勇人(2013)『図解・プレートテクトニクス入門 (ブルーバックス)』。講談社.							
是永 淳(2014)『絵でわかるプレートテクトニクス 地球進化の謎に挑む』。講談社.							

第一学習社(2023)『新課程二訂版 スクエア最新図説地学』 第一学習社。
 数研出版編集部(2023)『新課程 視覚でとらえる フォトサイエンス 地学図録』 数研出版。
 杉村 新(2023)『大地の動きをさぐる(岩波現代文庫)』 岩波書店。
 平 朝彦・国立研究開発法人海洋研究開発機構 (2020)『カラー図解 地球科学入門 地球の観察―地質・地形・地球史を読み解く』 講談社。
 地学団体研究会編(2024)『最新 地学事典』 平凡社。
 日本地形学連合編(2017)『地形の辞典』 朝倉書店。
 ニュートン編集部 (2014)『奇跡の惑星 地球の科学』 ニュートンプレス。
 ニュートン編集部 (2022)『地球温暖化の教科書』 ニュートンプレス。
 ニュートン編集部 (2022)『学びなおし 中学・高校の地学』 ニュートンプレス。
 浜島書店(2022)『ニューステージ新地学図表: 地学基礎+地学対応』 数研出版。

【前提科目】

ありません。なお、専門科目の「地形地理情報論」(基幹科目)、「自然史・地理情報と地域創造」(展開科目)を履修する方は、必ずこの科目を先に履修して下さい。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

- ① 授業の終了後には、「リアクションペーパー」を1週間以内に提出してもらいます(授業直後の休憩時間内でも研究室1203室前の回収箱のどちらでも可)。「リアクションペーパー」には、授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。文章は、他人が読むことを前提に、わかりやすく論理的に書いてください。おもしろい、又は重要な意見・質問は、できるだけ、次の授業冒頭で紹介・回答します。
- ② 授業中には、「ここがポイント!」というコーナーを設けて、地球科学における重要な現象・用語の内容について強調して説明します。期末に行う「試験」の内容の一部は、この「ここがポイント!」で解説した内容の中から出題します。授業中の説明を理解していれば回答できる内容です。
- ③ 「試験」の内容の一部は、授業中に示した地球科学の考え方や見方に基づいて、人類と地球・自然との関係について問いを出題しますので、それに対して自分の考えや意見を中心に論理的に自由に記述する形式とします。

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- ① 第1回の講義で、講義全体の目的や評価方法を説明するので、履修を検討する場合も、第1回の講義には必ず出席して下さい。理由なく15回中4回以上欠席した場合は、F評価とします。出欠は、毎回、学生証を用いて機械的に行うので、学生証を忘れないように注意して下さい。
- ② 授業終了後には、「リアクションペーパー」を1週間以内に提出してもらいます(授業直後の休憩時間内でも研究室1203室前の回収箱のどちらでも可)。「リアクションペーパー」には、その日の授業を受けて感じたこと、自分が考えたこと・感想、講義内容への質問や意見などを自由に記述したものはどんなことでも積極的に評価しますが、虚偽の記述(その日説明していない内容を、配布資料だけ読んで書いているような場合)を一度でもした場合、その時点で、試験を受けても0点(F評価)とします。
- ③ 「試験」の内容の一部は、地球科学における重要な現象・用語の内容や理屈について、正しく論理的に理解して、説明できるかという観点で評価します。
- ④ 「試験」の内容の一部は、人類と地球・自然との関係に関する問いへの自由記述になりますので、ここでは他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉でわかりやすく論理的に表現しているかという観点で評価します。
- ⑤ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価60%、「試験」の評価40%の比率で、両者を合算して、合計100点満点(A:80点以上、B:70~79点、C:60~69点、D:50~59点、F:50点未満)で評価します。
- ⑥ 「リアクションペーパー」に、その日の講義と全く関係ない虚偽の記述を一度でもした場合、および正当な理由なく、休みや遅刻が多い場合は、評価対象とはせず、試験を受けても0点(F評価)とします。

【実務経歴】

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション、(1)地球の姿と活動: ①地球の大きさや形 内容: 全体のイントロダクションとして、この講義の目的と内容を概説します。また、地球科学の基本的な情報として、地球の大きさや形の考え方について解説します。 教科書・指定図書
-----	---

第2回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：②地球の構造と地磁気 内 容：地球内部の層構造はどのようなになっているのか、地磁気とはどういうものかを解説します。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：③地球内部の熱とプレートテクトニクス 内 容：地球内部にはなぜ熱が存在するのか、プレートテクトニクスの考え方はどのように導かれてきたのかについて解説します。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：④プレートの境界で生じる現象 内 容：プレートの境界にはどのような種類があり、それぞれの境界では、どのような地球科学上の現象が生じているのかについて解説します。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：⑤地震の仕組み 内 容：地震が発生する仕組みと地震に関わる用語について解説します。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：⑥地震と活断層 内 容：地震が起こる場所と断層との関係、活断層、地殻変動及びそれらがもたらす地形や災害について解説します。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：⑦火山活動の仕組み 内 容：マグマの発生と火山活動の仕組み、火山の分布について解説します。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)：(1)地球の姿と活動：⑧火山噴火と火山噴出物・火山地形 内 容：火山噴火の様式と火山噴出物、火山地形及び火山噴火がもたらす災害や恩恵について解説します。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)：(2)地球の歴史：①風化と重力、河川および海の波による地表の変化と地形・地層 内 容：風化と重力、河川および海の波がつくる地形と地層について解説します。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか)：(2)地球の歴史：②風および氷河による地表の変化と地形・地層、地質時代の区分 内 容：風および氷河がつくる地形と地層、及び地球の地質時代の区分について解説します。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか)：(3)大気と海洋：①大気と海洋の構造と循環 内 容：地球全体の熱収支、大気圏の構造と循環、海洋の構造と循環について解説します。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか)：(3)大気と海洋：②雲の形成と降水・降雪 内 容：大気中の水蒸気、雲の形成、降水・降雪の仕組みについて解説します。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)：(3)大気と海洋：③低気圧と高気圧 内 容：大気の流れと高気圧・低気圧、温帯低気圧と熱帯低気圧の発生の仕組みについて解説します。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか)：(3)大気と海洋：④日本列島周辺の気候と気象 内 容：日本列島周辺で見られる気候と気象の現象とその特徴について解説します。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか)：(4)地球の環境：地球システム・地球環境の変化と人類 内 容：地球システムと地球の歴史という視点で、今まで見てきた様々な現象を捉えなおし、そこに人間がどのように関与し、影響を与えるようになってきたのかを解説します。 教科書・指定図書
試 験	80 分の筆記試験を実施します。

[科目名] 宇宙の科学				[単位数] 2 単位		[科目区分] 教養科目	
[担当者] 葛西 真寿			[オフィス・アワー] 時間：講義の前後 場所：講義室			[授業の方法] 講義	
[科目の概要]							
この科目では、宇宙の成り立ちとしくみに関する知識を学びます。太陽系の構成、銀河系、銀河団、そしてそれらを全て含む宇宙空間の大きさと進化に関する知識が、どのような観測と物理学的理論によって明らかになってきたかを理解します。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
この授業は、宇宙物理学の研究を専門とするのではないが宇宙に強い興味を持つ学生諸君が、その好奇心を満たすための知識と方法を学ぶ授業です。客観的な観測データと科学的理論に基づいて、論理的に宇宙の姿を理解する過程は、宇宙の科学のみならず、広く自然科学の全ての分野でも共通する考え方であり、この授業を通して、このような「科学的な思考法」を身につけることに結びつきます。							
[科目の到達目標]							
宇宙の成り立ちとしくみに関する基礎的な知識を身につけること。 また、その知識がどのような観測データと物理学的理論に基づいているのかを理解できること。							
[ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]							
[教科書] 使用しません							
[指定図書] 特になし							
[参考書] 特になし							
[前提科目]							

特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業中に提示する課題に関するレポートと、授業の後半に行う小テスト(レポート・小テストを合わせて 10 回程度)の総合点を 100 点満点に換算して評価します。授業時間内に回収します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 宇宙の成り立ちとしくみに関する知見は、人類の長い歴史の中で蓄積されてきました。さらに、最新の観測データによって、宇宙に関する新しい謎が生まれ、そしてその謎が解明されつつあります。長い歴史をもつ宇宙に関する理解が現在もダイナミックに変遷しつつある姿を、授業を通して伝えるよう取り組みます。学生諸君も、「これまでわからなかったことがどのようにしてわかるようになったのか」、「今わからないことを、これからどのようにしたらわかるようになるか」という問題意識を持って授業に臨むことを要望します。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 宇宙，その大きさと現在・過去・未来 内 容： この授業のイントロダクションとして，地球の大きさから，太陽系の認識，銀河系の認識，そして膨張宇宙の現在・過去・未来を概観します。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 銀河系と宇宙 内 容： 天の川銀河，銀河団，膨張宇宙の認識について，歴史的経緯を交えながら紹介します。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)： 恒星の性質 内 容： 太陽のような恒星の性質，特に発生するエネルギーの仕組みや内部構造について概観します。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)： 恒星の終末 内 容： 太陽のような恒星にも逃れようのない終末があります。恒星がどのような進化を遂げ，どのような終末を迎えるのかを概観します。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)： 太陽系の構成 内 容： 太陽系を構成する天体について，特に最近採択された「惑星」の定義や，惑星以外の太陽系の構成天体について解説します。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)： 太陽系探査 内 容： 探査機による太陽系内の探査，特に当時話題となった小惑星探査機はやぶさについて紹介します。 教科書・指定図書

第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 地球環境:宇宙からの視点 内 容: 温暖化などの地球環境問題の認識には, 宇宙からの視点も欠かせません。地球を取り巻く宇宙空間からみた環境問題について紹介します。 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 系外惑星探査, もう一つの地球を探せ 内 容: 太陽系以外にも生命の存在可能な天体があるのか, 最近の観測について紹介します。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 宇宙空間のエネルギー構成:見えないものを見ようとして 内 容: 最近の観測から明らかになってきた宇宙空間を満たしているエネルギーの構成比, 特にダークマター, ダークエネルギーについて説明します。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 世紀の変わり目に起こった, あるいは起こらなかった天文学的事象 内 容: 20 世紀末から 21 世紀のはじめにかけて起こった, あるいは起こらなかった, 大事件というわけではないが興味深いいくつかの天文学的事象に解説します。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 宇宙の年齢と歴史 内 容: 宇宙年齢, 宇宙の熱的歴史と元素合成, 宇宙における大規模構造形成について解説します。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 星の終わりからはじまるもの 内 容: 宇宙初期の元素合成だけでは全ての元素は合成できません。ヘリウムなどの軽い元素以外の重元素は(ウラン元素に至るまで), 星の終末につくられることを紹介します。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 星の終末におけるウラン合成がもたらすもの 内 容: ウランといえば原子力エネルギーを連想させます。そこで今回は発展トピックとして, 地域におけるエネルギーについて, 原子力エネルギー関連や自然エネルギー関連について広く理解していきます。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 相対性理論とはどんな理論か, なぜ必要か 内 容: 宇宙を理解するためには特殊および一般相対性理論が必要です。そこで今回は発展トピックとして, 相対性理論とはどんな理論なのか, 相対性理論が予言する観測可能な現象にはどのようなものがあるのか, 難しい理論の詳細には立ち入らずに解説します。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 宇宙に終わりはあるのか 内 容: 膨張する宇宙の未来はどうなるのか。果たして宇宙には終わりがあるのか, それとも…現代の宇宙論が予言する宇宙の終末について紹介します。 教科書・指定図書
試 験	筆記試験は行いません。

〔科目名〕 科学技術と社会I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 本田 明弘 Akihiro Honda		〔オフィス・アワー〕 時間:講義中に指定 場所:講義中に指定				〔授業の方法〕 講義およびグループ討議	
〔科目の概要〕 本講義では、特に現代注目されているエネルギー問題を例にとり科学技術と社会との関連を歴史的な観点から振り返ります。脱炭素社会の必要性が叫ばれる昨今において、エネルギー問題は社会的に重要な課題であり、世界、日本の動向を理解する。日本のエネルギー政策では、S+3E(安全性、安定供給、環境適合)の社会的価値が重視されますが、地域ではさらに持続可能性と社会的便益が求められます。これらを実現するため科学、技術、社会の各々の役割について議論してゆきます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義では、青森の特長を理解して、地域の発展をけん引できるリーダーとしてのスキルを培ってほしいと考えます。そのためには国際的な目標である SDGsを実現するため現時点での科学・技術の課題に関する基礎的な知識を身に着け、具体的な行動につなげてゆく必要があります。これにより青森の特徴の一つであるエネルギー問題と地域産業との関係がより密接に関連付けられ、人材育成や産業振興につながってゆく可能性があります。							
〔科目の到達目標〕 科学技術と社会との関係に関する基礎的な知識を習得し、青森県、青森市の特長を理解して、グループ討議を通じて。今後の地域でのリーダーシップを身に着ける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 受講生個々の知見を高めることと、グループでの討議を通じたリーダーシップを発揮してほしいと考えます。							
〔教科書〕 なし							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 エネルギー資源の世界史 利用の起源から技術の進歩と人口・経済の拡大 松島 潤 編、(2019)、ISBN978-4-909383-10-5、一色出版 エネルギー産業の 2050 年 Utility 3.0 へのゲームチェンジ 竹内 順子 編著、(2018)、ISBN978-4-532-32170-3、日本経済新聞出版社							
〔前提科目〕 なし							

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) レポート2回(40点) テスト2回(60点) 欠席は5回に達した時点で、他の成績に関わらず F 評価とする。 大幅な遅刻については出席と認めない。 なお、やむを得ない事情により出席ができない場合には、都度教員と連絡をとり別途のレポートなど考慮する場合があります。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 学生の活発な姿勢・発言を評価します。	
【実務経歴】 製造業 研究職	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イン트로ダクション 内 容: 講義の進め方、グループワークの留意事項 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 社会におけるエネルギー サプライチェーン 内 容: 社会におけるエネルギーの役割と経済活動の関係 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーの歴史と変遷 内 容: エネルギーの種類と、世界における変遷。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 世界のエネルギー動向 内 容: 最近の世界のエネルギー動向を理解する。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 日本のエネルギー動向 内 容: 日本のエネルギー動向を理解する。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): エネルギーの利用 内 容: エネルギーの利用形態と課題を理解する。テスト(1回目) 教科書・指定図書

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):化石燃料によるエネルギー 内 容: 化石燃料でのエネルギーに関して科学技術と社会の課題を理解する。 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):原子力によるエネルギー 内 容: 原子力エネルギーに関して科学技術と社会の課題を理解する。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):再生可能エネルギー 内 容: 再生可能エネルギーに関して科学技術と社会の課題を理解する。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):エネルギーと科学 内 容: エネルギーに関連する科学(サイエンス)の現状と課題を理解する。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):エネルギーと技術 内 容: エネルギーに関連する技術(テクノロジー)の現状と課題を理解する。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):地球温暖化と社会 内 容: 地球温暖化と脱炭素社会の関係を考える。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):青森県、青森市の特長と進むべき方向 内 容: 青森県、青森市の特長を理解して、今後進むべき方向性を考える。(グループ討議) 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):講義で得られた知識の確認(各人) 内 容: 各自でテスト(2回目)およびレポートを作成する。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):グループ討議とレポート作成 内 容: 「社会の課題と役割」に関するグループでのディスカッションとグループでのレポート作成 教科書・指定図書
試 験	

〔科目名〕 教 養 特 殊 講 義 I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目	
〔担当者〕 横 手 一 彦		〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始時に指示 場所:横手研究室(616 号室)				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この講義は、近代日本文学の作品を個別に読み解くこと(解釈)を基本とする。関連する文学的な事項や事柄を含め、ことばへの一般的な理解を深め(理論的考察)、自分のことばで表現すること(実践的・言語化)を目的とする。このことは、作品内容を要約し、成立背景等を確認し、本文を読み込むということにとどまらない。ことばは、自分が考えるという、自分の思考を外在化させる一つの形式である。そして、文学作品の読解は、非定型的な思考や感情の在り方を探究するという行為でもある。そこに、これまで自分が理解し、持ち得ていたこととは異なる、特異性や意外性があることに気付く。それは、外部要因に誘発されながら、内部的な在り方を深めることに通じる。これまでの「国語」教科の学習法と異なる接近を試みる。読書行為は、感受＝感じ取る、享受＝受け取って自分のものにする、鑑賞＝意味を理解し味わう、批評＝評価を述べる、評論＝意味を論じる、解釈＝意味を解き説明する、研究＝事実を調べ分析的に論理的に解説する、という各段階に区分けられる。作品は、読者(自分及び自分たち)の読書行為によって成立し、読者の位置(現在性)を問い直すことに拡散する。新たな意味付けは拡散し、再集約される。そこに、作品を読み込むという面白さがある。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ことばを学ぶ基礎は、自分の見方や考え方を捉え、自分と異なる見方や考え方を習得する契機を得て、再度自分の在り方に立ち返ることにある。 ことばは、見えることを表現し、見えないことも表現する。その狭間などを表現することで、それまでと異なる、私的な時空間が創出される。それは現実の時空間にありながらも、部分的に、現実の時空間を超える(理想・幻想・虚妄……)。 学び、考える主体として、近代という自明性に疑問符を付し、再構成し、全体像を構想し、人の在り方の変化を読み解く。ことばへの考察や分析の基本に立ち返ることで、他の科目との相互性が底辺部に形成される。 ことばによって、「理解すること」と「表現すること」を再把握する行為は、間接的に、生きるという姿や形に関わる。時には、直接的に関わる。〈学ぶ〉ことは自立的に生き続け、より真っ当に在り続ける方途である。その意味を、教場で考えたい。							
〔科目の到達目標〕 ことばを理解し、表現する、という人文科学領域の段階的实践から、特定の課題に対し、解決する方向性を模索する。講義後半では、映像や画像などの視覚媒体との関わりに拡大する。現実に向き合い、現実の課題を対処する能力の獲得(視覚媒体も含めた文字媒体による「理解」と「表現」)。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○						
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教場でプリントを配布する。平板な講義にならないように、また受講生の理解を深めるように講義内容を組み立てる。教材研究に基づく教材開発に努め、一端を講義に組み入れる。							

〔教科書〕 特に指定しない。	
〔指定図書〕 特に指定しない。	
〔参考書〕 講義の進行に伴い、適書を指示し、参考文献を紹介する。	
〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 近代の文学作品の諸相を多義的な視点から読解し、学生の意見を求める。後半には、視覚媒体の教材を含める。講義で小レポートを課す(クイズ)。また講義終了時、講義内容等に関するコメントを求める。学生の講義への参加を促し、それらの関わりを評価対象とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は、次のような項目立てに拠っている。I. はじめに II. 前回の学生コメントの紹介 III. 復習 IV. 学生の考察・作業 V. 作品紹介 VI. 分析と考察と論理化 VII. 理論的な思考方法 VIII. 要点確認 IX. 質問 X. コメント。事前に学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な取り組みを望む。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 講義への導入 内 容: 自己紹介 受講要件の確認 受講態度など 講義の概略 出席カード 講義の導入(例. 言葉の基本形 作品評価の具体例) 宮野美乃里の作品 国語と母語 教科書・指定図書 なし 以下同じ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為 1 内 容: ことばの基本形 学校教育 自国の言語の規範 西行の作品 文学作品の分析例 文学の 3 要素 分析の 3 視点 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 物語るという行為 2 内 容: 物語るという動物的な行為(?) 物語るという人間的な行為 神の視点から人間の視点への転換 時空間の整序 科学的思考方法の一例 解釈学的な経験 蕪村の作品 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化 1 内 容: 近代という考え方 三重の時間の束 身体的な関わり 1 耳からの読書 目からの読書 例. 宮沢賢治の作品 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 分析的思考と論理化 2 内 容: 思考方法(二分法と三角形と四角形. 補助線) 原典研究と批評史研究 存在と非在 例. 三浦綾子の作品 教育的価値観の逆転 = 墨塗教科書 教室という空間 教科書・指定図書

第 6 回	テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆 1 内 容: 世界戦争と人間の在り方 過去完了形と現在進行形 身体的な関わり 2 例. 林京子の作 A 当事者と非当事者 平和的という関係性 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): テーマ性の追求(人類史的な経験)——長崎(浦上)原爆 2 石田雅子作品 内 容: 家族の形 書誌的追求 被爆時の救援列車 例. 林京子の作品 B 敗戦 敗戦期の文学 混沌に生きる 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 地域史研究・文化研究の可能性 内 容: 長崎県島原半島 口之津港 外国船 地域に生きる 地域外に生きる 子守唄 情の結晶 地域の庶民史 地域の文化 過去の生成物 他例. 事例研究「島原の子守唄」 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 思考過程を組み立てる・思考過程を文字化する 内 容: 対話「本気」 夢と現実 学ぶということ ことばで語る ことばで表現する 例. 咸宜園 適塾 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 1——文字媒体・画像媒体・映像媒体の段階 内 容: 絵画と文字 壁画 印刷 肖像画 写真技術の発達 上野彦馬 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 2——画像媒体の進化 目の現実とレンズの「現実」 内 容: 絵画による理解 画像による理解 映像による理解 米国企業コダック 19 世紀から 20 世紀へ 映像の諸相 画像から映像へ 映画産業の成立 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 3—— 映像の進化 内 容: ヒトラーとチャップリン 電子技術 「理解」と「表現」 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 4——文学と映像 A 地域に生きる 内 容: 津軽三味線 仁太坊と金木と津軽 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 新しいことば 5——文学と映像 B 「現実」が描く事実と人 批評する視点 内 容: 津軽三味線 視覚化された作品世界 現実と「現実」 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: ことば(話す・聞く・読む・書く) 文学作品 表現と形式 理解と表現 視覚資料と文字資料による現実と「現実」 教科書・指定図書
試 験	課題レポートの提出

〔科目名〕 名著講読演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 大森 史博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 哲学とは何か、哲学の古典的名著の読解、哲学入門							
〔演習内容〕 哲学とは何か。文献を丹念にねばり強く読み解くことを基本として、ともに対話をかさね、思索を深めたい。人間の存在、時間的なあり方、世界の存在、および関連する哲学の問題群、諸概念をめぐり、参加者それぞれの関心に応じて事象に対する焦点を見定め、探求をすすめる。 問い、存在、生、自己、身体、知覚、他者、時間、瞬間、永遠、美、言語、等々が鍵となる概念である。 哲学の思考は通常きわめて抽象的な水準を動いていると思われる。しかし、この演習でおこなおうとするのは、感覚を研ぎ澄ませて言葉の繊細なニュアンスに分け入ることであり、抽象的と思われる諸概念を、自らが生きる経験の場において捉えなおすことである。こうした思考の実践をとおして、哲学という営為の核心に迫る。							
〔科目の到達目標〕 テキストを精読することにより、哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。その問いかけ、思想や概念をふまえ、自らが考えるべき問いを吟味し、仕上げ、提起することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 経験の事象に立ち戻り、探求的に思考し、他者に問いかけ、表現する努力をつづけること。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テキスト読解の事前準備、授業における質疑応答、レポート課題。評価の方法に関しては、とりあげる思想や概念および問題設定の精確な理解、考察の掘り下げ、言語的表現という三つの観点を基本として測る。							
〔教科書等〕 デカルト『方法序説』(邦訳書が複数ある。) ベルクソン『思想と動くもの』(邦訳書が複数ある。) ドゥルーズ『哲学とは何か』財津理訳、河出文庫、2012 年 その他、授業のなかで紹介する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
春学期 前半	生の哲学と呼ばれるアンリ・ベルクソンの論考のなかからテキストを選定し、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。						
春学期 後半	現象学の哲学者モーリス・メルロ＝ポンティの論考のなかからテキストを選定し、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。						

9月 から 10月	他の哲学系演習科目の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。
秋学期 前半	ひきつづき、モーリス・メルロ＝ポンティの論考をテキストとして、精読する。その読解をふまえて質疑応答をおこない、参加者の各々が自分の問いを焦点化していく手がかりを求める。
秋学期 後半	生の哲学や現象学に関する本邦の文献資料を参照し、考察を深める。一年間の講読をとおして焦点化してきた問いをめぐり、参加者の各々はレポートの作成を準備する。

〔科目名〕 名著講読演習				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 小林 直 樹						〔授業の方法〕 演 習	
〔演習テーマ〕 「表現の自由」について学ぶ							
〔演習内容〕 ●演習の目的 「表現の自由」を中心にまとめられた研究専門書、論文または判例を輪読し、「表現の自由」とは何か、なぜ「表現の自由」を保障するのか、ということを知り、考え、必要に応じて文献等の調査を行い、自分の言葉で説明できるようになることを目的とします。 ●演習の内容と進め方 指定するテキストをもとに、輪読をし、テレビや新聞等の身近なニュースを素材として議論をし、「表現の自由」への知見を深めます。単にテキストを読むだけではなく、実際に最高裁判例を読み、必要に応じて映画やドラマ、ドキュメンタリー番組を視聴し、意見交換をします。なお、事前準備なく輪読すると学習効果はあがりません。理解度を高めるために、必ず予習をしてください。							
〔科目の到達目標〕 「表現の自由」のテキストを読むにあたり、予習において必要な事前の調査（新聞記事検索ほか、学説や判例の調査・検索）のスキル、調査結果報告（レジュメ等作成）のスキル、対話（コミュニケーション）スキルを習得することのみならず、一連の作業を通じて「表現の自由」の保障について体系的に理解し、自分の考えを適切に説明できるようになることです。 A 80 点以上 秀 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している B 70 点以上 80 点未満 優 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している C 60 点以上 70 点未満 良 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している D 50 点以上 60 点未満 可 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している F 50 点未満 不可 当該科目で定められた到達目標を、達成していない							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔前提条件〕 憲法学における「表現の自由」は古典的な人権であり、なおかつメジャーな領域であることから、最高裁判例も少なく、多くの研究文献・論文が出版、発表されています。学説・判例の難解な部分は担当教員が解説をしますが、それでも法学・憲法の基礎的知識が、履修上、最低限必要です。そのため、「法律と人間」または「憲法概論」、「民法」のいずれか2つ以上を履修済み／履修中の人を優先します。 演習は、基本的に指定テキストの輪読です。ただし、単なる読み合わせでは意味がないので、読んだ内容について理解度を高め、知識を増やすため、対話を通じて双方向の演習を行います。人前での発言や発表が苦手な方もかまいません。まずは、能動的かつ積極的に学ぶ意欲のある人を求めます。							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 演習における「調査、報告・発表、発言」という、課題への取り組み姿勢（レジュメの作成やプレゼンテーション、コミュニケーション）、卒業論文の完成・提出・発表							

〔教科書等〕 教科書は指定しませんが、必要に応じて、参考図書を紹介します。例として、説明会においてとりあげた以下の参考図書を図書館で借りる等してください。 ・ 奥平康弘『「表現の自由」を求めて：アメリカにおける権利獲得の軌跡』（岩波書店、1999） ・ 奥平康弘『なぜ「表現の自由」か 新装版』（東京大学出版会、2017） ・ 松井茂記『表現の自由を守る価値はあるか』（有斐閣、2020） ・ 右崎正博『表現の自由の現代的展開』（日本評論社、2022） ・ 高橋和之『人権研究 1 表現の自由』（有斐閣、2022） ・ 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕 -- How to study the Law』（有斐閣、2016）	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 本演習の目的や趣旨について説明したうえで、憲法の学び方（とりわけ「表現の自由」の学び方）について説明をします。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。
第 2 回 から第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 春学期の進め方 内 容: 春学期の演習の進め方を説明したのち、「表現の自由」を中心にまとめられた研究専門書、論文または判例を輪読します。 教科書・指定図書 該当ページについて適宜触れます。

〔科目名〕 名著講読演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 下村 育世						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを宗教史に着目しながら考える (1)天皇と宗教編							
〔演習内容〕 現在の日本では天皇の代替わりとともに元号が変わることは「伝統」として定着しているかのごとくだが、「大正」や「昭和」と呼ばれる一定の長さの時間を一人の天皇とともに想起するような時間感覚は、少なくとも江戸時代までの日本にはなかった。神道式の皇室祭祀も古くからの「伝統」のように見えるが、そのほとんどは明治以降に新たに創造されたものである。皇紀紀元の使用や、天皇の誕生日(天長節)を祝うなどといったことも明治以降の比較的新しい「伝統」である。 本演習では、近代の天皇が以前とくらべていかなる変容を遂げ、何をしていたのかを、具体的な天皇について書かれたテキストを通じて学んでいく。初めての輪読経験となることは承知しているので、比較的読みやすい本を選書した。テキストを丁寧に読む営みを通じて、正確に内容を理解できるように、そして批判的に読むとはどういうことかもわかるようになってもらいたい。 同じ日本人でも過去の人々は時として、現在の眼からは理解できない考え方をすることがある。わからないと切り捨てるのではなく、その論理や背景を理解しようとして努めて欲しい。歴史学とは「他者」を理解する営みでもあるからである。輪読にあたっての読書レジュメの作り方、発表の仕方は適宜指導していく。輪読書としては、高橋紘『象徴天皇』(岩波新書、1987年)、原武史『大正天皇』(朝日新聞出版、2015年)、島藺進『神聖天皇のゆくえ——近代日本社会の基軸』筑摩書房、2019年)などを候補とする。演習(ゼミ)は学生主体であるため、議論への活発な参加を期待する。							
〔科目の到達目標〕 ・文章を正確に読み、それを要約できる。 ・読書レジュメを作成できる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・批判的に読むということについて理解する。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 担当教員は今年度から本演習を担当するため、今年度はどなたでも受け入れます。 歴史や宗教に関心があることが望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) テストやレポート等は課しません。演習に毎回出席すること、必要に応じて読書レジュメなどを作成し発表することが必須です。議論においては積極的な発言を期待します。							
〔教科書等〕 履修学生と協議の上、都度輪読書を選定します。各自入手してください。							
〔実務経歴〕							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時 期	テ ー マ と 内 容
春学期	輪 読
秋学期	輪 読

〔科目名〕 名著講読演習				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 横手一彦						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 柳田国男「遠野物語」を読む。							
〔演習内容〕 各自が柳田国男「遠野物語」を一話毎に担当して、事前に調べて、口頭発表する。その後に意見交換を重ね、作品への理解を深める。							
〔科目の到達目標〕 柳田国男「遠野物語」の本文を読み込む。 柳田国男「遠野物語」の内容を深く理解する。 柳田国男「遠野物語」やその他の作品について、学生たちと意見交換を重ねる。 岩手県遠野市の实地踏査をおこなう。 青森県内实地踏査を踏まえ、柳田国男「遠野物語」と異なる方向から、地域性への理解や民俗学的な考察を深める。 史的資料(民話などを含む)と文字記録と小民史の関わりを多面的に考察する。 地域性の在り方などについて議論を深める。 各自関心に基づく自己表現を実践する(多読.批評.研究.創作)。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 演習における口頭発表や学期末レポート。							
〔教科書等〕 なし。							
〔実務経歴〕 該当なし。							
授 業 スケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
四月～ 五月	年間を通じた、ゼミ活動の大凡の話し合い。 柳田国男「遠野物語」本文の分担を決める。 柳田国男「遠野物語」成立の背景と概要の説明。						

六月～ 七月	岩手県遠野市の事前学習と実地踏査。 実地踏査後の意見交換。 柳田国男「遠野物語」本文を読み込む。 柳田国男「遠野物語」本文や周辺の事柄に関する意見交換。 レポート作成と提出。
九月～ 一〇月	青森県内の実地踏査地決定と事前学習。 実地踏査の実施。 実地踏査後の意見交換。 柳田国男「遠野物語」本文を読み込む。 柳田国男「遠野物語」本文や周辺の事柄に関する意見交換。
一一月 ～一二 月	柳田国男「遠野物語」本文を読み込む。 柳田国男「遠野物語」本文や周辺の事柄に関する意見交換。 地域への理解や民俗学的な考察を深める。 史的資料(民話などを含む)と文字記録と小民史の関わりを多面的に考察する。 地域性の在り方などの議論を深める。
一月	柳田国男「遠野物語」本文を読み込む。 柳田国男「遠野物語」本文や周辺の事柄に関する意見交換。 各自の関心に基づく自己表現を実践する(多読.批評.研究.創作)。 レポート作成と提出。

〔科目名〕 自治行政政策論				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 青森県職員 (コーディネーター : 経済グループ)			〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 青森県の経済・財政・労働政策・農林業・水産業・観光などに関し、現状や課題および今後の方向性といったことについて、青森県庁の関連セクションの責任者を講師として招き、最新の情報をまじえて講義をしていただきます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 自治行政の現実や課題を知って、キャリア形成に役立ててください。 公的機関に関心のある人は本科目から多くの刺激を受けるでしょう。一方公的機関に関心のない人も地域住民の一人として、地方自治体がどのような問題意識を抱いて政策を立案しているのかを知ってもらいたいと思います。							
〔科目の到達目標〕 青森県の自治行政政策全般、ならびに主要な施策に関する具体的な計画や事例をとりあげます。この講義を通して地域公共政策のあり方、地方自治体が直面する諸問題を、制度と現実の両面から理解し、考察する力を養うことが主な目標です。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義室内の温度管理に気を付けます。							
〔教科書〕 授業ごとに資料を配布します。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 図書館に地方行政・公共経済・地方財政など多くの本があるので、積極的に参照してください。							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験および各回の課題を総合的に評価します。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 県議会の開会など、やむをえない公用がある場合、休講・補講や講義内容の変更、講師の変更などがあるかもしれません。掲示に十分注意してください。受講時の私語や途中退室は厳禁です。これらの行為に対しては注意を行い、評価点に反映させます。							
〔実務経歴〕 自治体での実務経験を活かし、青森県の経済・財政・労働政策・農林業・水産業・観光などに関し、現状や課題及び今後の方向性について、最新の情報をまじえて講義する授業です。							

※ 授業スケジュールについては別途掲示にてお知らせします。

〔科目名〕 事業論Ⅰ（保険論）				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 辻本 泰之			〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 保険全般の概要と現状・課題について講義する。代表的な保険である自動車保険や生命保険では、少子高齢化によって、需要構造が急速に変化する現状があり、それに対応する保険商品の変化、新たな保険対象、国際化が進められている。講義を通じて、ミクロ経済学、財務に関する科目で学んだ理論や知識と現実を対応させ、総合化する。また、企業、消費者等の顧客の潜在ニーズを捉え、それに応える感性の重要性を述べ、変化し続ける現実の課題に対応するために、既存理論の適用や応用だけではない、創造性を強調することを通じてキャリア意識の向上を図る。 東京海上日動火災保険㈱の第一線で活躍する講師が理論と実務の両面から幅広い視点で講義を行う。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 損害保険は人の生死以外の世の中のすべてのリスクをカバーしている。 例えば火災や自動車事故などの不測の出来事、台風や地震などの自然災害、企業の事業活動に伴う第三者への賠償責任の負担など、ありとあらゆる領域にわたる。 現代社会は個人の生活や企業経営を脅かす無数のリスクに対応できる「創造性」と「スピード感」が求められるといえ、本科目を学ぶことでリスクに関する理解を深め、リスク感受度を高め、リスクへの対処方法が学ぶことができる。また社会人講師の講義に参加することで、来るべきビジネスパーソンとしての視点・資質を養うことができる。							
〔科目の到達目標〕 環境の変化に伴うリスクの高度化に対応するため、損害保険の基本をおさえるとともに、リスクの本質を理解し、リスクへの対応方法を身に付ける事を目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
〔教科書〕 講師作成資料							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 必要な時に掲示							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 本講義は各講義中に課すミニレポートと期末レポートで評価を行う。 出席状況や、講義の受講態度も成績に反映させる。 単位認定のための評価は下記により行う。 ①ミニレポート 満点 10 点（各回） 最低 600 文字以上で各講義内容のまとめ・感想（Forms での提出を予定）							

②期末レポート 満点 30 点 A4用紙3～5枚程度、全講義で学んだことのまとめ ※ミニレポートは次回講義までに提出。期末レポートは最終講義から 2 週間以内の提出。 ※3 回以上欠席または課題レポート未提出者は評価対象外とする。 下記授業スケジュール(テーマ・内容)は変更される場合があります。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 社会的に十分な理解を得ていない保険事業について、学生の皆さんの理解の解像度を上げていくため、真摯に授業に取り組んで参ります。 学生の皆さんには、未知なる事業である保険業というもの、好奇心と積極的な姿勢で講義に参加されることを期待しております。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回 6/3	テーマ(何を学ぶか)： 保険概論 内 容： さまざまなリスクに応じて設計される損害保険についての基本的な内容について学ぶ 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 2 回 6/10	テーマ(何を学ぶか)： 損害保険商品(その1：自動車保険・賠償責任保険編) 内 容：さまざまなリスクに対応する一般的な損害保険商品の構成や機能を学ぶ 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 3 回 6/17	テーマ(何を学ぶか)： 損害保険商品(その 2： 火災保険・傷害保険編) 内 容：さまざまなリスクに対応する一般的な損害保険商品の構成や機能を学ぶ 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 4 回 6/24	テーマ(何を学ぶか)：リスクコンサルティング 内 容：企業が抱えるさまざまなリスクに対する補償の設計の方法について学ぶ(複数に分かれてのグループワーク形式を予定) 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 5 回 7/1	テーマ(何を学ぶか)：損害保険サービス 内 容：実際に事故が起こった際の保険金の支払の流れや損害額の査定、交通事故の際の過失割合の考え方について学ぶ 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 6 回 7/8	テーマ(何を学ぶか)：リスクと未来を考える 内 容：カードゲーム形式で、店舗経営者を疑似体験しながら経営戦略を様々なリスクを想定し、リスクに備える考え方を学ぶ(複数に分かれてのグループワーク形式を予定) 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
第 7 回 7/15	テーマ(何を学ぶか)：キャリアと損害保険事業 内 容：キャリアとは何かを考え、損害保険事業でどのようなスキルアップと経験ができるかを学ぶ 教科書・指定図書 講師の準備する資料による。
試 験	提出されたレポートの合計点数により評価を行う。 ①ミニレポート 満点 10 点(各回) 最低 600 文字以上で各講義内容のまとめ・感想(Forms での提出を予定) ②期末レポート 満点 30 点 A4用紙3～5枚程度、全講義で学んだことのまとめ ※ミニレポートは次回講義までに提出。期末レポートは最終講義から 2 週間以内の提出。 ※3 回以上欠席または課題レポート未提出者は評価対象外とする。

〔科目名〕 経営戦略論Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 小松原 聡 こまつばら さとし			〔オフィス・アワー〕 時間： 授業時間の前後を利用します 場所： 講義に使用する教室 ※ オフィス・アワー外の連絡先(メール・アドレス) s-komatsubara@aomoricgu.ac.jp			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 「経営戦略論」は経営学における重要な学問領域の一つであり、企業の存在目的や意義を高度に実現するための目標体系や、目標を達成するための合理的な施策・実現手段・活動体系を構築するための理論体系です。「経営戦略論Ⅰ」では企業の行動を決定付ける経営戦略に関する基礎的な理論を体系的学習したので、「経営戦略論Ⅱ」では経営戦略理論の応用力を修得することを目指して、戦略経営に関する今日的課題テーマに即した経営戦略の考え方を理解します。 戦略経営には、経営戦略論のみならず経営組織論や管理論の領域に含まれる考え方を総合的に理解することが求められるので、それらの視点を含めて理解することを視野に入れます。また、この科目では、理論の修得だけではなく、経営戦略策定等のコンサルティング実務経験を有する教員の経験を活かした講義を行う、実践的な課題解決型学習(PBL)の要素を取り入れた授業を展開します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 【他の科目との関連付け】 本講義を理解するためには「経営戦略論Ⅰ」を履修していることを前提とします。また、戦略経営では、企業組織内のさまざまな機能や組織階層間の連携・整合性が確保されることのみならず、市場や経済等社会全般との関わりの中における適切な意思決定に基づく企業行動が求められます。本講義を通じて経営戦略理論を実際の企業経営のコンテキストの中で理解できるようになるためには、経営組織・管理、マーケティング、会計・財務等経営の諸理論の統合的な理解が必要とされるのみならず、他学問分野を含めた学際的な知識を修得する姿勢が大事になります。 【学んだことが何に結びつくか】 経営戦略に関する主要理論を体系的に理解した上で、それらを実際の企業経営の諸局面における戦略的行動に関する意思決定に応用できるようになることを目指し、企業経営の今日的課題解決の視点から戦略経営の実践方法を理解します。							
〔科目の到達目標〕 本講義を通じて、さまざまな情報を取捨選択しながら、自ら考え、意思決定し、自らの方向性を確立できる能力の構築を到達目標とします。より具体的には、以下の視点から、「市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる」能力と「会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる」能力の構築を目指します。 1. 戦略的な経営に必要な戦略理論を的確に選択でき、それを適用できるようになる。 2. 戦略経営の基本フレームを設計することができる。 3. 技術を含めた重要な環境変化に対する戦略経営の進化のあり方をデザインすることができる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕 本科目は以下の DP に関係しています。							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 事例を交えて理論を平易に解説することで、実践的な戦略理論の枠組みを理解しそれらを活用できる基礎力を獲得することを重視します。							
〔教科書〕 以下の書籍を教科書として使用します。 「戦略経営の基本フレームと実践 価値創造企業へ進化する DX 時代の経営システム・デザイン」、小松原聡著、文真堂 (2023 年 4 月 28 日)。							
〔指定図書〕 以下の書籍を指定図書とします。							

「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン 世界で勝てる価値創造経営を実現する現場力活用」、日本型企業再生モデル研究ワーキング・グループ編、文眞堂(2022 年 5 月 15 日)	
〔参考書〕 授業内で適宜紹介します。	
〔前提科目〕 「経営戦略論Ⅰ」および 1 年次の経済・経営に関係する科目を履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末試験：実施しません(0%)。 授業の理解度を確認する課題レポートの内容(100%)。課題レポートは、3～4 回分の授業ごとに出題し、授業時間内で対応すること(小テストの形式)とします。課題レポートは、以下の視点から評価します。また、特別の配慮が必要な学生については、個別に対応します。 ・出題意図の理解 ・授業で学習した経営理論や経営要件の理解度 ・解答の論理性 ・解答の文章量と表現の妥当性(分かり易さ、読み易さ、文章表現の妥当性、等) ・教科書・指定図書以外の文献やウェブサイトからのコピーが大半を占める、他の学生と同一の記述が目立つものは大幅に減点します。 下記の点数の範囲で評価を行います。 A:100～80 点、B:79～70 点、C:69～60 点、D:59～50 点、F:49 点以下	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経営学を学ぶ学生の皆さんが理解し易いように、理論と具体的事例を交えた授業を展開し、実践的な応用力の養成を目指します。 授業開始前に、シラバスに記載の授業内容を指定図書や授業資料で確認しておくことを求めます。授業終了後は、学習内容を整理し理解を深化させ、不明な点等については担当教員に確認する等して疑問点を解消することを求めます。授業における標準的な事前・事後学習時間は 3 時間です。	
〔実務経歴〕 経営コンサルタントとして、戦略マネジメント・コントロール・システムの開発～実装に関するプロジェクトを多数実施。総合商社の企画部門で商権(＝事業モデル)改革や、異業種交流のための研究組織の事務局長も経験。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション 経営学と戦略論の概要 内 容： ・本講義の目的・概要、授業の進め方、成績評価方法、その他留意点について ・経営戦略論の学問的位置付けと基本的な考え方 ・経営戦略論の体系 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第Ⅱ部(第 7 章～第 10 章)。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：成長志向の経営への転換 内 容： ・成長戦略の重要性と基本的な考え方 ・日本企業の近年の対応と成長の阻害要因 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第 15 章、「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：価値創造におけるサービス事業化-1 内 容：経済のサービス化動向 ・サービスの本質 ・サービス化対応の理解 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第 16 章 16.1
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：価値創造におけるサービス事業化-2 内 容：製造業のソリューション事業化 ・製造業がサービス化することの意義 ・ソリューション事業の理解 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第 16 章 16.2

第5回	テーマ(何を学ぶか)： 価値創造におけるサービス事業化-3 内 容： ソリューション事業化する製造業のマネジメント ・製造業のサービス化するための障壁 ・製造業がサービス化で成功するためのマネジメントの選択肢 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第16章 16.3
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 価値創造におけるサービス事業化-4 内 容： 価値創造におけるサービス事業化の総括と小テスト ・第3回～今回までの授業の総括 ・第3回～今回までの授業の理解度を確認する小テスト 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第16章
第7回	テーマ(何を学ぶか)： 国際事業展開-1 内 容： 国際事業展開の戦略視点 ・成長戦略と国際事業 ・国際事業の類型 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.1
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 国際事業展開-2 内 容： 国際事業展開のマネジメント ・国際統合とローカル適合 ・国際事業と分権化 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.2
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 国際事業展開-3 内 容： 日本企業の国際事業展開オプション ・BOP 市場対応 ・国際市場リーダー対応 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章 17.3
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 国際事業展開-4 内 容： 国際事業展開の総括と小テスト ・第7回～今回までの授業の総括 ・第7回～今回までの授業の理解度を確認する小テスト 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第17章
第11回	テーマ(何を学ぶか)： イノベーションを加速する経営-1 内 容： 成長戦略と知識創造の考え方 ・イノベーションと知識創造 ・SECIモデル 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第18章 18.1、「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第4章 4.4～4.7
第12回	テーマ(何を学ぶか)： イノベーションを加速する経営-2 内 容： イノベーションを加速する経営環境と人材要件 ・知の進化と知の探索 ・イノベーションをリードする人材の要件 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第18章 18.2～18.3、「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第4章 4.1～4.3
第13回	テーマ(何を学ぶか)： イノベーションを加速する経営-3 内 容： イノベーションを加速する経営の総括と小テスト ・第11回～今回までの授業の総括 ・第11回～今回までの授業の理解度を確認する小テスト 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第18章、「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第4章
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 日本型企業再生のための経営資源と組織能力の進化-1 内 容： 日本企業の組織能力進化の基本的な考え方と現場力強化のためのマネジメント ・日本企業の負の遺産から脱却する組織能力強化のあり方 ・日本企業に必要な人財像 教科書・指定図書： 「戦略経営の基本フレームと実践」の第20章 20.1～20.3、「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第6章 6.1～6.2

第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 日本型企业再生のための経営資源と組織能力の進化-2 内 容： 日本型企业再生のための経営資源と組織能力の進化と小テスト ・組織能力の視点からの日本型企业再生 ・第 14 回～今回までの授業の理解度を確認する小テスト 教科書・指定図書：「戦略経営の基本フレームと実践」の第 20 章 20.4～20.5「DX 時代をリードする新日本的経営のデザイン」の第 6 章 6.3～6.5
試 験	期末の定期試験は実施しません。授業内で実施する小テスト形式の課題対応とします。

〔科目名〕 マネジメント論Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 中川 宗人 NAKAGAWA Muneto			〔オフィス・アワー〕 時間:授業内で掲示する 場所:505 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この授業では「マネジメント論Ⅰ」からの発展的な内容を扱います。具体的には、マネジメントに関する代表的な経営学説／理論を学んでいきます。代表的な理論／学説を学ぶことで、現代の企業経営や組織マネジメントについてより深く理解していくための土台を作ります。 この授業では以上の内容について、教科書を用いて学修していきます。原則として1回につき1章ずつ読み進めていきますので、必ず購入してください。 授業方法は、事前の読書と授業内での作業を組み合わせた授業を行います。具体的には、授業の前に指定の章を読み、わかった部分をまとめ、わからなかった部分はチェックしておきます。授業内では、教科書の内容を理解しているか、質疑応答を通じて確認していきます。個人だけでなくグループでの作業を行う場合があります。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 代表的な経営学説を網羅的に理解することで、経営学全体や、戦略、組織、人事、財務、マーケティングなどの他の専門科目をより深く理解するための土台が身につきます。また、抽象的・理論的な思考を養う訓練となります。							
〔科目の到達目標〕 ・大学レベルの教科書を正確に読み解くことができる。 ・基本的な経営学説・理論について説明することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・しゃべるスピードや音量についての希望が多かったので、聞き取りやすい説明を心がけます。 ・LMS での資料の配布など、事前・事後の学修がしやすい工夫を行っています。							
〔教科書〕 岸田民樹・田中政光(2009)『経営学説史』有斐閣(2300 円＋税)							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 なし							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 事務局が認める「公欠」を除いて、4 回以上欠席したものは不合格とします。 成績評価は、授業内での確認テスト約 40%、期末テスト約 60%、合計 100 点満点で行います。 詳細な評価方法は初回の授業で説明します。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教科書の指定範囲を事前に必ず講読したうえで、授業内では積極的に思考・発言することが求められます。これらが難しい場合は単位取得が困難となりますので、計画的な履修を行ってください。 授業内での作業に配慮が必要な場合は、教務を通じて相談してください。							
〔実務経歴〕 該当なし							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 授業の進め方、成績評価について説明します。履修予定者は必ず出席すること。 教科書・指定図書 プロローグ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 作業の合理化 内 容: 静態的構造学派について学びます。 教科書・指定図書 第 1 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 古典的経営管理論と管理原則の導入 内 容: 静態的構造学派について学びます。 教科書・指定図書 第 2 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 合理性と官僚制組織 内 容: 静態的構造学派について学びます。 教科書・指定図書 第 3 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 人間性の発見 内 容: 均衡学派について学びます。 教科書・指定図書 第 4 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 協働体系としての組織 内 容: 均衡学派について学びます。 教科書・指定図書 第 5 章
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 認識された制度の役割 内 容: 均衡学派について学びます。 教科書・指定図書 第 6 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 技術と組織構造 内 容: 適応的デザイン学派について学びます。 教科書・指定図書 第 7 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 課業環境と組織プロセス 内 容: 適応的デザイン学派について学びます。 教科書・指定図書 第 8 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 課業と組織デザイン 内 容: 適応的デザイン学派について学びます。 教科書・指定図書 第 9 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 問題解決を超えて 内 容: 進化プロセス学派について学びます。 教科書・指定図書 第 10 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 組織の進化理論 内 容: 進化プロセス学派について学びます。 教科書・指定図書 第 11 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 創発する戦略行動 内 容: 進化プロセス学派について学びます。 教科書・指定図書 第 12 章

第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 経営学説の枠組み——人間・組織・環境 内 容: エピローグを読みます。 教科書・指定図書 エピローグ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ 内 容: 期末テスト説明をします。 教科書・指定図書
試 験	筆記・選択肢式: 実施方法は授業内で説明します。

[科目名]				[単位数]		[科目区分]	
財 務 会 計 論 II				2単位		専門科目 基幹科目	
[担当者]		[オフィス・アワー]			[授業の方法]		
金 子 輝 雄		時間: 初回にアナウンスします 場所: 513研究室			講 義		
[科目の概要]							
～現代の会計基準を学ぶ～ キャッシュって？							
経営の状況を知る手段として会計はなくてはなりません。会計に関する情報は、マネジメントでの活用はもとより、配当額や課税所得の算定基礎となり、また証券投資における重要な情報となっています。 会計情報は簿記データを基礎としているわけですが、企業活動の進展にともない多様な取引が出現し簿記処理もますます複雑になってきます。またそれに合わせて会計基準も新設・改廃がなされています。ともあれ、現代の会計基準が見据えているものは、投資家のための「純資産簿価モデルの会計」といえるでしょう。 他方、会計の世界でも持続可能な社会(SDGs)の実現に向けて模索が続けられています。今日、従業員への給与がコストとされ、また、「人材投資」という言われ方をしますが、そもそも人間がコスト削減や投資の対象というのは奇妙な話です。つまり従来の会計は株主・投資家のための会計であり、これを改めなければなりません。「新しい付加価値会計」も提唱されています。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
・財務会計論Ⅰは簿記の背景にある会計の考え方を学びましたが、「Ⅱ」では最近公表された新しい会計基準の解説を行います。ここでの学修が、財務分析、管理会計、監査論、税務会計等へと展開していきます。 ・日商簿記検定試験2級以上の内容。そして難関とされる1級、公認会計士試験の財務会計論(短答式)・会計学(論文式)、税理士試験の財務諸表論、国税専門官採用試験の会計学の受験準備にも役立ちます。							
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]							
(中間目標) 日商簿記2級のリース会計や外貨換算、連結会計等をマスターする。 (最終目標) キャッシュ・フロー計算書、減損処理、退職給付会計等、アドバンストの内容をマスターする。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○						○	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]							
試験範囲を明確してほしいとの要望を受け、試験問題の予告をするようにしています。							
[教科書]							
桜井久勝『財務会計講義＜最新版＞』中央経済社 ＊財務会計論Ⅰで上記テキストを購入した人はそのまま使用してください。							
[指定図書]							
藤井・内藤・吉岡編著『フランス会計の歴史と制度』白桃書房 2024 年							

〔前提科目〕	
「会計学基礎論」	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
①	確認テスト (45%)
②	期末テスト (45%)
③	ミニツツペーパー(出席カード) (10%)
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
本学でも公認会計士試験合格者や税理士試験科目合格者が誕生している。受講者が会計プロフェッション(国税専門官等も含む)の道にチャレンジすることを期待している。	
〔実務経歴〕	
銀行業及び税理士事務所	
授業スケジュール＜目安です！＞	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義の進め方とキャッシュ・フロー会計の意義 利益とキャッシュの違い！ 教科書・指定図書 本シラバスおよび配布プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか): キャッシュ・フロー計算書 内 容: キャッシュ・フロー計算の作成とその解釈 (特に直接法と間接法の違いを理解すること) キャッシュ・フロー分析で倒産予知！！ 教科書・指定図書 第5章第5節 配布プリント
第3回	テーマ(何を学ぶか): 無形固定資産の会計と減損会計 内 容: のれんとは。ソフトウェアの取り扱い。減損処理のポイント。 ブランド・ノウハウ・ロイヤルティこそ資産！ 教科書・指定図書 第8章 第2・3節
第4回	テーマ(何を学ぶか): リース会計と繰延資産 内 容: リース会計とは。繰延資産と前払費用の違いについて。 え～借り物でも資産？ 教科書・指定図書 第9章 第4節 と練習問題
第5回	テーマ(何を学ぶか): 負債会計(負債の概念と社債の会計処理) 内 容: 負債の概念と分類・評価(測定)についての基本的な考え方。社債の会計処理。 国の借金は国債、会社の借金は社債 教科書・指定図書 第10章 第1節および第5章第1～3節のうち負債に関するところ
第6回	テーマ(何を学ぶか): 引当金について 内 容: 引当金とは何か。引当金の設定要件。引当金の分類。退職給付について。 暗記すべし4つの要件！ 教科書・指定図書 第10章 第1・2節
第7回	テーマ(何を学ぶか): 退職給付会計 内 容: 退職給付見込額、退職給付債務、年金資産等と退職給付引当金の関係。資産除去債務。 公的年金と私的年金、退職一時金、退職年金の処理 教科書・指定図書 第10章 第3・4節

第8回	テーマ(何を学ぶか): 資産除去債務の会計、これまでの確認 内 容: 資産除去債務の処理と確認テストの実施 廃炉費用はいくらか? 教科書・指定図書 第10章第5節 プリント配布
第9回	テーマ(何を学ぶか): 純資産会① 内 容: 純資産の部の区分とその内容、授權資本制度と債権者保護について。 純資産と資本の違い。企業の存続と資本の維持について。 教科書・指定図書 第11章 第1節 プリント配布
第10回	テーマ(何を学ぶか): 純資産会計② 内 容: 自己株式の会計処理、配当制限および株主資本等変動計算書 配当財源と分配可能額の計算。 教科書・指定図書 第11章 第2・3節 プリント配布
第11回	テーマ(何を学ぶか): 財務諸表の作成と公表 内 容: 損益計算書の概要、包括利益計算書、損益計算の基本原則、工事契約の会計処理他。 財務諸表の体系と連結会計の必要性。 教科書・指定図書 第12章 プリント配布
第12回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表① 内 容: 連結会計の概要と連結貸借対照表における資本連結。 連結の基礎の基礎! 教科書・指定図書 第13章 第1・2節
第13回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表② 内 容: 連結損益計算書の作成と未実現利益の消去 押し込み販売も一網打尽! 教科書・指定図書 第13章 第3節
第14回	テーマ(何を学ぶか): 連結財務諸表③ 内 容: 連結第2年度以降の会計処理と総合計算問題演習。 簿記検定試験の過去問を解く。、持分法も紹介する。 教科書・指定図書 細13章 第5節および章末練習問題 プリント配布
第15回	テーマ(何を学ぶか): 外貨建取引等の換算 内 容: 外貨建取引と為替予約、在外支店・在外子会社の換算、および期末試験について予告 換算のパラドックス! 教科書・指定図書 第14章 プリント配布
定期試験	期末試験を実施する

〔科目名〕 マーケティング論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 行本 雅 Yukimoto Tadashi			〔オフィス・アワー〕 時間:初回の授業でお伝えします。 場所:515 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講義では、マーケティングについての基礎的な知識を身につけてもらうことを目標とします。マーケティングとは、「人間や社会のニーズを見極めそれに応えること」(Kotler&Keller:2007)、です。このために、「ターゲット市場を選択し、優れた顧客価値を創造し、提供し、伝達することによって、顧客を獲得し、維持し、育てていく技術および科学」(Kotler&Keller:2007)を幅広くあつかいます。 これらは、市場分析や企業の製品戦略といった市場における企業間の競争をあつかうマーケティング戦略、流通チャネルやサプライチェーンといった企業間の取引関係をあつかう流通論、消費者の認知メカニズムや消費者とのコミュニケーションをあつかう消費者行動論など、さまざまな分野からなります。このためアプローチの仕方も、企業や経営者の視点を重視する経営学的なものから、市場での競争を重視する経済学的なもの、さらには個々の消費者の認知メカニズムを重視する心理学的なものまで、さまざまな立場があります。 本講義では、まずオーソドックスなマーケティング論の理論的フレームワークとマーケティング分野の基本的な知識を学びます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 企業は社会や人々に対してさまざまな財やサービスを提供しています。しかし、たとえすぐれた製品やサービスであったとしても、それが消費者に伝わらなければ購入してもらえません。まして、社会や人々のニーズに応えるものでなければ当然評価してもらえません。こうしたギャップを埋めるのがマーケティングの中心的な課題です。 マーケティングは、経営学その他分野と深い関係にあります。マーケティング戦略は企業全体の経営戦略をふまえて決定されますし、流通チャネルの管理は一般的な組織論の特殊ケースと考えられます。また、流通論ではものの流れの管理をあつかいますが、それにとまなうお金の流れを管理するには会計の知識が必要になります。 他の学問分野でも経済学や心理学とは、伝統的に深い関わりがあります。また、マーケティングを取り巻く制度は経済法や商法といった法律で定められています。この他にも最近は IT 化の進展により、工学や情報学といった分野とも接する領域が広がってきています。							
〔科目の到達目標〕 本講義では、まずオーソドックスなマーケティング論の理論と各分野の基本的な知識を身につけることを目標とします。各分野でどのようなテーマがあつかわれているかを理解し、各分野の基本的な用語や知識を身につけるのが目標となります。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 マーケティング論Ⅰは、マーケティング論Ⅱや市場調査論といったマーケティング分野の科目の基礎科目となります。そこで、経営学科以外の学生さんもふくめなるべく多くの学生さんに、マーケティング分野全般について基本的な知識を一通り身につけてもらうことをねらいとしています。							

授業で使用しているテキストはアメリカの標準的なテキストの簡易版ですが、日本のテキストに比べるとかなりボリュームがあります。そこで、授業ではポイントに絞って、レジュメに沿って解説するようにしています。レジュメについては、わかりやすいという人が多いようなので、今のやり方を続けていきたいと思います。また、具体的な企業の事例の紹介を行うようにしていますが、これも好評のようなので続けていきたいと思います。	
〔教科書〕 P. Kotler and K. L. Keller(2007) <i>A Framework for Marketing Management third edition</i>, Pearson(恩蔵直人 監修、月谷真紀 訳、『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』、丸善出版、2014年)。	
〔指定図書〕	
〔参考書〕 マーケティング戦略の入門書 沼上幹(2023)『わかりやすいマーケティング戦略 第3版』、有斐閣。 事例ベースの入門書 青木幸弘編(2015)『ケースに学ぶマーケティング』、有斐閣。 学部中級～上級のテキスト 池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩(2010)『マーケティング』、有斐閣。 この授業の教科書のフルバージョン P. Kotler, K. L. Keller and Alexander Chernev (2022) <i>Marketing Management 16th edition</i>, Pearson (恩蔵直人 監訳、『コトラー&ケラー&チェルネフのマーケティング・マネジメント 原書16版』、丸善出版、2022年)。	
〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、基本的に期末試験によって行います。ただし、授業時に5回行う小テストも加味します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 マーケティングはともすれば企業の視点にかたよりがちな分野ですが、企業のマーケティング活動がビジネスとして上手くいっているだけでなく、それが消費者や社会にも貢献できているのかといった幅広い観点を養ってもらいたいと思います。	
〔実務経歴〕 な し	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):マーケティングとは 内 容: マーケティングでどのような問題をあつかうかを学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか):マーケティング戦略 内 容: マーケティング戦略の基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか):市場調査 内 容: マーケティング・リサーチの基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第3章

第4回	テーマ(何を学ぶか):顧客管理 内 容:関係性マーケティングの基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第4章
第5回	テーマ(何を学ぶか):消費者市場とビジネス市場 内 容:消費者行動の基本的な考え方とビジネス市場の特徴について学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第5章、第6章
第6回	テーマ(何を学ぶか):セグメンテーションとターゲティング 内 容:どのように市場をセグメントにわけてターゲットを選択するかを学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第7章
第7回	テーマ(何を学ぶか):ブランド・エクイティ 内 容:どのようにブランドを確立し、それを維持していくかを学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第8章
第8回	テーマ(何を学ぶか):競争戦略 内 容:市場においてどのようなポジションを目指し、ライバルと競争していくかを学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第9章
第9回	テーマ(何を学ぶか):製品のマネジメント 内 容:製品ラインや製品の普及段階に応じたマネジメントについて学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第10章
第10回	テーマ(何を学ぶか):サービスのマネジメント 内 容:サービス産業の特徴について学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第11章
第11回	テーマ(何を学ぶか):価格戦略 内 容:さまざまな価格戦略について学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第12章
第12回	テーマ(何を学ぶか):チャネル管理 内 容:チャネル管理の基本的な考え方を学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか):流通業者 内 容:卸・小売といった流通業者の役割について学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第14章
第14回	テーマ(何を学ぶか):コミュニケーションの管理 内 容:マーケティング・コミュニケーションの基本的な考えかたを学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第15章
第15回	テーマ(何を学ぶか):マス・コミュニケーションと人的コミュニケーション 内 容:広告やプロモーション、販売について学びます 教科書・指定図書:P. Kotler and K. L. Keller(2007)第16章、第17章
試 験	期末試験を行います。

〔科目名〕 人事管理論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 中川宗人		〔オフィス・アワー〕 時間：授業内で案内する 場所：505 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この授業では、経営管理機能の一つであり、重要な経営資源であるヒトを対象としたマネジメントである「人事管理」の基本的な内容を学びます。人事管理（人的資源管理とも呼びます）は、「従業員の資源価値を最大限に引き出して高いパフォーマンスの発揮を促し、経営戦略の実現に貢献する活動」といえます。 この授業では人事管理について教科書を用いて学修していきます。原則として1回につき1章ずつ読み進めていきますので、必ず購入してください。 授業方法は、事前の読書と授業内での確認を組み合わせで行います。具体的には、授業の前に指定の章を読み、わかった部分をまとめ、わからなかった部分はチェックしておきます。授業内では、教科書の内容を理解しているか、質疑応答等を通じて確認していきます。個人だけでなくグループでの作業を行う場合があります。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 人事管理は経営管理の一分野ですが、労働時間や賃金、昇進といった事項を扱うことから、何らかの組織で働く人すべてにとって身近な科目です。また現在の人事に関する戦略は、経営戦略とも密接に関わり、企業の将来をますます左右するようになっていきます。人事管理論は、労働条件といった身近な事柄だけでなく、企業の行動や経営学についてより深く理解する手がかりとなります。							
〔科目の到達目標〕 ・大学レベルの教科書を正確に読み解くことができる。 ・日本企業の人事管理の基本的な制度や内容を説明することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・しゃべるスピードや音量についての希望が多かったので、聞き取りやすい説明を心がけます。 ・LMS での資料の配布など、事前・事後の学修がしやすい工夫を行っています。							
〔教科書〕 西村孝史ほか編（2022）『1 からの人的資源管理』中央経済社（2400 円＋税）							
〔指定図書〕							
〔参考書〕							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 事務局が認める「公欠」を除いて、4 回以上欠席したものは不合格とします。 成績評価は、授業内での確認テスト約 40%、期末テスト約 60%、合計 100 点満点で行います。 詳細な評価方法は初回の授業で説明します。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 教科書の指定範囲を事前に必ず講読したうえで、授業内では積極的に思考・発言することが求められます。 これらが難しい場合は単位取得が困難となりますので、計画的な履修を行ってください。 授業内での作業に配慮が必要な場合は、教務を通じて相談してください。							
〔実務経歴〕 なし							

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 授業の進め方、成績評価について説明します。履修予定者は必ず出席すること。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人的資源管理とは何か 内 容: 人的資源管理とは、人的資源管理において考慮すべき要因、人的資源管理の実践者 教科書・指定図書 第1章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 組織構造・職場マネジメント 内 容: 人的資源管理と組織、会社が想定する社員とは、管理者の役割 教科書・指定図書 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 日本の経営の成り立ち 内 容: 日本の経営の「三種の神器」、その他の日本の経営の要素、能力主義と成果主義 教科書・指定図書 第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 社員区分制度と格付け制度 内 容: 社員区分制度、非正社員と外部人材、社員格付け制度 教科書・指定図書 第4章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 採用・定着 内 容: 企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント 教科書・指定図書 第5章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 評価 内 容: 評価基準・内容、評価手法、多面評価、フィードバック、バイアス 教科書・指定図書 第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 配置・異動 内 容: 人事異動、ジョブ・ローテーション、昇進・昇格、出向・転籍 教科書・指定図書 第7章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 人材育成とキャリア 内 容: 「育つ」と「育てる」の両面性、企業による人材育成の方法、人材育成の新たな展開と課題 教科書・指定図書 第8章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 報酬管理 内 容: 報酬管理の据え方、賃金管理、福利厚生と退職給付の管理 教科書・指定図書 第9章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 退職管理・雇用調整 内 容: 高齢者雇用、定年・雇用延長、雇用調整 教科書・指定図書 第10章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 労働時間管理 内 容: 長時間労働のメカニズム、労働時間制度、休暇・休業制度 教科書・指定図書 第11章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 健康経営・安全衛生 内 容: 健康経営、メンタルヘルス、ハラスメント 教科書・指定図書 第12章

第 14 回	テーマ(何を学ぶか): ダイバーシティと多様な働き方 内 容:ダイバーシティ(1):基本的な考え方、ダイバーシティ(2):女性、障がい者、セクシュアル・マイノリティ、多様な働き方(テレワーク、副業) 教科書・指定図書 第14章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ 内 容:全体の振り返りと期末テスト説明をします。 教科書・指定図書
試 験	筆記・選択肢式:実施方法は授業内で説明します。

〔科目名〕 管理会計論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 王 聖書		〔オフィス・アワー〕 時間:授業内で案内する 場所:506 研究室				〔授業の方法〕 講義, 演習	
〔科目の概要〕 管理会計は、企業の経営戦略の立案および事業計画と統制に必要な意思決定を支援するための重要な情報を提供する「情報システム」としての役割を果たしています。同時に、管理会計は情報の作成と伝達のプロセスを通じて、組織の目標達成に向けて経営管理者や一般従業員を動機づける「影響システム」としても機能します。管理会計は、数値を計算することがゴールではなく、組織全体のパフォーマンス向上と目標達成に資する戦略的なツールとして機能してこそ意味を持つのです。 春学期には、管理会計論を学ぶうえでの基本的事項について修得します。本講義を通じて、企業の意思決定や経営管理にかかる様々な管理会計に関する概念および技法を習得することを目的とします。具体的には、管理会計と財務会計の相違、財務分析、コスト概念、利益計画、予算管理、意思決定に関する理論および分析手法について、講義、練習問題、ケースディスカッションを交えながら、実務を経験したことのない学生であっても、組織における管理会計の具体的なイメージを持てるような授業を展開します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 事前に会計学の基本的知識を習得していること。したがって、商業簿記、工業簿記の事前履修が望ましい(すでに会計学の基礎を学習済みであれば問題ありません)。また、管理会計で学ぶ内容は多岐にわたるため、予習・復習を欠かさずに行う必要があります。							
〔科目の到達目標〕 該授業を通じて、管理会計の理論と具体的手法を理解し、組織内での意思決定プロセスや経営計画において管理会計情報を効果的に活用する能力を身につけていただくことを本授業のゴールとして設定しています。また、日商簿記検定1級レベルの工業簿記におけるCVP分析、予算管理、資金管理、意思決定会計を学習するために、必要な基礎知識を身につけることができます。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 該当なし							
〔教科書〕 清水孝・庵谷治男(2019)『基礎管理会計』中央経済社。							
〔指定図書〕 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川恵一(2017)『スタンダード管理会計-第2版-』東洋経済新報社。							
〔参考書〕 櫻井通晴(2019)『管理会計〔第七版〕』同文館							

〔前提科目〕 「商業簿記」「工業簿記」の事前履修が望ましい。 (すでに会計学の基礎を学習済みであれば問題ありません)	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ① 中間テスト 30% ② 期末テスト 70%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 管理会計で学ぶ内容は多岐にわたるため、授業内容の復習と練習問題の解答を欠かさずに行う必要があります。講義内で示す資料や参考文献について、積極的に学習することが望ましい。 数字を正しく計算するだけでなく、講義で紹介する資料やケースをもとに、計算の背後にあるビジネスプロセスの理解を目指していただきたい。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス, 管理会計の基礎知識①(管理会計の意義と目的) 内 容: 授業全体の流れ, 評価方法, スケジュール等について説明します。管理会計の定義, 目的および意義について解説します。 教科書第1章・指定図書第1章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 管理会計の基礎知識②(財務会計との相異, 管理会計の役割) 内 容: 財務会計と管理会計の相異点を明らかにしたうえで, 戦略実行の支援と業績評価に対する管理会計の役割を解説します。 教科書・指定図書: 教科書第1章・指定図書第1章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 財務情報分析①(財務情報分析の意義と目的, 収益性分析) 内 容: 財務情報分析の意義と目的を明確にし, 資産利益率(ROA), 自己資本利益率(ROE)などの収益性指標を解説し, それらを経営判断に応用する方法を検討します。 教科書第2章・指定図書第3章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 財務情報分析②(生産性分析, 安全性分析) 内 容: 付加価値など生産性指標, 流動比率や自己資本比率など安全性指標を解説し, それらを経営判断に応用する方法を検討します。 教科書第2章・指定図書第3章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 短期利益計画①(変動費と固定費, CVP 分析の基礎) 内 容: 変動費と固定費の分類の重要性を理解するとともに, CVP 分析の基礎を解説します。 教科書第3章・指定図書第4章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 短期利益計画②(損益分岐点, 安全余裕率, 経営レバレッジ, 多品種製品の CVP 分析) 内 容: CVP 分析を通じて, 損益分岐点, 安全余裕率, 経営レバレッジ係数などを計算する方法を説明します。多品種の製品ミックスが全体の収益性に与える影響および最適な製品構成と販売戦略を策定する技術について説明します。 教科書第3章・指定図書第4章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 予算管理①(責任会計, 予算編成) 内 容: まず, 各部門が自身の財務責任をどのように担うかについて説明します。次に, 予算の編成に焦点を当て, 具体的な予算計画の立て方と実行プロセスについて解説します。 教科書第4章・指定図書第5章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 予算管理②(予算実績差異分析) 内 容: 予算実績差異の分析方法と活用方法について説明します。 教科書第4章・指定図書第5章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 前半の復習と中間テスト 内 容: 1 回から 8 回までの重要論点を復習し, 授業時間内に中間テストを行います。 教科書・指定図書: 配布プリント
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 資金・キャッシュフローマネジメント 内 容: 資金管理の意義と目的を明らかにし, 資金運用表とキャッシュフロー計算書の作成について説明します。 教科書第5章・指定図書第6章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): オペレーションの意思決定①(差額利益, 受注の可否に関する意思決定) 内 容: 短期的意思決定に用いる差額利益および機会原価の概念を説明します。また, 受注の可否を判断する方法を解説します。 教科書第6章・指定図書第 7 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): オペレーションの意思決定②(部品の自製か購入かの意思決定, 販売か追加加工かの意思決定, セールス・ミックスの意思決定) 内 容: 前回に引き続き, 部品の自製か購入か, 販売か追加加工か, セールス・ミックスに関する短期的意思決定について説明します。 教科書第6章・指定図書第 7 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 設備投資の意思決定①(回収期間法, 投下資本利益率法, 貨幣の時間価値) 内 容: 投資プロジェクトの経済的価値を評価する手法として回収期間法と投下資本利益率法について説明します。貨幣の時間価値の重要性と, 各評価手法のメリットと課題について検討します。 教科書第 7 章・指定図書第 8 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 設備投資の意思決定②(資本コスト, 正味現在価値法, 内部利益率法) 内 容: 資本コストを理解するとともに, 加重平均資本コストの推定方法について検討します。正味現在価値法と内部利益率法のメリットと活用上の注意点について検討します。 教科書第 7 章・指定図書第 8 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 期末まとめ 内 容: 1 回から 14 回までの重要論点を復習し, 練習問題の解説を行います。 教科書・指定図書: 配布プリント
試 験	筆記試験を行います。試験は筆記具・電卓以外持込不可。

〔科目名〕 財務分析Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 長谷川美千留		〔オフィス・アワー〕 時間:講義時にお知らせします 場所:503 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 財務分析Ⅰでは、すでに習得している財務諸表に関する基本事項を再確認し、伝統的な財務分析の手法に従い、基本的な財務指標を学ぶことをその内容としている。 財務分析は、経営分析または財務諸表分析とも呼ばれる。伝統的な財務分析は、企業が制度のもと開示する財務諸表に対し、おもに四つの観点(安全性・収益性・生産性・成長性)から検討をする。このような伝統的なアプローチは、その基礎を会計学においている。会計関連の学習プロセスは、第一段階として、簿記により財務諸表の作成技術を学び、第二段階として会計制度を学修し、財務諸表の背景に存在する理論を習得する。そして、この科目で扱うのは、続く第三段階であり、財務諸表を安全性・収益性・生産性・成長性などの観点から、基本的(伝統的な)財務指標を用いて分析し、分析者の視点を通じて対象企業の実態を把握する。 ここで重要なのは、分析者の視点がどこにあるかという点である。分析者が、企業の在り方について、どのような見解、すなわち企業観をもっているのか、または利害関係者集団のうち、いずれに属しているのかという点である。このような企業観やステークホルダーに関する問題についても、検討していきたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 財務分析の対象となる財務諸表は、財務報告制度に基づき、会計理論を背景に、簿記という記帳技術により作成されている。したがって、簿記、会計関連の基礎科目とは密接な関連を持っている。財務分析の対象となる財務諸表は、そもそも会計監査制度により、その信頼性が担保・保証されているという前提であるから、この点で監査論とも関連している。 財務諸表を読む能力は、財務諸表の作成と同様に重要である。我々は企業社会に生きており、企業と関係を持たずに生活することは難しい。我々は何らかの形で企業の利害関係者である。財務分析の学習により、我々は利害関係者の一人として、企業の経済的実態を深く理解し、自らの経済的意思決定に結び付けることが可能となる。財務分析は、このように企業社会を生きるために必要な能力の習得に結び付く。							
〔科目の到達目標〕 財務諸表の社会的な意義を理解し、基本的な財務諸表分析ができること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 復習や練習問題については、好評なので継続していく。受講者の前提知識にかなりの差があり、今まで学習した事項を深く学べて良いという意見が多い一方、授業内容が難しいという意見もある。これらを踏まえ、要点やポイントに重点を置きながら、財務分析の基礎をゆっくりと学べるようにしたい。							
〔教科書〕 大阪商工会議所編(2023)『ビジネス会計検定試験公式テキスト公式テキスト 3 級第 5 版』 中央経済社							
〔指定図書〕 大阪商工会議所編(2023)『ビジネス会計検定試験公式過去問題集 3 級第 5 版』 中央経済社							
〔参考書〕							

〔前提科目〕簿記・会計学の基礎科目	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
評価方法 定期試験(筆記)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
財務指標を把握することも重要ですが、現代社会において、良い企業とは、どのような企業なのだろうかということを受講者の方とともに考えていきたいと思います。	
〔実務経歴〕	
該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ: 財務諸表 内 容: 財務諸表の意義 教科書第 1 章・指定図書第 1 章
第 2 回	テーマ:貸借対照表1 内 容:貸借対照表の仕組み 教科書第 2 章・指定図書第 2 章
第 3 回	テーマ:貸借対照表2 内 容:貸借対照表の要素 教科書第 2 章・指定図書第 2 章
第 4 回	テーマ:損益計算書1 内 容:損益計算書の仕組み 教科書第 3 章・指定図書第 3 章
第 5 回	テーマ:損益計算書2 内 容:損益計算書の要素 教科書第 3 章・指定図書第 3 章
第 6 回	テーマ:キャッシュ・フロー計算書 内 容:キャッシュ・フロー計算書の仕組み 教科書第 4 章・指定図書第 4 章
第 7 回	テーマ:第 1 回から第 6 回までのまとめ 内 容:基本財務諸表についての復習 教科書第1章から 4 章
第 8 回	テーマ:財務諸表の入手 内 容:財務諸表の入手方法と財務報告制度について 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 9 回	テーマ:財務諸表分析1 内 容:財務諸表分析の手法や利害関係者の視点について 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 10 回	テーマ:財務諸表分析2 内 容:成長性分析 教科書第 5 章・指定図書第 5 章

第 11 回	テーマ:財務諸表分析3 内 容:安全性分析 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 12 回	テーマ:財務諸表分析4 内 容:収益性分析① 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 13 回	テーマ:財務諸表分析5 内 容:収益性分析② 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 14 回	テーマ:財務分析実践1 内 容:実際の企業データを用いて分析を各自で実践 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
第 15 回	テーマ:財務分析実践2 内 容:実際の企業データを用いて分析を各自で実践 教科書第 5 章・指定図書第 5 章
試 験	定期試験(筆記)

〔科目名〕 市場調査論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 行本 雅 Yukimoto Tadashi			〔オフィス・アワー〕 時間:初回の授業でお伝えします。 場所:515 研究室			〔授業の方法〕 講義と演習	
〔科目の概要〕 本講義では、市場調査(マーケティング・リサーチ)でよく用いられる分析手法について基本的な知識を身につけて、どのような場合にどのような手法が用いられるかを理解するとともに、実際に初歩的な分析が出来るようになることを目標とします。 市場調査では、経営課題に応じて回帰分析や因子分析をはじめとするさまざまな分析手法が用いられます。こうした手法を身につけるためには、実際にデータを用いて自分で手を動かしながら学習することが必要不可欠です。 本講義では、市場調査で用いられる機会が増えてきているフリーの統計パッケージ R を用いて、実際に各自でデータを分析してもらいます。なお、テキストは GUI 環境を使用していますが、授業ではスクリプト(プログラム)を書いてもらいます。また、授業の最後には実際のデータを使って、R の実践的な使い方を学びます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 企業が経済活動を行う上で、自らの直面している市場の環境を把握したり、経営上の施策の効果を測定したりすることは基本となります。例えば、自らの商品が消費者にどのように思われているのか、市場で競合している商品はどれなのか、価格を変化させたときに販売量や利益はどのように変化するのか、プロモーションの販売量への効果はどの程度見込めるのか、といった分析に基づいて経営上の判断はなされます。さまざまなデータを収集して分析することで、こうした経営判断のための材料を提供するのが市場調査です。 市場調査で用いられる定量的な分析手法の多くは、マーケティングに限らず経営学の他の分野や他の学問分野でも用いられています。また、実務上も広く用いられており、現実のビジネスや政策立案を定量的に理解する上でも必要となります。							
〔科目の到達目標〕 前半は、市場調査であつかうさまざまなデータの収集や管理、記述統計やグラフをもちいた基本的な分析が適切に出来るようになるのが目標となります。 後半は、市場調査でよく用いられる回帰分析や因子分析、クラスター分析をはじめとする基本的な分析手法を、分析目的や使用するデータに応じて適切に用いることと、簡単なスクリプトを書けるようになり、実際のデータを用いて実践的な処理ができるようになることを目標とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この授業では、マーケティング・リサーチでよく用いられる分析手法について、R のスクリプトを書きながら実際に手を動かして課題をこなしてもらっています。 最初は、つまずきながらも自分で手を動かしてやってみないと身につかないので、とにかく自分でやってみるようにならねば。難しく感じる人もいますが、テキストで予習をしてから授業に臨むようにならねば。							

〔教科書〕 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)『現代マーケティング・リサーチ 新版』,有斐閣.	
〔指定図書〕	
〔参考書〕 統計学のテキスト 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司(2015)『統計学 改訂版』,有斐閣. 現実の POS データなどを使ったマーケティング・リサーチのテキスト 中原孝信 編(2021)『マーケティングデータ分析』,朝倉書店.	
〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績評価は、授業時の課題によって行います。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本講義では、経営系の学生を主な対象に、さまざまなデータ分析手法をとりあえず使えるようになってもらうことを優先します。このために自分で実際に手を動かしてもらうようにします。 学生のみなさんには、統計学や計量経済学など数理的な基礎にも興味を持って関連科目を受講されることをおすすめします。また、現在の市場調査では大規模なデータをあつかうことが増えており、プログラミングやデータベースの知識も必要になってきています。このため情報などの関連科目もあわせて受講されることをおすすめします。	
〔実務経歴〕 な し	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):市場調査とは 内 容:市場調査でどのような問題をあつかうかを学びます 教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):市場調査データ 内 容:市場調査で用いられるデータについて学びます 教科書・指定図書:照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):データ管理その 1 内 容:Access のサンプルデータ Northwind でデータベースについて学びます 教科書・指定図書:使用しません
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):データ管理その 2 内 容:Access のサンプルデータ Northwind でクエリについて学びます 教科書・指定図書:使用しません
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):記述統計 内 容:基本的な記述統計について学びます 教科書・指定図書:使用しません
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):グラフ 内 容:グラフによるデータの視覚的な把握について学びます 教科書・指定図書:使用しません

第 7 回	テーマ(何を学ぶか): サンプルング 内 容: サンプルングの方法について学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 3 章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 調査票の設計 内 容: 調査票の設計と Access のフォーム機能を使った調査票の作成方法について学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 4 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 市場反応分析 1: 単回帰分析 内 容: 価格が販売量に影響しているかを分析するための手法を学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 5 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 市場反応分析 2: 重回帰分析 内 容: 価格が販売量に影響しているかを分析するための手法を学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 5 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 知覚マップ: 因子分析 内 容: 消費者が製品に対してどのようなイメージを抱いているかを分析するための手法を学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 6 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): セグメンテーション: クラスター分析 内 容: マーケットをいくつかのセグメントに分けるための手法を学びます 教科書・指定図書: 照井伸彦・佐藤忠夫(2022)第 7 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): R の実践的な使い方 1 内 容: R でのプログラミングについて学びます 教科書・指定図書: 使用しません
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): R の実践的な使い方 2 内 容: R によるデータ・マネジメントとデータ可視化について学びます 教科書・指定図書: Wickham and Grolemund(2017)第1章, 第3章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): R の実践的な使い方 3 内 容: R によるデータ・マネジメントとデータ可視化について学びます 教科書・指定図書: Wickham and Grolemund(2017)第1章, 第3章
試 験	毎回の授業時の課題で評価します。

〔科目名〕 マクロ経済学		〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基礎科目
〔担当者〕 今 喜典	〔オフィス・アワー〕 時間： 第 1 回講義時に説明する 場所：		〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 一国全体の経済活動水準とその変動を説明するマクロ経済学の基本と日本のマクロ経済の現状を学ぶ。マクロ経済活動のメカニズムを知ることにより、生産量（GDP）、国民所得、物価、利子率、雇用、国際収支、為替レートなど、主要な経済指標が変化する仕組みを理解できる。 近年の日本経済は、リーマンショックから派生した世界金融危機（2008 年）、新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍（2020 年）などによって大きな打撃を受け、所得の低迷、失業の増加などを経験した。1990 年代なかば以降のバブル経済崩壊から続く「失われた 30 年」といわれる長期の不況は、いまようやく回復の動きが見える状況にある。 経済変動の理由には、コロナ禍や大震災のような自然現象要因、ロシアのウクライナ侵攻のような政治要因もあるが、企業投資や家計消費など経済主体の活動自体に内在する変動要因があり、また市場経済の調整プロセス、相互連関の中にも大きな変動をもたらす要素が含まれている。 講義の一つの焦点は、銀行など金融が果たす役割の説明である。日本銀行は過去十年ほど継続してきた「異次元の金融緩和」という金融政策を 2024 年に大きく変更した。授業では、企業や家計の行動と金融の関連を説明し、資産市場の分析とあわせて金融政策の効果を検討する。 もう一つの焦点は、開放経済要因である。日本の経済は自動車などの貿易が拡大し、また企業の海外進出が増加するとともに、金融の領域でも国際化がすすみ、金融市場は世界的に一体化している。為替レート、国際収支などを扱う開放マクロ経済学は、現代経済の動きを理解するためには、不可欠である。 授業は 4 つの段階から構成される。第 1 は一国経済の生産量、物価、雇用など全体の動きを体系的かつ整合的に把握するための観察・測定の枠組みの説明である。第 2 はモノ、カネ、ヒトの市場を定式化する「基本マクロモデル」の説明である。第 3 に貿易や国際金融など海外との取引を考慮した開放経済のマクロ理論を学ぶ。最後の段階で、各国の経済成長率の格差の理由など、長期の視点からマクロ経済の変動パターンを明らかにする。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 マクロ経済学はミクロ経済学とならんで、経済学の体系の根幹をなしている。応用分野の「公共経済学」、「金融経済学」、「労働経済学」、「地域経済学」などの展開的な科目を学ぶ上で基本となる。 授業では国民所得、物価、失業、金利、為替レートなどの変動を説明するが、これらは日々の新聞や TV ニュースで報道される基本的な用語である。マクロ経済用語の意味と、ごく基本的なマクロ経済学を知らなければ、経済の動きを大きく見誤ることになる。社会人、企業人対象にさまざまな経済講演会が行われているが、それらの多くが「これからの景気の動き」をテーマにしていることは、マクロ経済がいかに実社会の日常の動きに深くかかわっているかを示している。マクロ経済学の理解により、経済の動きについてある程度筋道だった予測を行うことができるようになる。社会人としての日々の仕事の意味の理解、経営者の行動の分析、また地域社会の動きの認識と評価、さらに政治の場面で話題にのぼる多くの政策の議論においても、マクロ経済学の知識は欠くことができない。			
〔科目の到達目標〕 到達目標は、国民所得、物価、雇用、為替レートなどを変動させている基本的仕組みを学び、またさまざまなマクロデータの見方を学ぶことにより、日本経済の現状とこれまでの動きの理解を深めることである。			

〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕						
〔教科書〕 平口良司，稲葉大著 『マクロ経済学-入門の「一步前」から応用まで』(第3版)、 有斐閣ストゥディア、2023年						
〔指定図書〕 吉川 洋著 『現代経済学入門 マクロ経済学』(第4版)、岩波書店、2017年						
〔参考書〕 (1) オリヴィエ・ブランシャール著 『ブランシャール マクロ経済学 上(第2版) 基礎編』、『ブランシャール マクロ経済学 下(第2版) 拡張編』、東洋経済新報社、2020年 (2) 福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門(第6版)』有斐閣アルマ、2023						
〔前提科目〕 経済学基礎論を履修済みであることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験のほか、授業中に小テストを行う予定である。小テストを実施する回は、原則として事前に連絡する。小テスト40点，期末試験60点の合計点で評価する。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生はマクロ理論の基本を学ぶことにより、経済活動の因果連鎖を推論する楽しみを味わってほしい。理解を深めるため理論の難解な部分をとくに丁寧に解説し、また最新の日本経済の動きをデータとともに紹介し、理論と現実の経済と関連づける。 学習において、教科書の熟読がきわめて有用である。とくに講義のあとの復習を奨励する。関心を持ったテーマについては、指定図書の関連部分を読み、理解を一層深めてほしい。授業で取り上げたマクロ経済のテーマについては、新聞やテレビのニュースも参考に、自分で考える習慣をつけてほしい。さらに一層深く学びたい学生は、若干レベルが高いが、参考図書に挑戦してほしい。						
〔実務経歴〕 公的中小企業支援機関						
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル						
第1回	テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学とは何か 内 容:マクロ経済学のテーマの導入、日本経済のマクロ的側面の紹介 教科書・指定図書 教科書 序章					
第2回	テーマ(何を学ぶか):GDP の計測 (1) 内 容:一国全体の経済の大きさを、どのように測るか。付加価値、三面等価 教科書・指定図書 教科書 第1章 指定図書 第1章					
第3回	テーマ(何を学ぶか): GDP の計測 (2) 内 容: 実質 GDP 教科書・指定図書 教科書 第1章 指定図書 第1章					
第4回	テーマ(何を学ぶか): 物価など 内 容: 物価指数、失業、景気動向 教科書・指定図書 教科書 第1章 2章 指定図書 第1章					

第5回	テーマ(何を学ぶか): 金融市場と貨幣 内 容: マクロ経済と金融市場、金利、銀行、信用創造、貨幣の定義 教科書・指定図書 教科書 第3章 第4章 指定図書 第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行 内 容: 中央銀行の機能 貨幣と物価、金融政策の手段、非伝統的金融政策 教科書・指定図書 教科書 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 財政 内 容: 政府の予算 税制 国債 政府債務の累積 教科書・指定図書 教科書 第5章
第8回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方 (1) 内 容: 消費関数 GDP の決定 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第2章
第9回	テーマ(何を学ぶか): GDP の決まり方 (2) 内 容: 均衡GDP の変化 乗数 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第2章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 投資、金利とGDP 内 容: 投資関数 貨幣市場と金利の決定 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第11回	テーマ(何を学ぶか): IS 曲線と LM 曲線 内 容: 財市場の均衡と貨幣市場の均衡 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第12回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (1) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第13回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (2) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第14回	テーマ(何を学ぶか): IS-LM モデルの応用 (3) 内 容: IS-LM モデルによる政策効果の分析 教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第4章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 復習と小テスト 内 容: 第1～6章で学んだことの要点の復習 教科書・指定図書
第16回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (1) 内 容: 物価水準の決定 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章
第17回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (2) 内 容: 物価水準の変化 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章
第18回	テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (3) 内 容: コロナ禍の分析 教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第6章

第 19 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (1) 内 容: AD/AS によるインフレ分析 インフレ期待 フィッシャー効果 教科書・指定図書 教科書 第 8 章 指定図書 第 6 章
第 20 回	テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (2) 内 容: インフレコスト インフレと失業 フィリップス曲線 オークン法則 教科書・指定図書 教科書第 8 章 指定図書 第 6 章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (1) 内 容: 開放経済 国際収支 外国為替市場 外国為替レート 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 22 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (2) 内 容: 為替レートの決まり方 金利平価 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (3) 内 容: 開放経済での金融政策 教科書・指定図書 教科書 第 9 章 指定図書 第 5 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (1) 内 容: 成長要因 ソローモデル 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (2) 内 容: 貯蓄の効果 人口成長 技術進歩 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (3) 内 容: 経済成長の要因分解 成長会計 全要素生産性 教科書・指定図書 教科書第 10 章 指定図書 第 10 章
第 27 回	テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (1) 内 容: 資産価格の決まり方 割引現在価値 教科書・指定図書 教科書 第 11 章 指定図書 第 3 章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (2) 内 容: バブルの発生と崩壊 教科書・指定図書 教科書第 11 章 指定図書 第 3 章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか): 後半の復習 内 容: 物価の決定以降の要点復習 教科書・指定図書 教科書第 7～11 章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 全体の復習 内 容: 全体の要点復習 教科書・指定図書 教科書: 1 章～11 章の復習
試 験	筆記試験

〔科目名〕 財政学		〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 木立 力	〔オフィス・アワー〕 時間:開講時にお知らせします 場所:木立研究室		〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 世界でよく使われている教科書に Stiglitz “Economics of the public sector”と Rosen“Public finance”があり、前者は公共経済学、後者は財政学を意味するが、構成はほぼ同じであり初版は同じく 1980 年代である。これは 1960 年頃から形成され始めた「市場の失敗」アプローチ (bator(1958)Q.J.E.)に基づいている。経済学科の科目「公共経済学」がそれらの構成に対応し、第 1 に「市場の失敗」がある場合に資源配分を改善する政府の役割を、第 2 に市場がそもそも果たすことができない公平な所得分配を政府がより公平なものにする役割を論じている。 それに対して日本では構成が異なる「財政学」の流れがあり、①財政支出、租税や地方財政などの 制度面や政策面 を強調し、②政府の マクロ経済安定化 の役割も扱う傾向がある。受講者にとっては ミクロ経済理論的な公共経済学 とは補完関係にある。 ① 制度、政策を重視するのは政府の政治・経済活動は各国の政治史の中で形成されたものであり、必ずしも経済学における市場の失敗ゆえに今日の政府の政治・経済活動があるわけではないことが第 1 の理由である。2つ目には、経済学の前提とは異なり、人々は群衆となって誤った情報を信じて意思表示することがしばしばおこる。激しさを増した減税合戦のように国民自身の望みが招いている日本の債務にどう対処するかが財政の最大の課題だからである。 ② マクロ経済安定化 については旧態依然たる学部レベルの マクロ経済学 の標準教科書とはかなり異なり、今世紀には GDP と物価安定の役割は財政政策よりも伝統的、非伝統的金融政策が理論的にも政策的にも中心となっている。またリーマンショック以降、先進各国の中央銀行は政府の債務である国債を大量に保有するようになり財政規律に深刻な影響を及ぼしている。そこでこの講義では世界史上も財政規律にたびたび決定的な影響を及ぼし、近年も将来も一層の影響を及ぼし続ける 伝統的・非伝統的金融政策 について扱うこととする。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・「 財政学 」では政府の経済活動について現実の制度、政策からアプローチして経済学等によって多面的に考察する。 ・「 公共経済学 」では ミクロ経済理論 から政府の経済活動が整理されることになる。 ・ マクロ経済安定化 については「 マクロ経済学 」「 金融経済学 」と関連する。 ・財政支出の最大の項目は社会保障であり、社会保険料は総税収よりも大きい。財政学では講義回数の制約があり詳しく述べないが、今後の社会生活の必須知識となるので「 社会保障論 」を是非履修するように。 ・年収の壁は税制の問題であるが、先進国の中でも特異な正規および非正規の働き方や性別役割分業の課題が背景にある。「 労働経済学 」でこれらについて学んでほしい。 ・政府の活動の対象となる地球温暖化に見られるように環境問題は人類の課題となっている。これについては「 環境経済学 」を履修してほしい。 ・政府の規制対象となる寡占企業の経済活動は GAFAM などのプラットフォーマーによってその領域を拡大している。これについては「 産業組織論 」を履修してほしい。 ・地方財政については「 地方財政論 」で詳しく論じられる。			

〔科目の到達目標〕 答がある財政問題についてはよく理解し、友人や家族に説明できるようになってほしい。 答がない財政問題については自分の考えを持ってほしい。 また、この科目を通して、受講後も経済のニュースに常に関心を持ち続けるようになってほしい。						
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕						
学部				学科		
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 財政の理論だけではなく、時事的な財政問題を取り入れたことはおおむね歓迎された。今年度も取り上げる。						
〔教科書〕 なし						
〔指定図書〕 なし						
〔参考書〕 林正義(2024)『税制と経済学』 ブランシャール著、田代訳(2023)『21 世紀の財政政策』、 鎌田康一郎(2022)『金融論』、 藤木裕(2022)『入門テキスト金融の基礎(第2版)』、 Cecchetti and Schoenholtz (2020) <i>Money, Banking and Financial Markets</i> 渡辺努(2024)『物価を考える』など						
〔前提科目〕 経済学基礎論、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テストと期末試験の結果のみで評価する。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・毎回の講義の時間に財政問題について考えることを求め、この科目の受講中も受講後も現実の経済政策のニュースに関心を持ち続けるようになってほしい。 ・その習慣は就職活動でも就職後にも仕事や社会生活に生かされるはずである。 ・受講して楽しかったと思えるような興味深い授業となるよう努めているので、毎回出席してください。						
〔実務経歴〕 費用便益分析を行う研究所に勤務したことがある。						
授 業 スケ ジ ュ ー ル						
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 政府の経済活動の歴史 内 容: 政府の経済活動は歴史的にどのように変化してきたか。					
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 財政が取り組む3つの機能 内 容: マスグレイブが述べた財政の3つの機能					
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 政府の活動についての「市場の失敗」アプローチ 内 容: 経済学基礎論やミクロ経済学で学んだ「市場の失敗」の視点から政府の経済活動を位置づける					

第 4 回	テーマ(何を学ぶか):日本の予算制度 内 容:日本の一般会計と特別会計や内閣、国会の役割について学ぶ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(1) 内 容:日本の一般会計の歳入と歳出の特徴について学ぶ 資料:財務省(2025)「日本の財政関係資料」
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(2) 内 容:毎年の借金である基礎的財政赤字と借金の残高である債務の関係について学ぶ 資料:財務省(2025)「日本の財政関係資料」、IMF“Economic outlook”
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(3) 内 容:税と社会保険料、社会保障給付費と社会保障関係費の関係を学ぶ 資料:財務省(2025)「日本の財政関係資料」
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):債券とは何か、国債とは何か、 内 容:日本は世界で最も債務比率が高い。債券とは何か、国債とは何か、国債の価格決定。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):国債発行による政府支出 内 容:国債発行の場合にそのお金はどこから来ているのか
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):国債は誰が保有しているか 内 容:国債を最も多く保有しているのは日銀である 資料:日本銀行「資金循環統計」、全国銀行協会「全国銀行の貸借対照表」
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):潜在 GDP と GDP ギャップ:IS 曲線と自然利子率(中立金利)、フィッシャー方程式 内 容:潜在 GDP と GDP ギャップについて学ぶ:IS 曲線と自然利子率(中立金利)、フィッシャー方程式について学ぶ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):フィリップ曲線、GDP ギャップ、テイラールール 内 容:フィリップ曲線、GDP ギャップ、テイラールールについて学ぶ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):日銀の政策目標とテイラールール 内 容:日銀の政策目標とテイラールールについて学ぶ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):日銀の国債保有とマネタリーベース、マネーストック 内 容:日銀が国債を大量に保有しマネタリーベースが拡大しているのになぜインフレにならないのか。マネタリーベースとマネーストックの区別によって学ぶ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):マイナスの自然利子率のもとでの政策 内 容:マイナスの自然利子率はなぜおこるのか、マイナスの自然利子率の場合の政策はどのようなものか 参考書:Cecchetti and Schoenholtz (2020)Money, Banking and Financial Markets
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):これまでの復習 内 容:これまでの復習と小テスト
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):パレート最適と厚生経済学の第 1 基本定理、第 2 基本定理 内 容:パレート最適と厚生経済学の第 1 基本定理、第 2 基本定理についてエッジワースボックスを用いて学ぶ

第 18 回	テーマ(何を学ぶか):市場での価格決定とワルラス法則 内 容:エッジワースボックスを用いて市場の価格決定とワルラス法則について学ぶ
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):市場の失敗の一例、外部性とピグー税、 内 容:負の外部性がある場合にピグー税によって総余剰はどう変化するか
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):市場の失敗の一例、自然独占 内 容:自然独占がある場合の平均費用価格、限界費用価格について学ぶ
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):課税の理論(1) 内 容:税の転嫁、帰着。中立、公平、簡素、ラムゼールールについて学ぶ
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):課税の理論(2) 内 容:応益説と応能説、能力への課税:消費、所得、資産
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):予算線、無差別曲線の復習 内 容:予算線、無差別曲線の復習
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):物品税の超過負担、労働所得税の超過負担 内 容:物品税の超過負担、労働所得税の超過負担について学ぶ
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):労働所得税と労働供給 内 容:労働所得税と労働供給について学ぶ
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):日本の個人所得課税 内 容:日本の個人所得課税について学ぶ
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):日本の個人所得課税と年収の壁 内 容:年収の壁について学ぶ
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):社会保険の壁 内 容:社会保険の壁について学ぶ
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):年収の壁と正規雇用、非正規雇用 内 容:年収の壁と正規雇用、非正規雇用について学ぶ
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):生活保護と給付付き税額控除 内 容:生活保護と給付付き税額控除について学ぶ
試 験	期末試験(マークシートと記述)

〔科目名〕 統計学				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 七宮 圭		〔オフィス・アワー〕 時間:第 1 回授業でのアンケートから設定 場所:509 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 統計学は多分野において使用されるデータを整理・分析する際の共通の手法です。経済学においては、『計量経済学』の基礎であり、実証分析におけるデータ分析のための理論的な道具となります。データの特徴に合わせて各分野で独自の統計的手法が開発されていますが、この授業で取り扱う統計学はそれらの手法の共通部分である記述統計学と推測統計学と呼ばれる基本的なものです。特に推測統計学については内容を標本理論に限定します。 授業の大まかな内容として、記述統計学では観測したデータの特徴を掴むために代表的な値を計算や、表やグラフを作成する方法について学びます。次に推測統計学の前提となる確率(確率変数、期待値、分布)を学習します。これは推測統計学が、全体の一部分として観測したデータから観測できない全体の状況を推測するための理論だからです。推測統計学の例として、点推定と区間推定、仮説検定を学習します。最後に『計量経済学』では基本的な道具である回帰分析と呼ばれる変数間の線形関係を推定・検定する方法について学習する予定です(授業の進捗状況や理解状況によっては、省略する場合がありますので、あらかじめ御了承下さい)。 教科書の内容に沿って授業を行います。必要に応じて教科書に載っていない内容についても触れる予定です。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 計量経済学、実証経済分析などの統計学を基礎とした科目： 統計学はあくまでデータを分析のための道具です。データ分析の結果が、経済学の観点からどのような意味があるのかという解釈や説明をするためには、経済学におけるそれぞれの専門分野における理論が必要となります。また、使用するデータの特徴に応じて、分析の作法が分野ごとに異なることもあります。 ファイナンスなどの確率論を使用する科目： 推測統計学の基礎にある確率論はファイナンスなどの確率論を使用する科目とほぼ共通のものです。							
〔科目の到達目標〕 ・記述統計学における代表的な値の意味を理解し、計算ができること。 ・確率変数、期待値、分布の意味を理解し、計算ができること。 ・推測統計学における点推定、区間推定、仮説検定を理解し、計算ができること。 を到達目標とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業評価のコメントで好評であったレジュメや授業での解説の内容と練習問題をさらに充実させることで、授業内容の改善を予定しています。また、昨年度まで授業中にスライドの画面上に描いていた図を見やすいものに改善する予定です。							
〔教科書〕 豊田利久・大谷一博・小川和夫・長谷川光・谷崎久志『基本統計学 (第 3 版)』東洋経済新報社 ISBN 9784492470831							

〔指定図書〕 なし。	
〔参考書〕 大屋幸輔 『コアテキスト 統計学 第3版』 新世社 ISBN 9784883843077 白砂堤津耶 『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』 日本評論社 ISBN 9784535557901 宮川公男 『基本統計学 第5版』 有斐閣 ISBN 9784641165960 松原望・森本栄一 『わかりやすい統計学 データサイエンスの基礎』 丸善出版 ISBN 9784621306536 以上のように統計学の入門書は多数出版されています。他にも授業内にて適宜紹介する予定です。図書館などで例題や解説の文章を読んで、自分に合ったものを探すことをお勧めします。	
〔前提科目〕 なし。ただし、経済統計と経済数学を履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 宿題を3回(各20%) 期末試験(40%) として合計点を計算し、その合計点をもとに評価を行います。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 統計学を習得するためには継続的な反復練習が必須です。教科書を利用した予習・復習や練習問題を解くなどの努力を強くお勧めします。また、授業内では理解度を高めるために例題と練習問題を多めに解いていきます。平方根($\sqrt{\quad}$)の計算ができる電卓を用意しておくに役立つかと思います。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、アンケート、度数分布 内 容: ガイダンス、簡単なアンケート、変数、度数分布、度数分布のグラフ 教科書: 第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 代表値① 内 容: いろいろな平均値、範囲と四分位範囲、標準偏差と分散 教科書: 第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 代表値② 内 容: 標準化変量、変動係数、相関係数、宿題① 教科書: 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 確率① 内 容: 基礎概念、標本空間、確率の定義と基本的性質 教科書: 第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 確率② 内 容: 加法定理と乗法定理 教科書: 第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布① 内 容: 確率変数 教科書: 第4章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布② 内 容: 期待値 教科書: 第4章

第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布③ 内 容: 同時確率分布① 教科書: 第 4 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 確率変数と確率分布④ 内 容: 同時確率分布②、宿題② 教科書: 第 4 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 正規分布と正規分布表① 内 容: 正規分布の特性、正規分布表の使い方 教科書: 第 5 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 正規分布と正規分布表② 内 容: 正規分布の特性、正規分布表の使い方 教科書: 第 5 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布① 内 容: 無作為抽出、標本平均の分布 教科書: 第 6 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布② 内 容: 中心極限定理 教科書: 第 6 章
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布③ 内 容: 正規母集団からの標本分布① 教科書: 第 6 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布④ 内 容: 正規母集団からの標本分布② 教科書: 第 6 章
第 16 回	テーマ(何を学ぶか): 標本分布⑤ 内 容: F 分布、第 6 章のまとめ、宿題③ 教科書: 第 6 章
第 17 回	テーマ(何を学ぶか): 推定① 内 容: 推定と推定量、推定量の性質 教科書: 第 7 章
第 18 回	テーマ(何を学ぶか): 推定② 内 容: 区間推定 教科書: 第 7 章
第 19 回	テーマ(何を学ぶか): 推定③ 内 容: 分散の区間推定 教科書: 第 7 章
第 20 回	テーマ(何を学ぶか): 推定④ 内 容: 比率の区間推定、最尤法 教科書: 第 7 章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定① 内 容: 仮説検定の考え方、正規母集団の平均の検定:母分散が既知の場合 教科書: 第 8 章

第 22 回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定② 内 容: 2 種類の過誤、正規母集団の平均の検定:母分散が未知の場合 教科書: 第 8 章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定③ 内 容: 平均値の差の検定 教科書: 第 8 章
第 24 回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定④ 内 容: 等分散の検定 教科書: 第 8 章
第 25 回	テーマ(何を学ぶか): 仮説検定⑤ 内 容: 比率の検定 教科書: 第 8 章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか): 推測統計学のまとめ 内 容: 推定、仮説検定のまとめと練習問題 教科書: 第 7 章と第 8 章
第 27 回	テーマ(何を学ぶか): 回帰分析① 内 容: 回帰関係の意味、回帰モデルの諸仮定、最小2乗法 教科書: 第 9 章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか): 回帰分析② 内 容: 最小2乗推定量の分布と性質、決定係数、数値例① 教科書: 第 9 章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか): 回帰分析③ 内 容: 数値例②、補足と回帰分析のまとめ 教科書: 第 9 章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか): 総復習 内 容: 講義内容の復習と練習問題 教科書
試 験	期末試験(筆記)

〔科目名〕 応用ミクロ経済学				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 河野秀孝		〔オフィス・アワー〕 時間:月曜から金曜（毎日午後3時から5時まで、 その他の時間帯はメールでアポを取ってください）。 場所:508 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講義では、皆さんがミクロ経済学で、既に履修済みの基本的モデルの応用側面に焦点をあてます。我々にとって有用であるものはすべて「希少」です。これは天然資源に限られたことはありません。「希少性」は自ずと「(取捨) 選択」（即ち、「意思決定」）を不可避とします。また、「選択」や「意思決定」はその選択をする個人や組織の「目的」、「選択基準」、や「価値観」、や「価値体系」の明確化を必然的なものとします。応用ミクロ経済学では、このように「希少性」（即ち、制約条件）のもとでの「選択」問題を、論理的に、しかも、さまざまな問題に応用できるように、統一的に履修します。ミクロ経済学の分析概念、思考の枠組み、分析手法、予測の組み立て方、即ち、「科学する視点と方法」とその有用性を、さまざまな諸問題解決への応用を通じて学びます。また、近年の目覚しい理論及び実証モデルの発展にも言及し、経済学の観点から、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 応用ミクロ経済学は、皆さんがこれまで履修した経済理論、特にミクロ経済学の応用で、毎日の経済現象を題材とした体系的論理的思考の訓練です。また、代表的モデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、少し進んだ分析的物語（モデル構築）を学生の皆さん各自が自力で作成できるようになることを念頭に、授業を進めるつもりです。簡単な論理的枠組みといえども、目的に応じた分析的物語作成の際、強力な力を発揮することを味わって頂きたい。さらに、一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいてください。昨今、「説明責任の重要性」がますます認識される中、論理的思考力を高めることは、官民間わず、ますます重要になって来ると考えます。講義を通じて、まずは、論理的思考の楽しさを味わってください。							
〔科目の到達目標〕 私たちが住んでいる今日の世界では、経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっています。この事は、私たちの日常生活までも、経済的側面から多大なる影響を受けていることを示しているのです。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として考えながら、皆さんを取り巻く経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
経営経済学部				経済学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。 1. 具体的例を出来るだけ多くする。 2. 重要なところは反復をする。 3. 定期的に講義の要点をもとに、宿題を課す。各自の理解度を認識してもらう。							
〔教科書〕 ハル・R・ヴァリアン著 佐藤隆三監訳『入門ミクロ経済 [原著第9版]』勁草書房、2015 年。							

ISBN 978-4-326-95132-1

〔指定図書〕

ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、1997 年

〔参考書〕ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、1997 年

〔前提科目〕

経済学基礎論、経営経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

1 回の定期試験（期末）により、成績を評価します。毎回、出席状況を学生証で機材登録します。
成績評価の基準は概ね以下の通りです。

A：80%以上

B：70%以上80点未満

C：60%以上70点未満

D：50%以上60点未満

F：50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

当科目は、経済学科で学ぶ他の科目分野の導入教育としても重要なものです。皆さんには、様々な社会的課題に対する分析的手法としての経済学的思考の訓練として考えてもらいたい。また、経済的論理の展開とその応用を身につけるためにも、皆さんは、特に授業後の復習を十分にやって、次の授業への準備としてください。

〔実務経歴〕

製造業での実務経験を活かし、私たちの生活の身近な事例を考えながら、経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とします。

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ(何を学ぶか) : 9 章 売買 内 容： *純需要と祖需要 *初期保有の価値を考慮した予算制約 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか) : 内 容： *初期保有量の変化 *価格の変化 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか) : 内 容： *初期保有所得効果を顧慮したスルツキー方程式 *通常の所得効果 *初期保有所得効果 *価格変化の需要に及ぼす効果 教科書・指定図書

第4回	テーマ(何を学ぶか): 10章 異時点間の選択 内 容: * 多期間にわたる消費者選択に関する消費者行動の分析 * 異時点間の予算線と選択 * 現在価値と将来価値 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: * スルツキー方程式と異時点間の選択 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: * 異時転換の予算線とインフレーション * 実質利子率、名目利子率と期待インフレの関係 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 11章 資産市場 内 容: * 不確実性のない資産市場 * 資産間の裁定取引によって、全ての資産は同一の収益率を生む 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: * 資産市場の均衡と裁定取引非存在条件 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: * 応用として、持ち家と借家、石油価格の水準、資産としての森林伐採の時期 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 9章、10章、11章の復習と応用問題(1) 内 容: 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか): 9章、10章、11章の復習と応用問題(2) 内 容: 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): 9章、10章、11章の復習と応用問題(3) 内 容: 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): 26章 独占行動 内 容: * 費用最小化と利潤最大化の関係 * 2段階利潤最大化 教科書・指定図書

第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊完全競争市場の利潤最大化 ＊独占・独占的市場の利潤最大化 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊一次価格差別、二次価格差別、三次価格差別 教科書・指定図書
第 16 回	テーマ(何を学ぶか): 27 章 要素市場 内 容: ＊生産物市場と要素市場が共に完全市場の場合の利潤最大化 教科書・指定図書
第 17 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊生産物市場は不完全で、要素市場が完全市場の場合の利潤最大化 教科書・指定図書
第 18 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊生産物市場も要素市場も共に不完全市場の場合の利潤最大化 教科書・指定図書
第 19 回	テーマ(何を学ぶか): 28 章 寡占 内 容: ＊数量先導の場合、シュタッケルベルグ・モデル 教科書・指定図書
第 20 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊同時数量設定の場合、クールノー・モデル 教科書・指定図書
第 21 回	テーマ(何を学ぶか): 26章、27章、28章の復習と応用問題（１） 内 容: 教科書・指定図書
第 22 回	テーマ(何を学ぶか): 26章、27章、28章の復習と応用問題（２） 内 容: 教科書・指定図書
第 23 回	テーマ(何を学ぶか): 26章、27章、28章の復習と応用問題（３） 内 容: 教科書・指定図書
第 24 回	テーマ(何を学ぶか): 33章 生産(一般均衡モデル) 内 容: ＊簡単な一般均衡経済(ロビンソン・クルーソー経済) 教科書・指定図書

第 25 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊2財1要素(労働)の一般均衡、リカードモデルと比較優位の原則 教科書・指定図書
第 26 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: ＊2財2要素の一般均衡、ヘクシャ・オリーンモデル 教科書・指定図書
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):33章の復習と応用問題 (1) 内 容: 教科書・指定図書
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):33章の復習と応用問題 (2) 内 容: 教科書・指定図書
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):期末試験前復習 (1) 内 容: 教科書・指定図書
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):期末試験前復習 (2) 内 容: 教科書・指定図書
試 験	学期末試験

〔科目名〕 経済特殊講義Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 高柳友彦		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この講義では、幕末開港期から第二次世界大戦前後までの日本経済の経済発展のあり様を論じ、その特徴を紹介していきます。産業、貿易構造といったマクロ的な視点だけでなく、当時の人々の労働や消費のあり方などミクロ的な視点に焦点をあてて論じていきます。 また、講義では個々の地域に即した産業など地域経済の展開過程にも焦点をあてていきます。特に、地域経済の変容過程を国家の経済政策や日本における資本主義の展開の中で論じます。本講義では、青森県を含む東北地方の地域経済の展開に注目し、日本経済の発展の中で、東北地方がどのような役割を担い、また影響を受けたのか、東北開発をめぐる諸問題についても紹介していきます。（授業のスケジュールは、進行状況によっては変更されることもあります）							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 私たちが生きている現実の社会・経済の動向を相対化するためには、歴史的な視点で長期的な変化を見ていく必要があります。本講義では、幕末開港期以降の日本経済の発展過程を概観するとともに、そのメカニズムの理解に努めていきます。 また、地域経済の担い手として将来を期待される受講生は、青森県など東北地方の地域経済・地域社会の実態に多くの関心を持つでしょう。本講義では日本経済の中での、東北地方の経済的位置やその展開のあり方など、地域経済の歴史的変化の過程を学ぶことで、地域の歴史・経済への理解を深めることができると考えます。							
〔科目の到達目標〕 近代日本における日本経済の発展過程の特徴を時期毎に理解することで、経済発展のメカニズム（主要産業の展開）、人々の労働・生活のあり様を学び、加えて、東北の地域経済の位置や現在の地域経済の歴史的変容過程の理解がこの講義の目標です。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 例年いただいているコメントをいかしてわかりやすい授業を目指していきます。 話すペースをゆっくりするとともに配布する資料も見やすいように改善します。 3コマ連続の授業なので、休憩を挟むなど、集中して授業に取り組めるように工夫します。							
〔教科書〕 毎回担当者がレジюмеを配布するため、特に指定しない							
〔指定図書〕 授業ごとに指示する。							
〔参考書〕 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016 年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013 年 三和良一『概説日本経済史 近現代 第3版』東京大学出版会、2012 年							

〔前提科目〕	
なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
毎回コメントカードを提出してもらいます。(授業は1度に3回分行う予定ですので、5回提出してもらいます) レポート(指定された文献を読み、感想を提出) A4, 3000字程度を予定 (評価の30%) 期末テスト(論述問題)(評価の70%)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
最低限の事実を理解することは必要ですが、年号や細かい事実を覚える必要ありません。 (出来事の順序、事実が持つ意味を理解することが大切です) 特に、青森県を含む東北地方の経済・社会の歴史に興味を持ってください。	
〔実務経歴〕	
該当なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 幕末維新の社会変動 内 容: ガイダンスならびに幕末開港による経済的影響を論じていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第2回	テーマ(何を学ぶか): 明治初期の経済政策 内 容: 維新政府が行った国づくりの基本政策をとりあげます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第3回	テーマ(何を学ぶか): 産業革命の展開 内 容: 日本経済の成長を牽引した諸産業の展開過程を学んでいきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第4回	テーマ(何を学ぶか): 日清・日露戦後経営 内 容: 日清戦争、日露戦争時の国家財政・政策を概観します。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第5回	テーマ(何を学ぶか): 第一次世界大戦期の日本経済 内 容: 第一次大戦と日本経済の発展との関わりを明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第6回	テーマ(何を学ぶか): 明治期における青森県の経済・社会 内 容: 経済発展をとげる中での東北地方の経済・社会の変容をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第7回	テーマ(何を学ぶか): 1920年代の経済成長と恐慌 内 容: 1920年代における恐慌の様相と成長産業の展開をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料

第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 金解禁と井上財政 内 容: 1920 年代末に行われた井上準之助の経済政策を概観します。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 第一次世界大戦期から 1920 年代における青森県の地域経済 内 容: 1910 年代から 20 年代の東北経済の展開を明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 世界恐慌と昭和恐慌 内 容: 世界恐慌・昭和恐慌による日本経済・地域経済(東北)への影響をとりあげます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 高橋財政の展開 内 容: 昭和恐慌から脱出するための高橋是清の経済政策を概観します。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 恐慌下の青森県経済 内 容: 昭和恐慌下の青森県経済の様相について明らかにしていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 戦時経済への道 内 容: 日中戦争から太平洋戦争までの間の経済統制のあり様をみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 東北振興政策の展開 内 容: 戦時期の東北振興政策の展開について、地域開発の様相を中心にみていきます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 戦時経済の展開とまとめ 内 容: 戦時経済の特集を組んだDVDをみます。 教科書・指定図書 教員作成の資料
試 験	期末テスト (論述問題)

【科目名】 ゲーム論				【単位数】 2 単位		【科目区分】 専門科目 展開科目	
【担当者】 橋本 悟		【オフィス・アワー】 時間:初回の授業で提示する 場所:初回の授業で提示する				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 ゲーム理論は、不完全市場の中でも特に複数の意思決定主体(プレイヤー)が互いに影響を与え合うような状況において、どのような行動を取るのが望ましいかを分析する学問である。この授業では、ゲーム理論の基本的な概念やモデル(ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、協力ゲームなど)を学習することで、市場の状況や企業の経営戦略を分析する。また、理論的な理解に加えて、現実の事例やケーススタディを通じて、ゲーム理論がどのように意思決定に役立つかを学習する。 この授業では、できるだけ易しい数学を用いる一方で、その論理に関しては、詳しく、かつ、体系的に説明する予定である。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 現代の社会では、個人、企業、政府など、さまざまな経済主体が競争・協力しながら意思決定を行っている。このような状況のもとでは、他者の行動を予測し、それに対応する最適な選択を行う能力が重要となる。ゲーム理論は、このような戦略的な思考を体系的に学ぶためのツールである。学習する意義については以下のとおりである。 1) 意思決定能力の向上: 他者の視点を理解し、最適な戦略を考える力を養う。 2) 社会への応用性: 経営戦略、交渉、政策などの幅広い分野に応用できる。 3) 論理的思考力の育成: 論理的、かつ、客観的な思考を身に付ける。 これらは、現代の社会において、実務や研究で直面する課題を解決するための重要なスキルとなると思われる。							
【科目の到達目標】 (短期的な到達目標) ナッシュ均衡、ミニマックス戦略、囚人のジレンマ、協力ゲームと非協力ゲームなどのゲーム理論の基礎概念を理解できること。 (最終的な到達目標) ゲーム理論を単なる経済学の一科目として理解するだけでなく、その論理を用いて社会の問題解決に役立てられるようになること。							
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関係】							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3 ○	
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 第 1 回のレジュメを除いて、原則としてレジュメの配布は行わない。各自で Google Classroom から PDF データのレジュメをダウンロードし、さらにプリントアウトして使用して欲しい。第 1 回目の授業で詳細を説明する。							
【教科書】 指定はしない。毎回レジュメを使って授業をする。レジュメに書き込む形で授業を進めるので、しっかりと書き込みながら学習することを強く勧める。また、そのレジュメを使って復習や試験対策をするといい。							
【指定図書】 授業内容に興味を持った場合や、理解が不十分な場合は読むことをお勧めする。							

神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社、2004	
〔参考書〕 1) 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社、2004 2) 岡田章『ゲーム理論入門(新版)』有斐閣アルマ、2014 3) 天谷研一『ゲーム理論入門』日本能率協会マネジメントセンター、2011	
〔前提科目〕 マイクロ経済学の知識があることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・定期試験(小テスト等を含む)60% ・宿題 40% ・裁量点(授業への貢献度、熱心さなども考慮する)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 基本的にレジュメを配り、その内容に基づいて授業を行う。授業ではできるだけ現実と結び付けて解説をする予定なので、頑張って理解するように心掛けてほしい。予習と復習は以下を参考にしてほしい。 (予習) 1. 新聞やニュースを読んだり見たりして、経済活動や企業活動に詳しくなること。 2. ゲーム理論、マイクロ経済学の基本的なテキストを読み直しておくこと。 (復習) 3. レジュメを読み直し、重要な語句を覚える。レジュメの中の理論モデルの導出過程を確認する。 4. レジュメの演習問題を解く。 5. 理解が不十分な場合は、参考文献の該当箇所を読む。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、ゲーム理論の前提、学習の意義 内 容: ゲーム理論の原則・前提 教科書・指定図書: 教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 非協調ゲーム1 内 容: 囚人のジレンマ、ナッシュ均衡 教科書・指定図書: 教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 非協調ゲーム2 内 容: マクシミン、ミニマックス原理 教科書・指定図書: 教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 非協調ゲーム3 内 容: 支配戦略 教科書・指定図書: 教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 協調ゲーム 内 容: カルテルなど 教科書・指定図書: 教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)

第 6 回	テーマ(何を学ぶか):同時手番の寡占市場 内 容:クールノー、ベルトラン、シュタッケルベルグ均衡 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):混合戦略1 内 容:混合戦略のナッシュ均衡 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):混合戦略2 内 容:混合戦略のミニマックス均衡 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):混合戦略3 内 容:混合戦略の復習・問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):ゲームの木(展開型ゲーム)1 内 容:展開型ゲームの考え方 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):ゲームの木(展開型ゲーム)2 内 容:部分ゲーム完全均衡 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論の応用1 内 容:競争と協調 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論の応用2 内 容:協力、繰り返しゲームなど 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):ゲーム理論の応用3 内 容:駆け引き、2段階ゲーム、不完全情報ゲームなど 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内 容:総復習、および、問題演習 教科書・指定図書:教員作成資料を使用する(レジュメを配布する)
試 験	筆記試験

〔科目名〕 経済学基礎論 a (経営学科 1 年次・地域みらい学科 2 年次対象)				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基礎科目(必修科目)			
〔担当者〕 樺 克裕、黄 年宏 Kamba,Katsuhiko、 Huang,Nienhung				〔オフィス・アワー〕 時間: 授業中にアナウンスします。 場所: 樺研究室、黄研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 経済学は、私たちの消費から生産、政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係しています。本科目は、これから学んでいく経済学がどのような学問かということを学ぶ科目です。授業は、主に次の3つのパートから構成されています。 (1) 経済学的な考え方:経済学は現実社会を理解し、その問題点の対処法を考える学問といえますが、その際、どのような視点で、どのような問題意識をもち、どのように論理を展開するのでしょうか。社会科学としての経済学の基本的な考え方を学びます。 (2) ミクロ経済学:経済社会を構成する私たちが、何を、どれだけ購入するのか。そのためにどれだけ働き、生産を行うのか。そこに問題があるとすれば、どのように対処するのか。個々の消費者の行動と企業の行動、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割について考えます。 (3) マクロ経済学:失業や金融財政政策など、日本経済全体に関わる問題を理解するためには、個々の主体の行動だけでなく、経済全体を俯瞰する巨視的な視点も必要となります。そのために必要な考え方、知識を身につけます。 なお、前半 15 回を黄が、後半 15 回を樺が担当します。									
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経済学基礎論は、今後 4 年間で学んでいく経済学のすべての科目の基礎となります。経済学にはミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済学、財政学、労働経済学、国際経済学、金融経済学など、さまざまな分野があり、それらの諸分野は 1 年生の秋学期以降に勉強します。本科目は、それぞれの分野がどのように関連しているのかを示すガイドラインとしての役割も果たします。本科目を通して、経済学の考え方に触れ、経済学に興味をもってほしいと思います。									
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標:経済学の基礎的な知識を身につける テキストでは経済学の基礎的な考え方として、十大原理というものを設定しています。まず、この原理を理解することが最初の目標となります。 最終目標:経済学的な視点から物事を考える力を身につける 新聞で取り上げられるような様々な社会や経済の問題について、自分なりの問題意識で、経済学に則して考えることができるようになることが最終目標です。									
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕									
学部				学科					
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○			

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「黒板の字が小さくて見えにくい」、「声が小さい」等のコメントがありました。文字の大きさに注意し、板書するようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。	
〔教科書〕 N.G.マンキュー著、片桐 満他訳『マンキュー入門経済学 第4版』東京化学同人、2025年	
〔指定図書〕 N.G.マンキュー著、片桐 満他訳『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第5版』東京化学同人、2025年 N.G.マンキュー著、片桐 満他訳『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 第5版』東京化学同人、2025年 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久、「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection」新版、有斐閣、2016年	
〔参考書〕 N. Gregory Mankiw (2023). <i>Principles of Economics, 10th Edition</i>. Boston: Cengage Learning.	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験および小テスト(もしくは課題)の成績を用いて総合的に評価する予定です。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 経済学に限りませんが、物事を理解するためには、関連する知識を単に収集するだけでなく、その土台となる基本的な考え方を身につけることも大切です。授業で説明することをただ暗記するのではなく、なぜそうなるのか、論理展開の経緯を大切にしてください。自分で考え、理解してはじめて、知識が自分のものとなり、財産となります。 講義は以下のスケジュールに沿って進めますが、授業の理解度によっては、スケジュールを変更することもあります。	
〔実務経歴〕 樺 克裕：旧通産省での実務経験を活かし、消費から生産・政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係している経済学がどのような学問かを学ぶ授業です。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:授業の進め方の説明および、5つの物語で経済学の役割と重要性を説明
第2回	テーマ(何を学ぶか):人々はどのように意思決定するのか 内 容:経済学の十大原理(ミクロ的視点) 教科書 1章
第3回	テーマ(何を学ぶか):人々はどのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているのか 内 容:経済学の十大原理(市場の機能と政府の役割、マクロ的視点) 教科書 1章
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済学者はどのように考えるのか 内 容:科学としての経済学、経済モデル 教科書 2章

第5回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容: 生産可能性、特化と交易 教科書 3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容: 機会費用、比較優位 教科書 3章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 完全競争市場における買い手と売り手の行動 内 容: 需要と供給に影響を与える要因、個人と市場の需要・供給および曲線 教科書 4章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 需要と供給を組み合わせる 内 容: 均衡、需要・供給のシフトと均衡の変化、価格による資源配分 教科書 4章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 価格変化に対して需要量(供給量)はどれだけ反応するだろうか 内 容: 需要(供給)の価格弾力性とその決定要因、需要(供給)の価格弾力性の計算 教科書 4章付論
第10回	テーマ(何を学ぶか): 価格規制が市場に及ぼす影響 内 容: 価格の上限・下限は市場の成果にどのような影響を及ぼすか 教科書 5章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 課税が市場に及ぼす影響 内 容: 売り手と買い手に対する課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか 教科書 5章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 買い手と売り手が市場に参加することで得られる便益 内 容: 需要と供給曲線を用いた消費者と生産者余剰の測定 教科書 6章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 税と公平 内 容: 税収は消費者と生産者余剰、および総余剰にどのような影響を及ぼすか 教科書 6章付論
第14回	テーマ(何を学ぶか): 生産者選択の理論 内 容: 生産者がどうやって生産活動や利潤最大化を行うかを目指すか 教科書 7章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 消費者選択の理論 内 容: 消費者がどのような財やサービスを購入するかを選択するのか 教科書 7章付論
第16回	テーマ(何を学ぶか): 経済全体の豊かさの測定(1) 内 容: 小テストおよびマクロ経済パートのイントロダクション 教科書 8章
第17回	テーマ(何を学ぶか): 経済全体の豊かさの測定(2) 内 容: GDP の測定 教科書 8章
第18回	テーマ(何を学ぶか): 経済全体の豊かさの測定(3) 内 容: 名目 GDP と実質 GDP の違い 教科書 8章

第 19 回	テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(1) 内 容:GDP デフレーターと消費者物価指数 教科書 9章
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(2) 内 容:インフレーションの影響に対する経済変数の補正 教科書 9章
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(1) 内 容:生産性の役割 教科書 10章
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(2) 内 容:生産性を決定する諸要因 教科書 10章
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):失業問題について 内 容:失業率の測定、失業の諸要因
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(1) 内 容:金融システムを構成する各種制度 教科書 11章・11章(付論1)
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(2) 内 容:貯蓄と投資の関係 教科書 11章
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(3) 内 容:金融市場における資金の需給均衡 教科書 11章(付論2)
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(1) 内 容:財と資本の国際フロー 教科書 13章
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(2) 内 容:実質為替相場と名目為替相場 教科書 13章
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(3) 内 容:購買力平価 教科書 13章
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):まとめ 内 容:第16回～第29回までのまとめと理解の確認
試 験	期末試験を行う

【科目名】 会 計 学 基 礎 論 a（経営学科・地域みらい学科）				【単位数】 4 単位		【科目区分】 専門科目 基礎科目	
【担当者】 池田 享誉 Ikeda Yukitaka		【オフィス・アワー】 時間:最初の授業中に通知 場所:研究室(514)				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 会計情報は経営意思決定・投資意思決定の要であり、会計はビジネス言語と呼ばれている。ビジネス言語を知らずして、ビジネス社会で成功することはできない。 本科目「会計学基礎論」は、多くの学生にとってこのビジネス言語を学ぶ第 1 歩であろう。ここでは、会計数字をよりよく読めるようになるために、会計数字がどのように作られているのかについて学ぶ。そして、実際に自分で帳「簿記」入をし、会計情報を作成することによって、ビジネス言語を肌で感じ取ってもらう。本科目で身につける簿記能力を簿記資格という見える形にしておくことを薦めたい。履歴書に記入された簿記資格は、将来、就職活動を行う際、ビジネス言語を修得した証として役に立つからである。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 「会計学基礎論」は青森公立大学におけるすべての会計関連科目の基礎となる科目であり、特に 1 年次秋学期の「商業簿記」、「財務会計論Ⅰ」、「工業簿記」へと直接つながる科目である。							
【科目の到達目標】 到達目標:日商簿記検定3級レベルの複式簿記の修得 期末試験も日商簿記検定3級と同レベルの内容を出題する。 ＊ 日商簿記検定試験は、6月、11月、2月に実施されている。6月に日商簿記検定3級に合格することを目指して欲しい。 ＊ 商業高校出身であって、すでに日商簿記検定2級に合格している者には別途対応するので申し出ること。							
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関係】							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 学生の授業評価で、「復習用のプリントが用意されており良かった」、「TA がいて質問できて良かった」、「とてもわかりやすく丁寧に教えてくれる」、「進むのが速い」という意見を受けました。今年も例年通り、復習用のプリントを用意しますし、TA も準備しています。難しいことを分かりやすく説明しますので、例年皆さん非常によく勉強してくれています。今年度講義を受ける皆さんもぜひ頑張ってください。「進むのが速い」という点についてですが、昨年以上に学生の皆さんの理解度を確認しながら進めていこうと考えています。周りの学生に遅れないようにしっかりついてきて下さい。							

〔教科書〕 『ALFA 3 commercial Bookkeeping』 大原簿記学校（テキスト、問題集、解答）	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 授業の中で適宜紹介する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 確認小テストを数回(合計 20 点)と期末試験(80 点)を課す。 レポートは課さない。 6 月の日商簿記 3 級合格者には特典を与える(必ず合格証のコピーを提出すること)。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この科目は、本学で学ぶすべての会計関連科目の基礎となる科目なので、学生諸君が授業内容をどれだけ理解できているかを確認するために小テストを行う。この小テストにより、学生諸君自身も自分の理解度をチェックし、各自計画を立てて学習を進めて欲しい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ（何を学ぶか）：簿記を学ぶにあたって 内 容：授業の紹介および複式簿記の原理 教科書：第 1 章
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：貸借対照表と損益計算書 内 容：貸借対照表と損益計算書の作成 教科書：第 1 章
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：勘定、仕訳、試算表 内 容：勘定の理解、仕訳の練習と試算表の作成 教科書：第 2 章
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）：商品売買① 内 容：3 分法と掛取引、返品 教科書：第 3 章
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）：商品売買② 内 容：仕入諸掛と販売諸掛 教科書：第 4 章

第6回	テーマ（何を学ぶか）：商品売買③ 内 容：前払金と前受金、受取商品券 教科書：第4章
第7回	テーマ（何を学ぶか）：第6回までの理解度の確認および現金預金① 内 容：確認小テストおよび現金預金 教科書：第5章
第8回	テーマ（何を学ぶか）：現金預金② 内 容：当座預金 教科書：第5章
第9回	テーマ（何を学ぶか）：手形① 内 容：受取手形と支払手形 教科書：第6章
第10回	テーマ（何を学ぶか）：手形② 内 容：電子記録債権と電子記録債務 教科書：第6章
第11回	テーマ（何を学ぶか）：有形固定資産 内 容：有形固定資産 教科書：第7章
第12回	テーマ（何を学ぶか）：債権・債務① 内 容：クレジット売掛金、手形貸付金と手形借入金等 教科書：第8章
第13回	テーマ（何を学ぶか）：債権・債務② 内 容：立替金と預り金等 教科書：第8章
第14回	テーマ（何を学ぶか）：第13回までの理解度の確認および消費税 内 容：確認小テストおよび消費税等 教科書：第9章
第15回	テーマ（何を学ぶか）：その他の費用・収益 内 容：その他の費用・収益 教科書：第10章
第16回	テーマ（何を学ぶか）：株式会社① 内 容：株式会社の設立と増資 教科書：第11章
第17回	テーマ（何を学ぶか）：株式会社② 内 容：株式会社の配当と資本 教科書：第11章
第18回	テーマ（何を学ぶか）：決算① 内 容：売上原価の算定 教科書：第12章

第 19 回	テーマ（何を学ぶか）：決算② 内 容：貸倒引当金の計上 教科書：第 13 章
第 20 回	テーマ（何を学ぶか）：決算③ 内 容：減価償却 教科書：第 13 章
第 21 回	テーマ（何を学ぶか）：第 20 回までの理解度の確認および前払費用等 内 容：確認小テストおよび前払費用と前受収益 教科書：第 13 章
第 22 回	テーマ（何を学ぶか）：未払費用等 内 容：未払費用と未収収益 教科書：第 13 章
第 23 回	テーマ（何を学ぶか）：現金過不足 内 容：現金過不足等 教科書：第 13 章
第 24 回	テーマ（何を学ぶか）：精算表① 内 容：精算表の作成 教科書：第 13 章
第 25 回	テーマ（何を学ぶか）：精算表② 内 容：精算表の作成 教科書：第 13 章
第 26 回	テーマ（何を学ぶか）：商品有高帳 内 容：先入先出法 教科書：第 15 章
第 27 回	テーマ（何を学ぶか）：商品有高帳 内 容：移動平均法 教科書：第 15 章
第 28 回	テーマ（何を学ぶか）：伝票 内 容：伝票の作成について学ぶ。 教科書：第 16 章
第 29 回	テーマ（何を学ぶか）：証憑 内 容：証憑について学ぶ 教科書：第 13 章
第 30 回	テーマ（何を学ぶか）：会計学の世界 内 容：財務会計・管理会計・監査・経営分析・原価計算・工業簿記・税務会計・非営利組織会計・自治体会計・政府会計等 教科書：
試 験	期末試験(電卓のみ持ち込み可)

〔科目名〕 地域企業論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 生田 泰亮 IKUTA Yasuaki		〔オフィス・アワー〕 時間:メールか直接アポイントメントを 場所:1305 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 地域企業論Ⅰでは「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、1年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」とであると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。							
〔科目の到達目標〕 地域企業論Ⅰ,Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。 (1) 地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための「基礎知識」を学ぶ。 (2) 企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」ができる。 (3) 企業の経営政策、事業戦略についてのデータ分析やケース・スタディを行い「問題解決策の立案」「戦略策定」や「政策提言」ができる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 大学での学びにおいて、講義はあくまでもその専門分野の初歩、イントロダクションであり、講義をきっかけにさらに自ら学習することが求められます。シラバスへの記載事項、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講し、評価アンケートに回答している方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めてください。当然のことながら、履修した以上は、しっかりと学習してください。努力せずに単位取得したいと考えている方は履修されない方がよいと思います。 受講態度の悪い学生(遅刻、欠席)、周囲の迷惑(私語等)になるような行為には厳しく対処します。 講義内容以外にも学習方法等についての相談にも応じているので、遠慮なく質問や相談してください。							
〔教科書〕 なし(配布資料)							
〔指定図書〕							
〔参考書〕							

〔前提科目〕 経営学基礎論を履修し、単位取得していること(必須)。 また、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となります。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えた上で、履修することを推奨します。特に秋学期の地域企業論Ⅱを受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨します。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F 理解度テスト (20%) 第7回講義日に実施する。 学期末の定期試験 (50%) 課題レポート (30%) ※詳細は講義内で説明する。 ※講義進行の妨げとなる行為、注意を聞き入れない場合、当該学生の本科目の評価を「F」とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ポイントを絞りつつも他の科目内容との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目と関連付けて深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。 毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。 秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ (何を学ぶか) : イントロダクション 内 容 : 講義内容と進め方について
第2回	テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (1) 現状と課題の概観 内 容 : 地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか？
第3回	テーマ (何を学ぶか) : 現代社会における地域と企業 (2) 基本概念の整理 内 容 : 経営経済学的な「地域社会」の理解
第4回	テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (1) 地方と都市と企業の歴史的考察 内 容 : 農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、2つの原理とその重層性について学ぶ
第5回	テーマ (何を学ぶか) : 地域社会と企業 (2) われわれの生活と地域、企業 内 容 : 「少子高齢化」「極点化社会」「表日本と裏日本」

第6回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（3）現代のコミュニティ問題と地域企業 内 容：労働観、雇用機会の変容、地域社会の経済、雇用を支える企業
第7回	テーマ（何を学ぶか）：理解度テストと前半のまとめ 内 容：講義時間内に理解度テストを実施、前半の内容についてのまとめを行う。
第8回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（1）企業の成長・発展段階、企業の存在意義 内 容：経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ
第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（2）様々な企業観と企業の種類 内 容：経済学的、経営学的な企業観、制度としての企業
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（3）利益から考える企業の存在意義 内 容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)
第11回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（1）資源、技術、商品、市場からの環境分析 内 容：経営資源、技術、商品、市場の観点から事業を考える。
第12回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（2）産業の立地条件 内 容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（3）企業間関係論、戦略的提携の視点 内 容：産業構造、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（4）競争のない新たな市場開拓 ブルー・オーシャン戦略 内 容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念
第15回	テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題 内 容：
試 験	期末試験を行う。また、課題レポートの提出を求める。詳細については改めて説明する。

〔科目名〕				〔単位数〕		〔科目区分〕	
自治体経営論				2 単位		専門科目 基幹科目	
〔担当者〕		〔オフィス・アワー〕				〔授業の方法〕	
昆 忠彦 Kon Tadahiko		時間:授業の前後など随時 場所:教室、非常勤控室				講義及び演習	
〔科目の概要〕							
「自治体経営」が取り上げる領域は学際的かつ広範である。自治体において「経営」の概念が認識されたのは、1980 年代以降に欧米諸国で形成された NPM(New Public Management)理論の影響が多大である。日本では主に行政改革の側面から、民間企業の経営手法の援用で活発化させた。また、それ以前には、地域開発に伴う「地域経営」や大都市における「都市経営」なども、自治体の事業者的の側面に着目した概念も広義の「自治体経営」の範囲ととらえることができる。加えて、2000 年代の自治体による公共サービスの民営化(PFI、市場化テスト、指定管理者制度等)がすすむと、公共空間の境界線が不鮮明なものになりつつあることから自治体経営は「公共経営」としての傾向が強くなってきている。 この講義では、少子高齢化など社会変化の過渡期にある日本の自治体の制度とその運営を、民主・公平・効率・協働という視座に立って解説する。そして、自治体には地域に根差した政策の立案、決定し、地域資源を最適な活用を実施していかなければならないが、そこには「経営」の観点が不可欠で、その意義と方策を地方自治全体の文脈で総合的に検討していく。 具体的には、国と自治体の関係、自治体の政府形態、分権改革、少子高齢化と自治体の再編、自治体ガバナンス(NPM 等)、住民協働(PPP)、参加と情報公開、自治体職員の人材育成、首長や議会議員の経営能力などを解説しながら、最近の自治体経営を巡る動向を紹介し、学際的観点から経営改革プロセスを明らかにし、その未来を考える。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
自治体経営は、様々な領域と深く結びついている。なぜならば、地域に生きる人々の豊かな生命を育み、新たな地域社会の未来を創造するための営みに関係しているからである。地域の一人ひとりが主役であり、潜在的な可能性を引き出し、日々成長を続け、新しい自己と地域社会を創造していくのである。そのために、なにが必要となるか、関連諸科学の成果を活用し究明していく。したがって、この科目では、地域社会において重要な役割を果たしている自治体経営について、主として行政改革、地域経営、地域ガバナンス、地方創生、地域リーダーシップ等の観点から把握し理解を深める。そのために、自治体経営に隣接する諸科学の成果をも援用しつつ、学際的にアプローチする予定である。この科目を学ぶことによって、地域社会に生きる一市民として、自治体経営の役割と意義を再検討することが期待される。							
〔科目の到達目標〕							
【最終目標】							
自治体経営(改革)をすすめるにあたって、(中間目標を踏まえたうえで)ソーシャルイノベーション、リーダーシップ、地域経営などの諸観点から課題解決策の提案、提言ができる。							
【中間目標】							
地方自治の制度、マネジメントに関する基礎的な知識を身に着け、自治体経営の実態を知ることによって、将来の改革展望についての認識ができる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
					○		

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 スライドや各種資料を活用して、できるだけ分かり易い講義に努めます。	
〔教科書〕 オリジナルの資料を使用します。なお、授業中に指定図書、参考書等の読書を課する場合があります。	
〔指定図書〕 遠藤哲哉『「地域経営」における価値創造：新しい自治体経営を志向して』* 現代図書	
〔参考書〕 武藤博己編著『自治体経営改革』* ぎょうせい 今井照『図解地方自治のしくみ』* 学陽書房 兼子仁『変革期の地方自治法』* 岩波書店 神野直彦『地域再生の経済学』* 中公新書 曾我謙吾『日本の地方政府』 中公新書 今井照『地方自治講義』* ちくま新書 今井照『自治体のアウトソーシング』* 学陽書房 矢口芳生『地域経営論』* 農林統計出版 鈴木豊、兼村高文『公会計講義』* 税務経理協会 井熊均、石田直美『地域の価値を高める新たな官民協働事業のすすめ方』* 学陽書房 武田公子『データベースで読み解く自治体財政』自治体研究社 根本祐二『「豊かな地域」はどこがちがうのか』* ちくま新書 山内道雄・岩本悠・田中輝美『未来を変えた島の学校』岩波書店	
〔前提科目〕 特にありません。（「行政経営論」、「自治体政策法務論」、「地域経営論」と関連します。）	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 簡易なレポートの提出、もしくは小テストを行う予定です。 評価は、試験、レポート、小テスト、授業中の参加態度、意見等を総合的に見ます。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 少子高齢化、情報化、国際化の進展という社会変化のなか、どのような地域社会を構想していけばよいか、自治体の経営という観点から検討いたします。自治体経営の課題や動向を深めることにより、実際の自治体のうごき、地域づくりにも言及いたします。受講を契機に自治体の現場や関連書籍に触れ、知見を広めてください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： イントロダクション(自治体経営論の射程) 内 容： 授業のすすめ方を説明したうえで、1980 年以降の自治体経営論の視座を俯瞰する。 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体経営の課題と再編 内 容：国と自治体関係、自治体の政府形態 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体経営の課題と再編 内 容：分権改革と市町村合併、少子高齢化と自治体の再編 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。

第4回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 内 容:自治体ガバナンス(条例制定と政策法務) 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第5回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 内 容:自治体のアウトソーシング 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第6回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 内 容:住民協働、参加と情報公開 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第7回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 内 容:自治体職員の人財育成と公選職(首長と議会)の経営能力 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第8回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と再編 内 容:中間まとめ、自治体の制度運営と自治体経営のふりかえり 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第9回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:地方財政状況調査データベースの活用 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第10回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:自治体の公会計改革 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第11回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:自治体の外部化、民間委託(PFI、市場化テスト、指定管理者制度等) 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第12回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:行政評価、事業評価 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第13回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:事例研究① 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第14回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営(改革)のすすめ方 内 容:事例研究② 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第15回	テーマ(何を学ぶか):自治体経営の課題と展望 内 容:総括(まとめ) 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
試 験	期末レポートを実施します。

〔科目名〕 地域社会論Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 佐々木 てる		〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:大学院棟 1201 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。 青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 110 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。 本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年度も「地域×アート」の可能性に注目する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできるようになるだろう。 扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。							
〔科目の到達目標〕 最終目標:地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭礼やイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。 中間目標:身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会的な地域社会学的な視点である。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。							

また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。	
〔教科書〕 特になし	
〔指定図書〕 特になし	
〔参考書下記の本を参照することが望ましい。〕 松本茂章 2024『地域創生は文化の現場から始まる』学芸出版社 野田邦弘 2020『アートがひらく地域のこれから』ミネルヴァ書房 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016 年]	
〔前提科目〕 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で、評価を行う。また中間時に確認テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。 ・コメントは授業の内容を理解しているのか、自分なりの意見を持てているのかを重視して、評価をおこなっている。また一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。 ・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている(目安として5回欠席は単位認定不可としているが、すべて出席したからといって、単位が取得できるわけではない)。 ・カードリーダーによる出席は 5～10 分程度とし、間に合わない場合は欠席もしくは遅刻となる。原則 2 回の遅刻で欠席扱いとする。カードリーダーに間に合わず、遅刻した場合は、授業終了後に申し出ることとする。 ・カードリーダーの出欠だけおこない授業を欠席したことが発覚した場合、事情聴取の上、悪質性が高いと判断されれば、当該科目は F となる可能性がある。 ・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 ・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。 A～F の評価は本学の規定に準ずる。	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と向き合う 内 容： ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)： 青森文化を考える視点：グローバル文化を考える 内 容： 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。 教科書・指定図書

第3回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識① 内 容:基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識② 内 容:現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼① 内 容:都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。特に「地域×アート」の可能性を考える。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼② 内 容:青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③ 内 容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ。 内 容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域メディアとねぶた 内 容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ねぶた祭を支える人々、組織 内 容:地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:他の祭礼との比較 内 容:前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事 内 容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書

第 13 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設②:造形物としてのねぶたアート 内 容:前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設③:文化の外部化 内 容:地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には青森市外で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、その地域活性化の可能性を行う。「祭」の地域での役割を考える。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の未来にむけて。 内 容:講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書
試 験	筆記試験を実施